

○森林組合資金取扱順序ノ件

明治四十四年七月林第三〇一三號農商務、逓信、大藏三次官ヨリ各府縣知事 日本勸業銀行總裁 各府縣農工銀行監理官へ通牒

今般森林組合資金ニ郵便貯金ヲ運用スルコト、相成右資金取扱順序別紙ノ如ク相定メタルニ付テハ今後右ニ依リ森林組合事業ニ低利資金供給ノ利便ヲ與ヘラル、様配意相成度

(別紙)

森林組合資金取扱順序

- 第一條 本件資金ハ森林組合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル用途ニ充ツル爲必要アル場合ニ供給方取扱ハルヘシ
- イ 森林法施行規則第三十八條ニ依リ認可ヲ受ケテ施行スル事業ノ經營費
- ロ 前號事業ノ經營ノ爲ニ生シタル舊債ノ償還費
- 第二條 前條ロ號ニ對スル資金ノ供給ハイ號ニ對シ供給シテ殘金アル場合ニ限ルモノトス
- 第三條 森林組合ヨリ資金借入ノ申請アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ事業財務ノ狀況資金需要ノ緩急及資金借入ニ關スル組合總會ノ決議並豫定ノ時期ニ於テ償還ヲ爲シ得ルコト確實ナリヤ否ヤ等必要ト認ムル事項ヲ審査シ供給金額ヲ豫定シ三萬圓以上ノモノニ在テハ日本勸業銀行ニ三萬圓未滿ノモノニアリテハ當該府縣ノ農工銀行ニ協議シ當該銀行ノ意見書ヲ添へ農商務大藏兩大臣ニ申請シ指揮ヲ受ケテ之ヲ決定ス
- 第四條 前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ其都度之ヲ農商務大藏兩大臣ニ報告シ且當該銀行ニ通牒セラルヘシ
- 第五條 前條ノ指揮申請書ニハ左ノ事項ヲ具セラルヘシ
 - 一 組合ノ名稱及住所並資金借入ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル代表者ノ氏名及住所
 - 二 組合員數
 - 三 組合ノ地積及總地價
 - 四 前項ノ決定ヲ爲シタルトキハ其都度之ヲ農商務大藏兩大臣ニ報告シ且當該銀行ニ通牒セラルヘシ

八條ノ認可書並事業費總額
資金借入ノ申請アリタル額及其ノ用途並府縣知事ニ於テ査定シタル額
前號査定ノ要旨
財產目錄其ノ他組合ノ資産狀態ヲ知ルニ足ルヘキ材料
償還ノ方法及期限資金ノ効果其ノ他資金ノ供給上參考トナルヘキ事項並之ニ關スル府縣知事ノ意見

第五條 舊債償還ノ場合ニアリテハ舊債ノ額利率及償還方法

- イ 債券ノ種類引受價格ハ別ニ之ヲ定ム
 - ロ 債券ノ償還年限ハ三十箇年 据置期間トモ)以內トス
 - ハ 農工銀行代理貸付ノ手數料割合ハ日本勸業銀行三分農工銀行七分トス
 - ニ 日本勸業銀行直接貸付ノ利率年五分三厘農工銀行代理店貸付ノ利率ハ三萬圓未滿ハ五分八厘三厘以上ハ五分三厘トシ各利率共据置年賦期間共同率トス
 - ホ 日本勸業銀行ハ三十箇年(据置期間共)以內ノ年賦償還ノ方法ニ依リ貸付ヲ爲スコト
 - ヘ 日本勸業銀行及農工銀行ハ調査費ヲ徵收スルコトヲ得ス
- 第六條 明治四十四年六月農第七二七二號通牒耕地整理事業及産業組合資金取扱順序第四條第八條乃至第十八條及第二十條ハ本取扱順序ニ之ヲ準用ス但シ第九條中「第五條第一項」第十條及第十一條中「第五條」トアルハ本取扱順序第三條トス

○森林組合低利資金供給ノ件

林第一三〇七號
大正三年四月局長通牒

森林組合低利資金供給上ノ都合有之候條該資金ノ供給ニ關シ府縣農工銀行ト協議ノ結果供給支障ナシト認メラレタルトキハ直ニ日本勸業銀行ニ對シ府縣農工銀行ト協議ノ日供給スヘキ金額當該森林組合及供給ニ關シ農商務大藏兩大臣ノ指揮ヲ請ハムトスル旨御通知相成度依命此段及通牒候也

御料地ノ保安林編入ニ關シ貴縣ニ於テ實測又ハ其他ノ調査ヲ要セラル、場合ニ在リテハ當局ニ於テモ取扱上都合有之候ニ付豫メ當局地方部局へ御通知相成度且又森林法第十二條ニ依リ御通知ノ儀モ爾今貴縣ヨリ直ニ當局地方部局へ御通知相成候様致度此段豫メ及御照會候也

追テ客年二月十三日付第一一六四號ヲ以テ保安林ノ編入調査并ニ解除ノ理由書等御送付方及御照會置候處是亦本文同様御取扱相成度

御料局三十三第一一六四號 明治三十五年五月二十日御料局長照會

(前略)森林法第十七條ノ場合ニ於ケル御通知ノ義モ前御照會同様直接當局地方部局へ御通知相成度

(參照)森林法第十二條ハ前掲ノ通 舊森林法第十七條保安林ノ編入解除ハ官報及府縣公報ヲ以テ告示シ且其ノ森林ノ所有地ニ通達スヘシ

改正森林法第二十三條主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之レヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ

地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ 同法第三十七條ノ二主務大臣ハ命令ノ定ムル處ニ依リ本章ニ規定シタル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

○内務省主管地保安林内被害枯損木竹處分ノ件 卯甲森第一一四號 明治三十六年一月十七日

甲號 栃木縣知事伺 内務省所管地ニシテ保安林ニ編入セラレタル土地内ニ生スル枯損木竹被害木竹處分ハ經伺ヲ要セス處分候モ差支無之哉相伺候也

乙號 山林局長回答 受第八六六號 明治三十六年一月廿八日 (前畧)保安林監督上ニ就テハ御意見ノ通經伺ハ要セス縣限リ處分差支無之候條此段回答候也

○保安林ノ擇伐方法ニ關スル件 山發第八三二號 明治四十年九月十九日局長通牒

舊森林法施行當時ニ在リテハ保安林ノ擇伐方法ニ點狀群狀若ハ列狀ノ區分ヲ附シ取扱來候處新法實施以後ハ總テ此等ノ區分ヲ認メス曩キノ群狀及列狀擇伐ニ該當スルモノハ局部ノ皆伐トシテ取扱フコトニ相成候條爲念此段及通牒候也

○保安林合同施業ニ關スル件 林第六六三二號 明治四十二年十二月二十日局長通牒

保安林ハ一々所即一筆毎ニ施業ヲ爲サシムルヲ原則トシ隨テ保安林編入調査ハ一筆毎ニ作成スヘク唯保安林ノ目的ヲ害セスト認ムルトキハ二ヶ所即二筆以上ヲ併合シテ一施業ヲ爲サシムルヲ得ルモ此ノ場合ニ於テハ保安林ノ所有者同一ナルヲ要スル義ニ有之候處往々所有者ノ異ナルモノニ對シ併合施業ヲ爲サシムヘク編入調査作成ノ向モ有之取扱上支障尠カラサル義ニ付所有者異ナル場合ハ各別調査作製相成様致度依命此段及通牒候也

○市町村カ保安林編入解除ヲ申請スル場合ノ件 林第五三九號 明治四十二年二月五日局長通牒

市町村カ保安林ノ編入解除ヲ申請スルニハ市町村會ノ議決ヲ經サレハ市町村長ヨリ申請シ得サル筋ニ候へ共往々是等ノ手續ヲ履踐セサルカ爲徒ラニ照復ヲ重ヌルモノ有之處分上不便不尠ニ依リ爾今保安林編入解除御上申ノ際ハ特ニ市町村長ノ申請ニ係ルモノニ對シテハ決議濟ノ旨ヲ副申セラル、カ然ラサレハ議決書寫添付相成様致度依命右通牒ス

○保安林拂下處分通知ノ件

特第五〇〇號 明治四十三年三月二十二日東京大林區署長ヨリ回答

三月二十一日付收四第八八號ヲ以テ保安林拂下處分通知ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ御意見通拂下指
令ヲ發スルト同時ニ指令濟ノモノ可及御通知候條右了承相成度此段及回答候也

○保安林ヲ國有ニ買上タル場合其ノ解除ハ森林會ニ附議セサルノ件

明治四十三年四月一日局長ヨリ陸軍省經理局長ニ回答

陸軍省ニ於テ私有保安林ヲ買收シ小銃射擊場ノ新設ヲ要シ候處右保安林ノ解除ニ付テ地方森林會ニ附
議スルトキハ自然工事着手ノ時日ヲ遅延シ計劃上支障不尠ヲ以テ此際其ノ儘陸軍ニ於テ買收ノ上解除
ノ請求ヲナス場合ハ地方森林會ニ付議スルヲ要セサルヘク云々
御見込ノ通地方森林會ニ附議ヲ要セサルモノト被存候
右回答ス

○保安林ニハ管理方法届ヲ省略スルノ件

明治四十三年八月二十二日 内林第六一五號德島縣知事照會

森林法施行規則第三條ニ依ル管理方法届ハ保安林ナルト其ノ他ノ供用林ナルトニ拘ラス公共團體又ハ
社寺ニ屬スル森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付總テ届出ヲ要スルモノト被認候ハ共保安林ニ就
テハ森林法第二十七條ニ依リ施業若ハ保護ノ方法等ヲ指定セラレタル場合ハ其命令條件ニ基キ植伐ヲ
ナサ、ルヘカラス且否ラサルモノハ同第二十六條ニ依リ知事ノ許可ヲ得ルニアラサレハ木竹ノ伐採其
他ノ作業ヲ爲ス能ハサル力故ニ豫メ管理ノ方法ヲ定ムルモノ何等ノ實効ナシト被認候ニ付保安林ニ就テ
ハ管理方法届ヲ省署セシメ可然哉何分ノ御回答相煩度候
御見込ノ通省署セラル、モ差支ナシ尤モ解除ノ場合ハ一定ノ期間内ニ相當届出テシムル據取計相成
度右照會ノ上回答ス

○不要存置國有保安林賣拂後保安林解除ニ關スル件

山發第八〇一號 明治四十三年十月二十一日局長通牒

從來國有保安林ニシテ賣拂後忽チ保安林ノ解除ヲ爲スモノアリテハ買得者チシテ不當ノ利得ヲ得セシ
ムルノ結果ヲ來シ處分上ノ不公平ヲ來スヲ以テ貴廳ニ於テ保安林調査未濟ノモノハ向後其ノ調査ノ濟
ムヲ待テ賣拂ニ付スルコトニ致スヘク就テハ林野賣拂處分上ノ都合モ有之ニ付不要存置ニ屬スル國有
保安林ニシテ保安林調査未濟ニ係ルモノハ此際特ニ繰合セ急速其ノ調査ヲ施行セラル、様御配意相成
度
追テ賣拂處分ノ必要ニ依リ貴廳ノ調査ヲ待ツノ暇ナキモノアリタル場合ハ便宜大林區署ニ於テ調査
ヲ遂ケ其ノ調査ヲ貴廳ノ參考トシテ移牒スルコトモ可有之ニ付右ノ場合ハ速ニ相當ノ審査ヲ盡サル
、様致度
右通牒ス

○保安林解除ノ場合元國有保安林ナリシヤ否ヤ調査ノ件

林第五三一八號 明治四十三年十月三十一日局長通牒

不要存置ニ屬スル國有保安林調査方ノ義ニ付テハ本月二十一日付山發第八〇一號ヲ以テ及通牒置タル
次第モ有之候處尙今後保安林解除具申ノ場合其保安林カ元國有ニ屬セシモノナルトキハ解除調査適宜
ノ箇所へ(元國有保安林ニシテ何年何月拂下ノ旨當該大林區署ヨリ通知アリタル分)ト附記相成様致度
右依命通牒ス

○保安林編入ニ關シ官報ニ掲載方ノ件

山第一四七四號 明治四十四年七月十二日局長通牒

今般農商務省令第二十六號ヲ以テ保安林編入ニ關スル處分其他貴官ニ委任相成タル處右ニ基キ貴官ニ
於テ爲シタル處分ニシテ森林法第二十三條ニ依リ官報ニ告示ヲ要スルモノハ從來ノ告示例參照貴官ニ
於テ官報原稿整理ノ上直接印刷局へ廻付可相成儀ニ付了知相成度右通牒ス

○同上ノ件ニ關シ印刷局ヨリ注意ノ件

山第一五〇九號 明治四十四年七月十七日局長通牒

本年農商務省令第二十六號第一條ニ依リ貴官ニ於テ保安林編入不編入ノ處分ヲ爲シタル場合ノ官報告示方ニ付本月十一日付山第一四七四號ヲ以テ通牒ニ及置タル處尙印刷局ヨリ注意ノ次第モアリ左記各項參照相成度

追テ本年農商務省令第二十六號施行ノ後同省令ニ依リ貴官ニ委任サレタル各事項ニ付大臣ノ處分ニ係ルモノ官報ニ告示セラル、モノアルモ右ハ同省令施行前處分セラレタルモノ、告示ニ過キサルニ付了知相成度爲念申添フ

記

一官報原稿ハ楷書ヲ以テ判明ニ墨書シ從來ノ告示例ニ依リ調製シ印刷局官報部編輯課宛發送ノコト

一告示ノ日付ハ官報掲載ノ日ヲ以テスルコト

一告示番號ハ官報ニ掲載セラル、告示ト他ノ告示トノ間告示番號及告示年月日ノ前後ヲ生スルノ虞アリ且官報原稿ノ都合上一件原稿ヲ分割掲載スルコト又ハ原稿受付ノ翌日ノ官報ニ掲載シ兼ヌル都合モアルヘキニヨリ官報ノ保安林告示ニ限り特別ノ告示番號(例ヘハ何々府縣告示保編第何號)ヲ付シ且少告示番號ハ官報掲載ノ順ヲ追ヒ印刷局ニ於テ便宜付番ノコトヲ豫メ承知セラレ度コト

○保安林特別補償ニ關スル件

林第四六六號

大正五年三月一日

栃木縣知事宛

山林局長

明治四十五年農商務省令第十七號保安林特別補償規則第一條ニ所謂既墾トハ明治四十五年三月以前ニ開墾セラレタルモノヲ指スヤ否ノ義ニ付疑問ノ向有之標及開墾地明治四十四年度治水事業開始以來一

般林野開墾ニ對スル取締嚴密ヲ加ヘ荷モ治水ニ關係アリト認メラル、地域ニ對シテハ豫メ一定制限ヲ附シアルヲ以テ保安林編入ヲ要スヘキ土地ニ對シ開墾ノ行ハル、カ如キコト無之筈ナリ然レトモ天災其他特殊ノ事由ニ依リ全規則施行後ニ於ケル開墾地ヲ治水上保安林ニ編入スルヲ要スル場合ナシトセサルヲ以テ同條既墾地ノ意義ハ之ヲ廣義ニ解シ明治四十五年四月以後ノ開墾地ヲモ包含スルコトニ省議決定相成候條右諒知相成度尤モ補償ヲ必要トスル既墾地ノ保安林編入處分ハ直ニ補償金豫算ノ經理ニ影響スヘク之カ取扱方ニ付テハ已ニ大正四年府縣林務主任官會議ニ於テ特ニ注意致置候次第モ有之候得共尙其ノ編入處分ニ付テハ關係書類ヲ添付シ豫メ當局ヘ御打合相成様致度依命此段及通牒候也

林業獎勵

樹苗下附規程

栃木縣令第三八號
大正三年七月二十一日

- 第一條 本縣樹苗圃ニ於テ育成シタル樹苗ハ左記ノ順序ニ依リ之ヲ下附ス
 - 一 保安林ニ造林スルモノ
 - 二 公有地ニ市町村ノ造林スルモノ
 - 三 私有地ニ造林スルモノ
- 第二條 下附スヘキ樹苗ノ種類及數量ハ前年十一月末日迄ニ告示ス
- 第三條 願書ハ第一號様式ニ依リ前年十二月末日迄ニ左ノ區別ニ從ヒ市、町村長ヲ經由シ差出スヘシ
 - 一 保安林ニ造林スルモノハ其ノ所有者又ハ管理者
 - 二 公有地ニ造林スルモノハ其ノ市、町村長
 - 三 私有地ニ造林スルモノハ其ノ造林者
- 第四條 樹苗下附ハ本規定第一條ニ基キ願書到達ノ順序及事業方法等ヲ調査ノ上之ヲ定ム
- 第五條 樹苗下附ヲ受クル者植栽前ノ樹苗取扱、植栽方法其他ニ付注意セラレタル要件ハ之ヲ遵守スルモノトス
- 第六條 樹苗下附出願後其ノ願書記載事項ニ變更ヲ生シタル場合ハ其ノ旨直ニ届出ツヘシ
- 第七條 植栽了ハリタルトキハ直ニ第二號様式ノ届書ヲ差出シ第三號様式ノ標柱ヲ建設スヘシ
- 第八條 植栽後五ヶ年間ハ手入保護ノ爲毎年一回以上蔓切、下刈ヲ實行シ火災、虫害其ノ他災害ニ罹リタルトキハ直ニ其ノ旨報告スヘシ
- 第九條 本規程ニ依リ成立セシ森林ノ間伐及主伐ヲ行ハントスルトキハ着手十五日以前其ノ旨届出ツ

第十條 本規定ニ依リ成立セシ森林又ハ其ノ一部ニ對シ賣買讓與交換、若ハ質權抵當權ヲ設定シタルトキハ第四號様式ニ依リ双方連署ノ上五日以内ニ届出ヲ爲シ其ノ權利ノ承繼者ハ本規程ヲ遵守スル義務ヲ有スルモノトス

第十一條 左ニ該當スルモノハ樹苗ノ返納ヲ命シ又ハ樹苗時價二倍以下ノ金額ヲ徵收スルコトアルヘシ

- 一 本規程ニ違反シタルトキ
 - 二 樹苗ヲ分與交換又ハ賣却シタルトキ
 - 三 樹苗ヲ放任シ枯損セシメタルトキ
- 第一號様式 樹苗下附願
- 郡(市)町村大字字地番地目
一 植栽地面積、歩
此植栽樹苗杉何本 扁柏何本
右ハ大正年月植栽致度候間樹苗下附相成度此段相願候也
大正 年 月 日
- 右出願人住所 氏 名 印

知事宛

第二號様式 植栽終了届

大正年月日付、第、號ヲ以テ御指令相成候樹苗植栽終了致候ニ付此段及御届候也

大正 年 月 日

三七八

第三號樣式

標柱 三寸以上 長 六尺以上 (用材隨意)
表面 樹苗下附造林地
側面 年月日

所有者(管理者)

住 所 氏 名 印

第四號樣式

森林、土地賣買(讓與交換質權抵當權設定)届
郡(市)町村大字字地番地目 反別
右ハ何郡(市)町村大字何誰ニ(賣買讓與交換質權抵當權設定致候モ權利承繼者ハ縣令第、號樹苗下
附規程ヲ遵守可致此段及御届候也
年 月 日

舊所有者 (質權抵當權設定者)

住 所 氏 名 印

新所有者 (質權抵當權者)

住 所 氏 名 印

○社寺造林補助規程

栃木縣令第三十九號
大正三年七月二十一日

- 第一條 社寺ニ於テ其ノ境外地ニ杉、扁柏、赤松、落葉松、榎、樺、櫻、栗、桐ノ造林ヲナシタルト
キハ豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ標準ニ依リ補助金ヲ交附ス但シ官國幣社及縣社ハ此限ニ在ラス
- 一 杉、扁柏、榎、樺、櫻、栗、桐ヲ植栽シタルトキハ一千本ニ付キ金二圓以下
- 二 赤松、落葉松、ヲ植栽シタルトキハ一千本ニ付キ金二圓五十錢以下
- 第二條 造林ノ成績不良ニシテ成林ノ見込ナキモノ又ハ不適當ナル造林ト認メタルトキハ補助金ヲ交
付セス
- 第三條 樹苗植栽ノ數量ハ左ノ標準ニ依ル
杉、扁柏、赤松、葉落松、榎ハ一町步三千本以上六千本以下桐ハ一町步一千本以上三千本以下栗、
櫻、樺ハ數量ヲ定メス
- 第四條 願書ハ第一號樣式ニ依リ前年七月末日迄ニ神職住職ヨリ市町村長ヲ經由シ差出スヘシ但シ出
願後ニ於テ願書ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ直ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第五條 造林ヲ終了シタルトキハ直ニ適當ノ箇所ニ第二號樣式ノ標柱ヲ建設シ第三號樣式ノ終了届ヲ
差出スヘシ
- 第六條 補助金ノ指令ヲ受ケタルトキハ第四號樣式ノ補助金請求書ヲ差出スヘシ
- 第七條 樹苗植栽後五ヶ年間ハ毎年一回以上適當ノ時季ニ於テ蔓切下刈ノ手入ヲ爲スヘシ
- 第八條 本規定ニ基キ成立セシ森林ニ對シ間伐、主伐ヲ行ハムトスルトキハ着手十五日日前第五號樣式
ノ届出ヲ爲スヘシ
- 第九條 本規定ニ依リ成立セシ森林又ハ其ノ一部ニ對シ賣買、讓與、交換、若ハ質權、抵當權ヲ設定
シタルトキハ第六號樣式ニ依リ雙方連署ノ上五日以内ニ届出ヲ爲シ其ノ權利ノ承繼者ハ本規程ヲ遵
守スル義務ヲ有スルモノトス

三七九

本規程ハ大正三年ニ限リ第四條中前年七月末日迄下アルヲ大正三年十二月末日迄トス
明治四十三年栃木縣令第七十九號ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式 造林補助願

一金、
內譯
金、杉何本
金、扁柏何本

(市)町村	天	字	字	地	番	地	目	段	別	樹種名	一町步當植栽本數
計											

右土地ニ於テ大正年月植栽致度候ニ付キ補助金下附相成度此段相願候也
年 月 日

郡(市)町村大字 何社寺

社司社掌住職 氏

氏子崇敬者檀徒信徒總代 氏

、、 氏
、、
、、 名 名
印 印 印 印

知事宛

備考

段別欄ニハ臺帳段別ヲ記載セス實測又ハ見込面積ヲ記載スヘシ

第二號樣式

標柱 方三寸以上
長六尺以上 (用材隨意)

表面 社、寺、造林補助地

側面 年月日

何神社(寺院)
社司社掌住職

氏

名

第三號樣式

造林終了届

大正年月日附テ以テ出願致候補助願地ニ對スル造林月日ヲ以テ終了致候條此段及御届候也
年 月 日

郡(市)町村大字 何社寺

知事宛

第四號様式

補助金請求書

一金、

但郡(市)町村社寺造林補助金大正年月日栃木縣指令林第號許可指令ノ分
右請求候也

年 月 日

社司社掌住職 氏
氏子崇敬者檀徒信徒總代

、 氏

、

、 名

印 印

三八二

知事宛

第五號様式

間伐(主伐)届
左記森林手入ノ爲メ間伐(左記ノ森林主伐)致度候ニ付キ此段及御届候也

年 月 日

郡(市)町村大字 何社寺
社司社掌住職 氏
氏子崇敬者檀徒信徒總代

、 氏

、

、 名

印 印

郡(市)町村大字 何社寺
社司社掌住職 氏
氏子崇敬者檀徒信徒總代

、 氏

、

、 名

印 印

知事宛

郡(市)町村大字字地番地目段別

、 、 、 、 、 (數地番ニ亘ルトキハ列記ス)

第六號様式

森林土地賣買(讓與、交換、質權、抵當權、設定)届

郡(市)町村大字字地番地目段別

、 、 、 、 、 (數地番ニ亘ルトキハ列記ス)

右ハ郡(市)町村大字何誰ニ賣買讓與交換質權抵當權設定致候モ權利承繼者ハ栃木縣令第、、號社
寺造林補助規程ヲ遵守可致候條此段及御届候也

年 月 日

郡(市)町村大字
舊所有者 何社寺

社司社掌住職 氏
氏子崇敬者檀徒信徒總代

名 印

三八三

新所有者 住 所 氏 名 印
氏 名 印

知 事 宛

○公有林野造林獎勵規則 農商務省令第十五號

明治四十三年農商務省令第四號公有林野造林獎勵規則左ノ通告正ス 農商務大臣子爵 大 浦 兼 武

公有林野造林獎勵規則

- 第一條 公有林野ノ造林ヲ獎勵スル爲農商務大臣ハ本則ノ定ムル處ニ依リ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ左ニ掲クル府縣ノ費用及補助金ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス
 - 一 公有林野ノ管理區分案、入會整理案、及施業計劃案編成ニ要スル費用但シ府縣有又ハ郡有林野ニ關スルモノヲ除ク
 - 二 公有林野ニ於テ市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ行フ造林、防火線造設ニ要スル費用ニ對スル補助金
- 第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ前年度三月末日マテニ農商務大臣ニ差出スヘシ
 - 一 第二條第一號ノ獎勵金ニ付テハ管理區分案、入會整理案、及施業計劃案ノ施行豫定書及費用豫算書
 - 二 第二條第二號ノ獎勵金ニ付テハ別記第一號様式ノ補助豫定書及補助金交付ニ關スル規程

第四條 前條ノ添付書類ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但左

- 一 補助豫定書中施業面積又ハ施業經費ノ増減
- 二 補助豫定書中總額ニ變更ナキ補助豫定金額ノ變更
- 三 補助ノ目的及補助率ニ變更ナキ補助金交付ニ關スル規程ノ變更
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ別記第二號乃至第七號様式ノ事業成績表及決算表ヲ翌年度八月末日マテニ農商務大臣ニ提出スヘシ
- 第六條 府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但支出スヘキ見込ナキトキハ其ノ旨ヲ決算表ニ付記スヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
- 前項ニ依リ支出スヘキ殘額ニ付テハ第三條ノ規程ヲ準用ス
- 第七條 府縣ニ於テ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付アリタルトキハ其ノ金額及事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 前項ノ金額中本則ニ依リ交付シタル獎勵金ニ相當スル金額ハ其ノ還付アリタル年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス
- 前項ノ金額ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但大正三年度ニ限り第三條中前年度三月末日マテアルヲ大正三年六月末日マテトス
本則施行前府縣ニ於テ補助金下附ノ指令ヲ爲シタル地警保護工事ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル
(別記)第一號様式

第三號樣式

大正 年度公有林野入會整理案編成成績表
第一共同使用地

所有別	整理案編成		整理		面積	
	件數	面積	造林豫定地	開墾豫定地	使用區域ヲ割當タル採草地	何々計
市町村有						
部落有						
市町村共有						
部落共有						
累計						

注意

一 「共同使用地」トハ一市町村又ハ一部落ノ所有地ヲ當該市町村又ハ部落住民ノ共同使用セル土地ヲ云フ
二 「整理面積」トハ法定ノ手續ヲ經テ共同使用ヲ廢止シタル面積ヲ云フ
第二 入會地

所有別	整理案編成		整理		面積
	件數	面積	分割	賣却	
市町村有					
部落有					
市町村共有					
部落共有					
累計					

注意

一 「整理面積」トハ法定ノ手續ヲ經テ關係團體間ニ分割、賣却、讓與、交換、使用區域割當等ノ方法ニ依リ關係團體間ノ入會關係ヲ整理シタル面積ヲ云フ
二 「分割」トハ共有入會地ノ共有者タル市町村又ハ部落間ニ分割シタルモノヲ云フ
第四號樣式 大正 年度公有林野施業計劃案編成成績表

所有別	施業案		施業要領		管理方法		施業面積
	件數	面積	件數	面積	件數	面積	
市町村有							

譯 獎勵金	内 國庫交付		補助金 總額	豫 定 額	決 算 額	差 引 不 過 足	箇 所 數	積面別種業施及種樹				樹種 扁柏 町 杉 町 松 町 桐 町 松 桐 町 桐 檜 町 何 々 町 計								
	前年度繰越額	本年度交付額						計	中 林	矮 林	喬 林		施業種別							
							補助ヲ受ケタル團體數													

第七號様式 大正 年度公有林野造林及防火線造設補助金決算表

合 計	防 火 線		林 計				又ハ大字其ノ 他部落ノ所有 ノニ屬スル土 造林			
	計	臨時	固 定	計	工 伐 採 跡 地	人 無 立 木 地	天 然	計	工 伐 採 跡 地	人 無 立 木 地

府縣負擔額

備

考

注意 一、備考欄ニハ國庫交附獎勵金差引殘額ノ處置其ノ他參考事項ヲ記スヘシ

○公有林野造林獎勵規則取扱順序

林第一九六一號 大正三年六月四日

山林局長

栃木縣知事宛

今回公有林野造林獎勵規則改正相成候處右取扱方左記ノ通テ知相成度依命此ノ段通牒候也

追テ從前ノ通牒中本通牒ト抵觸スルモノハ自然消滅ノ義ト了知相成度申添候也

一 規則第二條第一號ノ補助金ハ管理區分案、入會整理案、及施業計劃案等ノ編成事務ノ爲府縣ニ吏員ヲ特置シタル場合ニ限り毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ俸給及旅費ノ半額以内ヲ交付スルモノトス

二 同上「入會整理案編成」トハ林野ノ共同使用關係ヲ解消シ若ハ關係團體間ニ入會林野ヲ分割、賣却、讓與、交換又ハ使用區域ヲ割當テ以テ入會整理關係ヲ整理スル爲當該林野ニ付必要ナル調査ヲ行ヒ且ツ之カ整理ニ關スル計劃ヲ定ムルヲ云フ

三 規則第二條第二號ノ補助金ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ例ニ依リ之ヲ交付ス

(一) 大字其ノ他ノ部落ノ所有タリシモノニシテ明治四十三年四月以後新ニ市町村ノ所有ニ移シタル土地ノ造林

(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林

(ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林

(ハ) 天然造林

造林費ノ四分ノ一以内

(二) 市町村ノ所有ニ屬スル土地ノ造林

(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林

一町歩十圓以内ニシテ且造林費ノ五分ノ一以内

(ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林

一町歩八圓以内ニシテ且造林費ノ五分ノ一以内

(ハ) 天然造林

造林費ノ五分ノ一以内

(三) 府縣郡市町村組合町村組合又ハ大字其ノ他部落ノ所有ニ屬スル土地ノ造林

(イ) 無立木地ニ於ケル人工造林

一町歩八圓以内ニシテ且造林費ノ六分ノ一以内

(ロ) 伐採跡地ニ於ケル人工造林

一町歩六圓以内ニシテ且造林費ノ六分ノ一以内

(ハ) 天然造林

造林費ノ六分ノ一以内

(四) 防火線 費用ノ六分ノ一以内

前各號ノ補助金ニ對スル府縣ノ負擔額ハ國庫補助額ト同額以上トス

四 規則改正前府縣ニ於テ補助金下附ノ指令ヲ爲シタルモノニ對スル補助率ハ明治四十四年四月林第一二六〇號通牒ノ例ニ依ル

三九六

○特置吏員費ハ專務者ヲ置ク場合ニノミ補助スルノ件
林第二二一五號 大正三年六月二十日

山林局長

栃木縣知事宛

本年六月四日林第一九六一號ヲ以テ公有林野造林獎勵規則第二條第一號ノ補助金ハ府縣ニ吏員ヲ特置シタル場合ニ限ル旨及通牒置候處右ハ公有林野ノ管理區分、入會整理及施業案編成ニ要スル專務ノ技術員ノ増置ヲ公有林野ノ整理開發上最モ切要ノコト、認メタル義ニ付可成本年度ヨリ直ニ豫算ヲ増額シ專務者ヲ増員シテ業務ノ進捗ヲ圖ラル、樣致度尙既定ノ豫算内ニ於テ從來ノ吏員ヲ振替ヘ專務者ヲ置ク場合ノ如キハ補助ノ限リニ無之候間御舍ノ上可然措置相成度依命此段及通牒候也

○獎勵金使用殘額繰越ハ認可ヲ要セサルコト
林第三一四一號 大正三年九月十九日

山林局長

栃木縣知事宛

九月十四日付林第一〇四三號ヲ以テ大正二年度公有林野造林獎勵金使用殘額繰越方申請相成候處右殘額繰越シ使用ノ義ハ規則第六條ニ於テ府縣ノ義務トシテ規定セラレタル處ニシテ明治四十四年五月林第一三七一號通牒第二項ニ依リ之ニ對スル事業豫定書ヲ提出セララル、ニ於テハ別ニ認可申請ヲ要セザル義ト了知相成度此段及通牒候也

○公有林野造林獎勵金及荒廢地復舊補助金相互流用及増額ニ關スルコト
林第一三一七號 明治四十四年五月六日

山林局長

栃木縣知事宛

公有林野造林獎勵金及荒廢地復舊補助金ニ付テハ之カ相互流用並増額交付等左記ノ通ト了知相成度右依命通牒ス

記

- 一 明治四十三年三月農商務省令第四號公有林野造林獎勵規則及本年四月農商務省令第十六號荒廢地復舊補助規則ニ依リ交付セラレタル獎勵金又ハ補助金ニ付府縣ノ補助施行上其ノ増額ヲ要スル場合ニ於テハ左ノ例ニ依リ取扱ハルヘシ
 - 一 國庫ヨリ交付シタル獎勵金又ハ補助金ノ一方ニ増額ヲ要シ他ノ一方ニ餘裕ヲ生シタル場合ニ於テハ右規則第三條第二項ニ依リ事由ヲ具シ豫定書ノ變更認可及科目更正ヲ申請セララルヘシ
 - 二 前號ニ依リ増額認可ヲ受クルモ尙不足ノ爲ニ國庫交付金ノ増額ヲ必要トスル場合ニ於テハ事由ヲ具シ右規則第三條第二項ニ依リ豫定書ノ變更認可ト共ニ國庫交付金ノ増額交付ヲ申請セララルヘシ此ノ場合ニ於テ豫算ノ都合上増額申請額ノ全部又ハ一部ヲ交付スル能ハサルトキハ次年度ニ於ケル獎勵金又ハ補助金ノ交付ヲ指令スルコトアルヘキニ依リ右指令額ニ對シテハ府縣ニ於テモ次年度ニ於ケル府縣補助金交付ノ指令ヲ爲シ事業施行上ノ便宜ヲ計ラルヘシ
- 二 公有林野造林獎勵規則及荒廢地復舊補助規則各第五條ニ依リ次年度以後ニ於テ補助又ハ支出ノ義務アル金額ニ付テハ其ノ補助又ハ支出ニ關スル豫定書ヲ各規則第三條ニ依ル豫定書ノ樣式ニ準シ作成シ同條ニ依ル豫定書ト同時ニ提出セララルヘシ
- 三 府縣ニ於テ繼續事業ニ對シ補助スル爲國庫獎勵金又ハ補助金交付ノ承認ヲ申請スル場合ニ於テハ

三九七

五年ヲ超ヘサルモノニ限リ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約トシテ相當金額ノ交付ヲ承認セラ
ル、答ニ付キ各規則豫定書ニ準シ繼續事業補助豫定書ヲ作成シ之ニ關スル補助條件並繼續補助
事業計劃ノ説明書ヲ添ヘ上申セララルヘシ

○防火線ニ補助ノ範圍

林第二四七八號 明治四十四年五月廿六日

山林局長

栃木縣知事宛

公有林野造林獎勵規則第二條ノ防火線ニ對スル國庫交付ノ獎勵金取扱ニ關シテハ四十三年六月二十一
日山發第四八〇號ヲ以テ通牒之次第モ有之處今回左記ノ通決定シタルニ付了知相成度右依命通牒ス

左記

- 一 國定防火線ニ付テハ人工造林地及天然造林地ノ何レニ對シテモ補助スルコトヲ得
- 二 人工造林地ノ國定防火線ハ現ニ造林シタル場所ニ於ケルモノ、ミニ限ラス造林計劃區域ノ境界
ニ沿フテ設ケタル場合モ亦之ヲ補助スルコトヲ得
- 三 臨時防火線ニ付テハ人工造林地ニ對シ新植ノ際又ハ新植後六ヶ月以内ニ設ケタルモノニ付一箇
所一回限リ補助スルコトヲ得

○天然造林補助ノ範圍

林第二五三八號 明治四十四年六月十六日

山林局長

栃木縣知事宛

一 國庫補助金ハ今後天然造林ノ爲左ノ各號ノ一ニ該當スル費用ヲ支出セルモノニ對シ之ヲ交付ス但同
一ノ個所ニ對シテハ一回限トス

- (一) 天然下種ニ適スル個所ニ於テ下種ヲ容易ナラシムル爲行フ雜草荊棘ノ刈拂ニ要スル費用
 - (二) 天然下種ニ適スル個所ニ於テ下種ヲ容易ナラシムル爲行フ地表ノ掘起ニ要スル費用
 - (三) 既生稚樹保育ノ爲ニ行フ雜草荊棘ノ刈拂ニ要スル費用
 - (四) 既生稚樹ノ疎立セル部分ニ對スル補植ニ要スル費用
- 二 前項ノ國庫補助金額及府縣ノ負擔額ハ明治四十四年四月林第一二六〇號依命通牒ノ例ニ依ル但一町
步當リニ關スル金額ノ制限ハ之ヲ除ク

○公有林野造林補助規程

栃木縣令第四十九號
大正三年九月四日

第一條 市町村、市町村組合又ハ町村組合ノ事業トシテ左記各號ノ造林ヲ實行シ又ハ防火線ヲ造設シ

タルトキハ本規程ニ依リ補助金ヲ交付ス

- 一 大字其ノ他ノ部落ノ所有タリシモノニシテ明治四十三年四月以後市町村ノ所有ニ移シタル土地
ノ造林
 - 二 市町村ノ所有ニ屬スル土地ノ造林
 - 三 縣、郡、市町村組合、町村組合又ハ大字其ノ他ノ部落ノ所有ニ屬スル土地ノ造林
 - 四 前各號ノ造林地ニ對スル防火線ノ造設
- 第二條 補助金ハ左ノ區別ニヨリ之ヲ定ム
- 一 第一條第一號ノ土地ノ造林
 - (イ) 無立木地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町步ニ付金二十四圓以内ニシテ造林費ノ二分

- ノ一以內
- (ロ) 伐採跡地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町歩ニ付金二十圓以內ニシテ造林費ノ二分ノ一以內
- (ハ) 天然造林ニ對シテハ造林費ノ二分ノ一以內
- 二 第一條第二號ノ土地ノ造林
 - (イ) 無立木地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町歩ニ付金二十圓以內ニシテ造林費ノ五分ノ二以內
 - (ロ) 伐採跡地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町歩ニ付金十六圓以內ニシテ造林費ノ五分ノ二以內
- 三 天然造林ニ對シテハ造林費ノ五分ノ二以內
 - (イ) 第一條第三號ノ土地ノ造林
 - (イ) 無立木地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町歩ニ付金十六圓以內ニシテ造林費ノ三分ノ一以內
 - (ロ) 伐採跡地ニ於テ人工造林シタルモノハ植栽面積一町歩ニ付金十二圓以內ニシテ造林費ノ三分ノ一以內
- 四 (ハ) 天然造林ニ對シテハ造林費ノ三分ノ一以內
 - 第一條第四號ノ防火線ニ對シテハ造林費ノ三分ノ一以內
- 第三條 補助金ノ指令ハ事業終了後實地調査ノ上左ノ事項ヲ參酌シ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲナスモノトス
 - 一 申請書及事業方法書ト相違ナキヤ
 - 二 事業費ノ多寡

- 三 成績ノ良否
- 第四條 縣ヨリ別ニ補助金又ハ苗木ノ交付ヲ受ケタルモノハ其ノ金額又ハ苗木ノ相當價格ヲ控除ス
- 第五條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ第一號様式ノ申請書ニ實測圖及第二號様式ノ事業方法書ヲ添付シ前年七月末日迄ニ差出スヘシ
- 第六條 前條ノ申請書ヲ差出シタル者其ノ事業ヲ完了シタルトキハ直チニ第三號様式ノ届書ヲ差出スヘシ
- 第七條 補助金ノ指令ヲ受ケタルトキハ直ニ見易キ箇所ニ第四號様式ノ標柱ヲ建設スヘシ
- 第八條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ植栽後枯損ニ對スル補植ヲ爲シ且五ヶ年間毎年一回以上ノ手入ヲ行フヘシ
- 第九條 補助金ノ交付ヲ受ケタル後不正ノ行爲ヲ發見シ又ハ前條ニ違反シタルトキハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシメ仍將來補助金ヲ交付セサルコトアルヘシ
- 第十條 本規程ニ依リ成立セシ森林ノ間伐及主伐ヲ行ハムトスルトキハ着手十五日以前ニ第六號様式ノ届書ヲ差出スヘシ
- 第十一條 本規程ニ依リ補助金ヲ受ケタル者ハ第七號様式ノ臺帳ヲ備ヘ事業施行ノ都度面積經費其ノ他ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第十二條 本規程ニ依リ成立シタル森林若ハ立木ヲ處分シ又ハ其ノ權利ヲ移轉シタルトキハ第八號様式ニ依リ其ノ承繼者ト連署ノ上遲滞ナク届出ツヘシ
- 第十三條 前項權利ノ承繼者ハ本規程ニ定メラレタル義務ヲ承繼ス
- 第十三條 本規程ニ依リ成立セル森林ニシテ火災、虫害其ノ他ノ被害アリタルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ

附 則

本年ニ限り第五條中七月末日迄トアルヲ十月末日迄トス

明治四十五年三月栃木縣令第二十四號公有林野造林補助規程ハ之ヲ廢止ス
第一號樣式

公有林野造林補助金交付申請書
何郡何町(村)大字何字何々番山林(原野)
臺帳(實測)面積 何町何段何畝步

人	工	造	林	天	然	造	林	防
施業面積	樹種及本數	經費	規程該當條項	林種及面積	施業ノ種類	經費	規程該當條項	種類
何町何段何畝步(別紙實測圖ノ通り)	杉何本扁柏何本計何本	金何程但一町步ニ付金何程	第一條第一號及第二條第一項ノイ	雜木林(赤松林)何町何段何畝步 (別紙實測圖ノ通り)	何ノ爲雜草木等刈拂(地表搔起等) (何苗何本補植)	金何程但一町步ニ付金何程	第一條第二號及第二條第二項ノハ	固定(臨時)防火線 延長何間幅何間

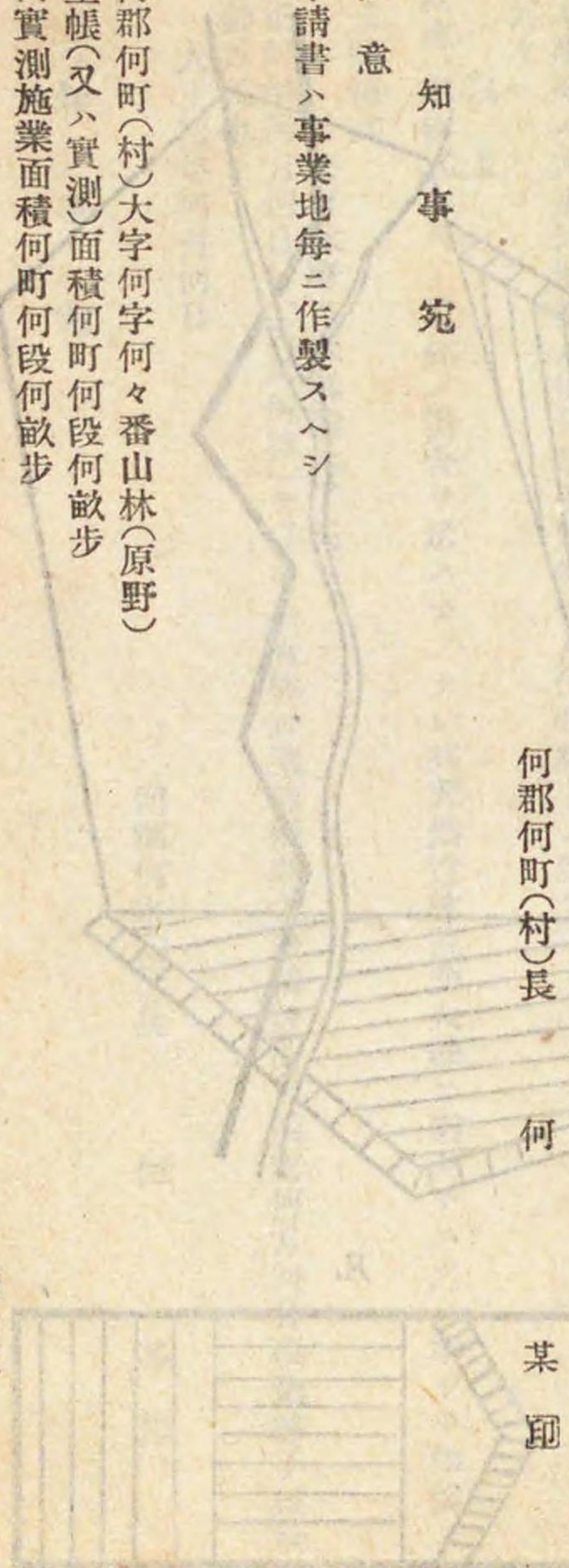
火	線
坪設費	何坪
規程該當條項	第一條第一號第二條第四項

右ハ本町(村)所有地ニ候處(本町(村)大字何々所有地ニ候處何々町(村)(組合)ニ於テ)前記ノ事業實行可致候ニ付相當補助相成度大正三年 月 日 縣令第 號ニ依リ申請候也
大正何年何月何日

知事宛

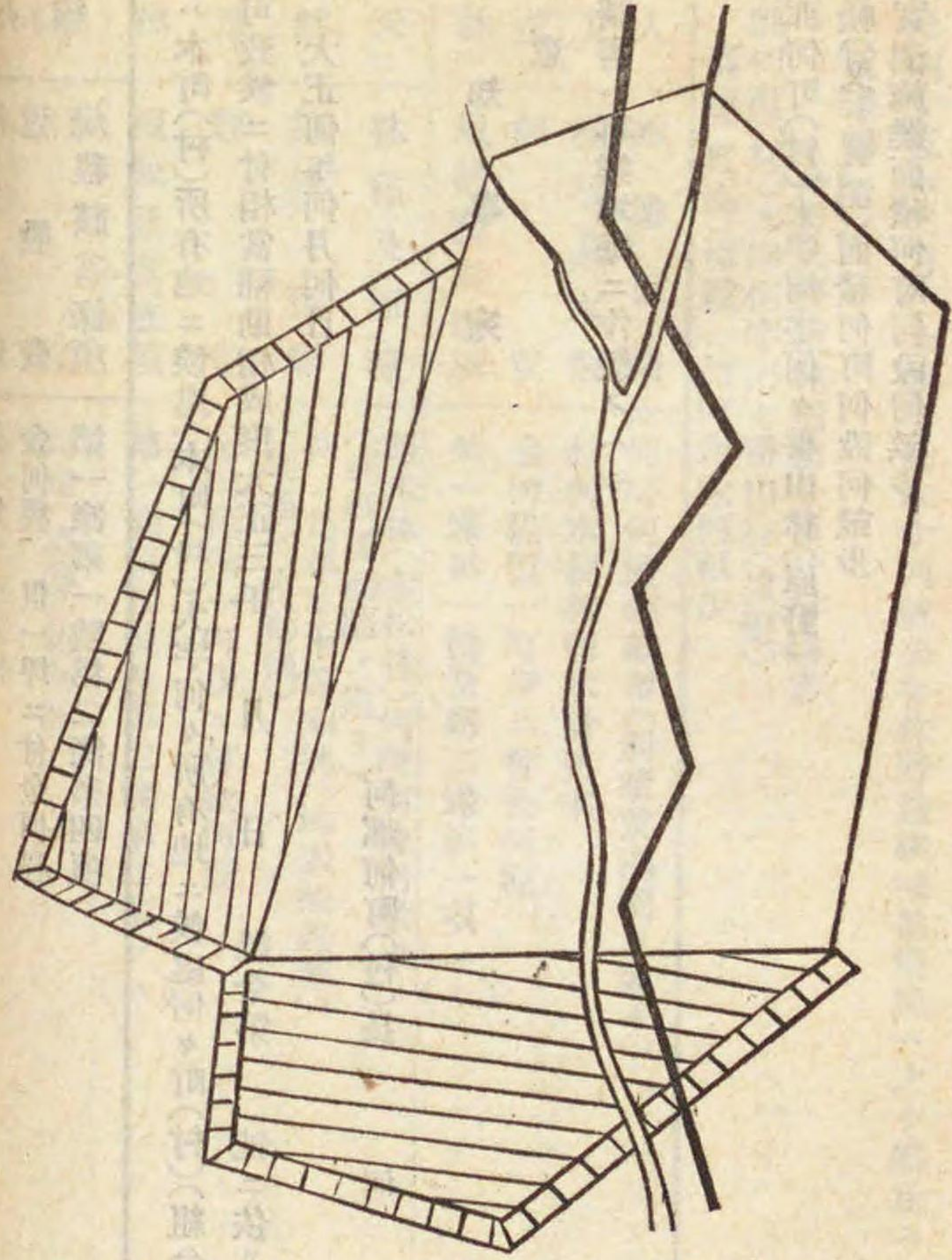
注意
申請書ハ事業地毎ニ作製スヘシ

何郡何町(村)大字何字何々番山林(原野)
臺帳(又ハ實測)面積何町何段何畝步
內實測施業面積何町何段何畝步

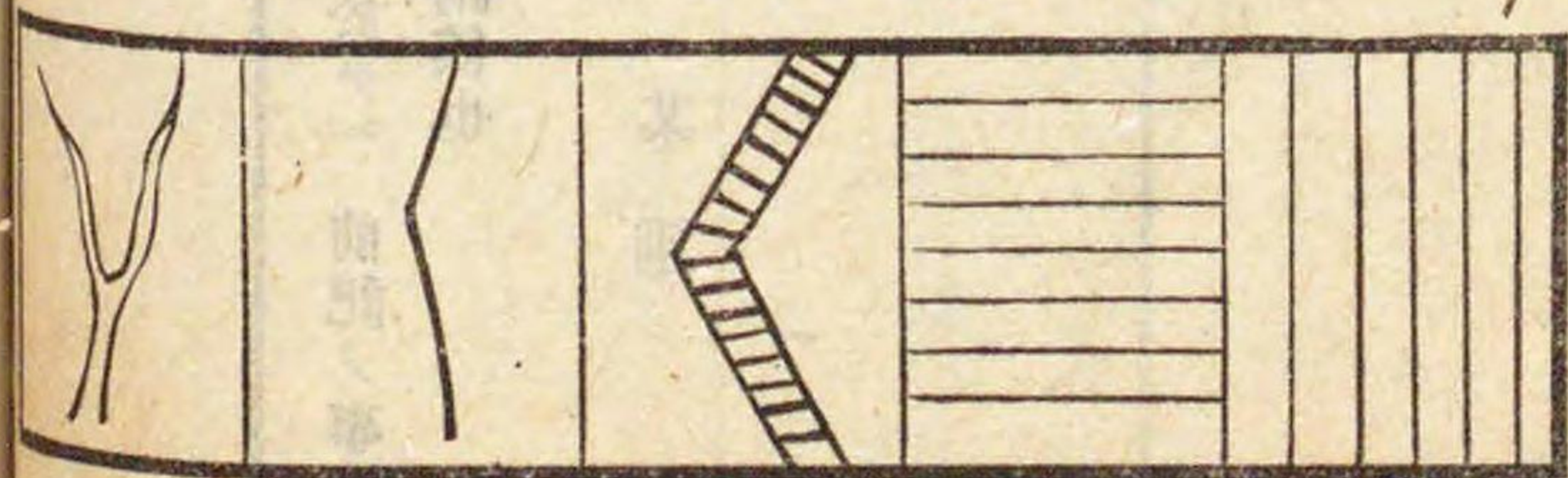


事業地實測圖

何百分の一



例 凡



河(藍色)川
道(赤色)路
防火線
申本年
請年度
補何
植年
地度

四〇四

第二號樣式

事業方法書

- 一 地拵ハ平刈(坪刈)又ハ線刈)ヲナシ造林地内ニアル一切ノ支障物件ハ之ヲ伐採除去(燒棄)ス或ハ現在ノ儘特ニ地拵ヲナサス
- 一 苗木ハ凡ソ長サ何尺何寸根廻リ何寸内外ノモノヲ使用ス但シ苗木ハ自家養成又ハ購入ノ見込
- 一 植付ハ一町歩ニ付何千本則チ樹間何尺列間何尺トス
- 一 何苗ハ山麓及澤通り何苗ハ山腹通りニ植栽ス
- 一 造林ニ要スル人夫ハ各戸ニ賦課出役セシム(又ハ人夫ハ雇ヒ上ケ使用ス)
- 一 本事業ハ大正何年何月何日着手何年何月何日終了ノ豫定
- 一 何々

以上

(注意)本樣式ハ人工造林ノ場合ヲ示スモノナレ共天然造林及防火線ニ對シテハ之ニ準シテ作製スヘシ

第三號樣式

公有林野造林事業終了届

大正何年何月何日付(何第何號)ヲ以テ公有林野造林補助金申請致置キ候處何月何日事業終了致候ニ付及御届候也

大正何年何月何日

何郡何町(村)長

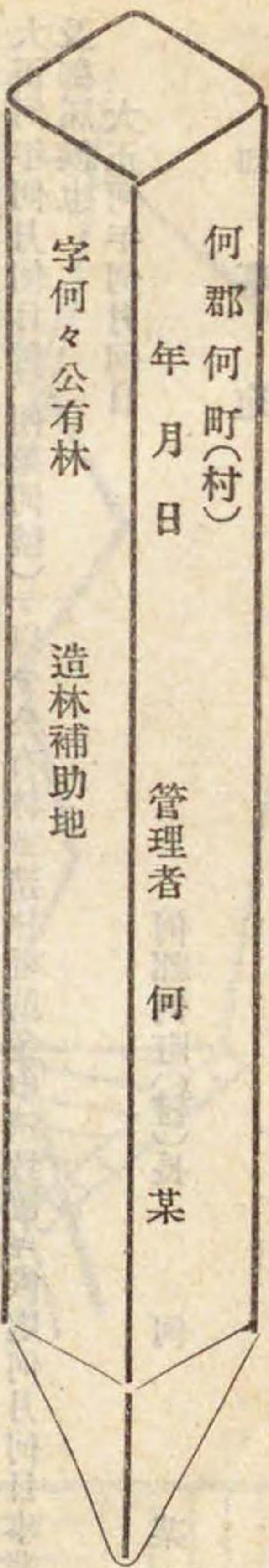
何

某 印

知事 宛

四〇五

第四號樣式



方三寸以上 長六尺以上(用材適宜)

第五號樣式

郡(市)町(村)大字何々公有林地番
面積何町步
右ハ大正何年何月補助金ノ交付ヲ受ケタル造林地ニ有之候處今回何月何日ヨリ間伐(主伐)致度候ニ付
此段及御届候也
大正何年何月何日
知事 宛
郡(市)町(村)長 何 某 印

第六號樣式

簡	所	郡(市)町(村)大字字地番	何町何反步
全面積臺帳	何町何反步	植栽面積	何町何反步
總經費	何町何反步	補助金	何 圓
樹種	杉何本 扁柏何本	植栽着手年月日	何年何月何日着手 何年何月何日終了
摘	何年何月地摺ヲ爲シ此經費何圓 苗木ハ某所ヨリ購入此金何圓 植栽後枯損扁柏何本ニ對シ何年何月補植ヲ行フ此經費何圓 第一回手入トシテ何月雜草木等刈拂ヲナス此經費何圓 何年何月何々ノ被害ヲ受ケ何々ノ善後策ヲナセリ 何年何月第一回ノ間伐ヲナス 何々何々	要	

第七號樣式

立木土地賣買(讓與、交換、質權設定)届
何郡何町(村)大字何字何々番面積何町何段何畝步
、、、、、、、、、、(數地番ニ亘ルトキハ列記ス)
右ハ何郡何町(村)大字何某ニ賣買(讓與、交換、質權抵當權設定致候モ買受人(讓與人、交換收得者、質權者)ハ大正三年月縣令第號公有林野造林補助規程ヲ遵守可致此段及御届候也
大正何年何月何日

舊所有者(質權設定者) 何郡何町(村)長 何 某 印
新所有者(質權者) 何 某 印

知事宛

住所

何

某印

四〇八

○公有林野造林獎勵補助年限ノ件

山第八〇四號 明治四十三年八月十日

栃木縣知事宛

山林局長

公有林野造林獎勵上ニ關スル將來ノ見込ニ件別紙甲號ノ問合ニ對シ乙號ノ通回答致候ニ付御參照相成度
右通牒ス

(乙號)

山第八〇四號 明治四十三年八月十日

山林局長

滋賀縣知事

七月二十九日付森發第二三二號ヲ以テ公有林野造林獎勵上ニ關シ照會ノ趣了承右ハ未確定ニ屬スル事項ナレトモ當局ノ見込ハ大体左記ノ通ニ付御了知相成度
右回答ス

記

一 補助ハ明治四十三年度ヨリ向約十ヶ年間繼續セシメ度見込

二 四十四年度以降ノ補助額ハ明治四十三年三月二十六日山發第二〇三號通牒四十三年度配付標準額ヲ下ラサル見込ナルモ貴縣ニ於ケル本事業ノ成績ニ鑑ミ該金額ヲ要セスト認ムルトキハ減額交付セラル、コトアルヘシ

(甲號) 森發第二三二號 明治四十三年七月二十九日

滋賀縣知事

山林局長宛

公有林野造林獎勵金ニ關スル件

本年三月省令第四號ニ依リ御下附可相成公有林野造林獎勵金ハ年々議會ノ協賛ヲ經テ御決定可相成義ニシテ明年度以後ニ於テ下付セラルヘキ獎勵金額ハ未定ノ義ト存候ヘ共豫算編成ノ都合上御見込ニテモ承知致度義有之候ニ付今後繼續セラルヘキ豫定年數及明年度本縣ニ交付セラルヘキ獎勵金見込額等承知致度候間至急何分ノ義御回示相成度
右及問合候也

○公有林野造林獎勵規則第二條第一號(改正前)疑義ノ件

內四丙第二五四號 明治四十五年六月

(前略)

福井縣知事照會

記

一 統一ノ結果町村有ニ歸屬セル土地所々ニ散在セルカ又ハ隣接地ノ境界犬牙錯綜セル等ニ對スル整理ノ爲個人有ノ土地ヲ分合交換寄附買上タルモノ
二 部落有財產統一ニ當リ他部落ト負擔ノ均衝ヲ計ル爲個人有ノ土地ヲ提供村有ニ歸屬セルモノ
以上ノ二項ハ該規則第二條第一號ノ土地ニ對スル補助率ニ準スルコト
山林局長回答
規則第二條第一號ハ大字其ノ他ノ部落ノ有ニ係ルモノニアラサレハ該當セサルモノニ付例示ノ如キ場合ハ同條第二號ニ依リ補助スヘキモノト承知相成度

四〇九

○國庫補助金交付ニ付大字及部落ノ範圍

山發第四八〇號 明治四十三年六月局長通牒

明治四十三年四月以降ノ市町村又ハ町村組合ノ造林事業ニ對シテ公有林野造林獎勵規則發布前府縣ニ於テ造林補助ノ指令ヲ發シタルモノト雖國庫ノ助金ヲ下附スルハ差支ナシ
公有林野造林獎勵規則第二條第三號ニ所謂市町村若ハ大字其ノ他部落ノ所有ニ屬スルモノトハ起業町村又ハ其ノ部内ノ大字其ノ他部落ノ所有ニ屬スルモノノミニ限ラス廣ク他ノ市町村町村組合又ハ他市町村内ノ大字其ノ他部落ノ所有ニ屬スルモノヲ包含ス

○天然造林補助範圍ニ付疑義ノ件

京都府知事照會

甲號 明治四十四年六月 林第六七號
本月十六日付林第二五三八號ヲ以テ公有林野獎勵規則中改正ノ件ニ付御通牒相成テ承本府下ニ於テハ已生稚樹保護並ニ天然下種等ニ障害トナルヘキ無價格ノ荒木ヲ伐採スヘキ必要有之候處之レ等ハ御通牒ノ各項中ニ包含スヘキモノト相心得可然哉(以下畧)
乙號 同年七月山第一三六八號局長回答

右荒木伐採ハ本年六月十六日林第二五三八號通牒各項中ニ包含セラレサルモノト了知相成度

○造林地補助ニ關スル林務主任會議ノ決定事項

林第三三六七號 明治四十五年七月六日局長通牒

過般當省ニ開催シタル府縣林務主任會議ノ席上各主任ヨリ希望又ハ質義アリタル事項ハ左記ノ通決定シタルニ付御了知相成度

(三)補助事業ニ關シ市町村等カ他ヨリ購入セル苗木其ノ他ノ材料ヲ使用シタル際其ノ材料ニ對シ補助金ヲ下付スルノ件

相當費額ヲ査定シ補助金ヲ下付シ差支ナシ

(四)補助事業ニ付市町村カ夫役ヲ以テ事業ヲ施行シタルトキノ夫役ヲ相當費額ニ査定シ補助金ヲ下付スルノ件

差支ナシ

(五)補助事業ニ付豫算補助ヲ爲スノ件

豫算補助ヲ爲スヘキモノニ非スト雖査定シタル事業費ニ對シ補助スルハ差支ナシ

(六)府縣ノ補助金交付規程ハ改正ナキ限國庫補助金交付申請書ニ添付セサルノ件

差支ナシ

左記各項ハ各復書ノ事由ニ依リ其ノ希望ヲ容レ難シ

(五)公有林野造林獎勵事業國庫補助歩合ヲ規則第二條第一號ニ該當スルモノハ三分ノ一以內第二號ニ該當スルモノハ四分ノ一以內第三號ニ該當スルモノハ五分ノ一以內ニ改ムルノ件

本件獎勵事業國庫補助歩合ハ現行制度以上ニ増加スルノ必要ヲ認メス

(六)府縣郡ノ造林事業ニ對シテモ公有林野造林獎勵事業トシテ相當補助金ヲ下付スルノ件

尤モ急務トスル市町村及其ノ組合ノ森林經營ヲ獎勵スルノ趣旨ナルヲ以テ本希望ハ之レヲ容レ難シ

(七)公有林野造林獎勵事業ニ於ケル地盤保護工事ヲ削除シ之ヲ荒廢地復舊費補助事業トシテ實行スルノ件

地盤保護工事ハ造林上必要ナル事業ナルヲ以テ經營者カ市町村又ハ其ノ組合ナル以上ハ公有林野造林獎勵事業トシテ他ノ造林事業ト共ニ補助スルヲ可トス

(五)部落有林野統一後ノ林野手入費ニ對スル補助ノ途ヲ開クノ件
公有林野造林獎勵事業ニ依リ相當補助スルヲ以テ本件手入費ニ對シ別ニ補助スルノ必要ヲ認メ
ス

○天然造林事業ニ對シ國庫補助ニ關スル件

山第一九六號 明治四十四年十月十日局長通牒

天然造林事業費ニ對シ國庫補助金交付方ノ件ニ付別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答シタルニ依リ了知
相成度
右通牒ス

申號梨林發第二三六號

本年六月十六日付林第二五三八號ヲ以テ天然造林ニ對シ國庫補助金交付方ノ件御通牒相成候處同但書
ニ依レハ同一ヶ所ニ對シテハ一回限リト有之右ハ同一箇所ノ同一事業ニ對シテハ一回限リト解釋シテ
可然哉

假令地表ノ掘起チナシテ天然下種ヲ容易ナラシメタルモノニ一度補助金ヲ下付シ爾後數年ニシテ生立
セル稚樹保育ノ爲雜草荊蕪ノ刈拂或ハ疎立セル部分ニ對シ補助金ヲ爲ス等ノ場合ニ於テハ更ニ其箇所ニ
對シ補助スルノ必要有之様認メラレ候ニ付テハ同一箇所ト雖如此其ノ事業ノ異ナル場合ニハ再ヒ補助
金ヲ下付スルモ差支ナキ御見込ナルヤ差懸リ疑義有之候條至急何分ノ御回答相煩度此段及照會候也
乙號山第一九六號 明治四十四年十月
右ハ貴見ノ通同一事業ニ對シ一箇所一回限リ補助スヘキ趣旨ニ付了知相成度右回答ス

○紀念學林設置ニ關スル訓令

栃木縣訓令第四號 明治三十八年一月廿一日

日露ノ開戦ハ振古未嘗有ノ時變ナリト雖モ國家終極ノ目的ヲ達シテ東洋ノ平和ヲ克復セシムコトハ野
俱ニ疑ハサル所ナリ而シテ國家力將來負フヘキ責任市町村カ今後盡スヘキ義務ノ益重且大ナルヘキハ
必然ノ結果ニシテ之ニ應スル經營ノ端ヲ今日ニ起スハ一ハ紀念ヲ後昆ニ垂レテ裕式セシメ一ハ他日ニ
應スル國民ノ覺悟ヲ喚起スル等時機其宜シキヲ得タルモノトス地方團體ノ情況ヲ察スルニ諸般ノ事業
中普通教育ニ關シテハ今日既ニ費用ノ重キニ堪ヘサルノ傾向ヲ見ルモ教育ハ國家ノ進運ヲ來シ吾人ノ
福利ヲ増ス所以ノ源泉ナレハ戰後一段ノ擴張ヲ要スヘキハ勿論ノ事ナリトス市町村ノ經濟ヲ緩和シ教育ノ基礎ヲ
シテ教育ノ必要止ムヘカラサルニ於テハ學校基本財産ヲ確立シテ市町村ノ經濟上相當ノ企畫タルノミナラス
鞏固ニセサル可ラス願フニ植林ノ事業タル如上ノ旨趣ニ適ヒ教育上經濟上相當ノ企畫タルノミナラス
縣下急要ノ事業タルヲ認ム之ヲ施ス簡ニシテ費少ク兒童スラ之カ經營ニ與ルヲ得ヘシ依テ紀念學林造
設規程ヲ定メ其要旨ヲ訓示セシ
森林ハ直接ニ建築薪炭ノ用材製造ノ原料ヲ供給シ國土ノ風致生民ノ衛生ヲ保持スルノミナラス間接ニ
土質ヲ改良シ氣候ヲ調和シ或ハ水源ヲ涵養シ洪水暴風ヲ防遏シ若ハ砂石ノ崩壞簸揚ヲ遮止スル等其裨
益枚擧ニ遑アラズ然ルニ樹木ノ植栽ヲ努メシテ濫伐ヲ事トスルノ弊比年馴致シ爲ニ水旱交々至リ其
慘害ヲ被ルコト類ナリトス森林愛護ノ思想ヲ養ヒテ宿弊ヲ今日ニ絶チ國家百年ノ長計ヲ立ツルハ目下
ノ急務ナリトス小學校兒童ヲシテ植樹ニ從事セシムルニ於テハ森林愛護ノ思想實業尊重ノ常習ヲ形成
シ時弊ヲ匡濟スルノミナラス國民トシテ必要ナル性格ヲ與フルヲ得ヘシ
國民教育ノ隆替ハ實ニ國運消長ノ關スル處ナリ皇師連戰連勝以テ國威ヲ宣揚スル所以ノモ教育ノ普
及興リテ力アルハ内外ノ認ムル所ナリ而シテ教育ノ普及ヲ圖ランニハ經濟ノ力ヲ要ス之ヲ統計上ニ徵
スルニ近時教育ノ普及ニ伴ヒ其費用頓ニ増加シ明治三十六年度縣内公學費ヲ日清戰役當時即十年前ノ
公學費ニ比スレハ殆ント四倍ニ達セリ此ヲ以テ將來ヲ推算セハ今日其ノ準備ヲ要スルヤ切ナリ況ヤ戰
勝後ノ教育費ニ於テハ翻テ經濟ノ現況ヲ顧ルニ戰費多端爲ニ市町村ノ財源ヲ制限セラレ教育上ノ施
設ニシテ中廢又ハ延期セサル可ラサルノ場合ナシトセス此レ止ムヲ得サル一時ノ現象ナリト雖モ民力

限アルニ於テハ宜シク其度ヲ制シ裁酌時ニ從ハサル可ラス紀念學林ニシテ經營宜シキヲ得ハ早キハ十五年遅キモ三十年ニシテ其効果ヲ見ルヘシ事茲ニ至ラハ民費ヲ要セスシテ優ニ小學校ヲ維持シ教育施設上遺憾ナキニ至ラン

小學校ノ本旨ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルニ在リ植樹ノ教育上ニ於ケル價值ハ伴華輕跳ノ念ヲ抑ヘテ着實自重ノ心ヲ養フノミナラス天產物ノ生長スルヲ見テハ快樂ノ感審美ノ情ヲ誘發シテ崇高純潔ノ恩念ヲ起スヘク其他勤勞忍耐自治ノ常習共同責任隣保相愛ノ德社會結合國家生存ノ理ヲ悟ラシメ延イテ忠君愛國ノ精神ヲ育成スル等教育上至大ノ効果ヲ現ハサン

之ヲ要スルニ紀念學林ノ建設タル縣下ノ事業ニ鑑ミ教育經濟ノ二方面ヨリ見テ緊要ヲ感スルノミナラス之ヲ實施スル好機ハ今日ヲ措イテ復他アラサルヲ認ム而シテ之カ實施ノ局ニ當ルモノハ深ク土地ノ狀況ヲ考ヘ遠ク將來ノ利害ヲ究メ情實ニ拘リ煩勞ヲ厭ヒ失敗ヲ半途ニ招キテ永遠ノ計ヲ誤ラサランコトヲ要ス造林植樹ノ通弊ハ一度植栽スレハ之ヲ放棄シテ自然ノ生長ニ委シ森林保護ノ周到ナラサルニ在リ紀念學林建設ニ際シテ尤モ注意ヲ茲ニ加ヘ地方森林ノ模範トシテ耻チサル様經營センコトヲ望ム

○紀念學林造設規程

第一條 戰役ノ紀念トシテ國民教育ノ資料ニ供シ兼テ實業ヲ尊重シ森林ヲ愛護スル思想常習ヲ興ヘ併セテ學校經濟ニ資センカ爲メ市町村立小學校ニ於テハ紀念學林ヲ造設スヘシ但既設ノ樹栽地ニシテ木規程第四條ニ牴觸セサルトキハ此限リニアラス

紀念學林ハ各小學校毎ニ之ヲ設クルモノトス但數小學校ヲ通シテ設クル場合ニ於テハ各小學校毎ニ植栽區域ヲ定ムヘシ

第二條 紀念學林ノ植栽ハ毎年一回以上適當ノ季節ニ於テ尋常小學校ニ在リテハ第三學年以上高等小學校ニ在リテハ第一學年以上ノ兒童ヲシテ之ニ從事セシムヘシ

植栽日ハ祝祭日休日又ハ戰役若クハ其小學校ニ緣故アル日ヲ選定スヘシ

第三條 紀念學林ハ成ルヘク小學校附近ニシテ教育及兒童ノ作業上便利ノ地タルヲ要ス

小學校附屬地又ハ市町村有地ニシテ植栽ニ相當スルモノアラハ之ヲ紀念學林ニ充用スヘシ

前項ノ林地ナキ場合ニハ官有地ヲ拂下ケ若クハ民有地ヲ買受ケ又ハ之ヲ借受クル等便宜ノ方法ニ從フヘシ

第四條 紀念學林ノ面積ハ兒童一人分凡五坪トシテ毎年ノ植栽反別ヲ算出シ之ニ其樹本ノ輪伐齡ヲ乘シタル以上ノ林地ヲ設クヘシ但シ毎年ノ植栽地ニ差支ナキ限リハ一時ニ本文ノ面積ヲ設ケサルモ妨ケナシ

第五條 植栽スヘキ樹木ハ其ノ種類ト地質トノ關係ヲ調査シ校長市町村長協議シテ之ヲ選定スヘシ

第六條 植栽ニ要スル苗木ハ小學校ニ於テ之ヲ仕立テ兒童ヲシテ播種培養施肥ノ事ヲ見習ハシムヘシ但苗木ノ生育未タ移植期ニ達セサル間ハ小學校ニ於テ別ニ苗木ヲ購入シ又ハ兒童ヲシテ持參セシムル等便宜ノ方法ニ依ルヘシ

第七條 小學校ニ於テハ務メテ森林愛護ノ念ヲ誘發シ植栽其ノ他森林手入ニ關スル方法ハ豫メ之ヲ教授センコトヲ要ス

第八條 植栽當日小學校職員ハ兒童ヲ指揮監督シテ植付ヲナサシムヘシ但兒童ノ男女長幼ノ別及其體力ノ強弱ヲ考ヘテ相當ノ業ヲ分配スルヲ要ス

市町村長及學務委員ハ植栽當日之ニ立會ヒ小學校教員ニ協力スヘシ

兒童ノ保護者ハ植栽當日兒童ニ付添ヘ成ルヘク其業務ヲ補助センコトヲ要ス

第九條 小學校長ハ常ニ學林ヲ視察シ其下草刈蔓切枯損木ノ補植枝打間伐野火切等ハ季節ヲ誤ラス之ヲ施行スヘシ

前項ノ事業ハ學校職員兒童ヲ指揮監督シテ之ニ當ルモノトス但必要ノ場合ニ於テハ人夫ヲ使用シ又ハ學林監視人ヲ置クコトヲ得

市町村長及學務委員ハ第一項ノ事業ニ參加シテ學校職員ニ協力スヘシ

第十條 紀念學林ハ植栽年別ニ區劃シ番號及植栽反別並其年月日ヲ記シタル標木ヲ建ツヘシ

小學校ニ於テハ紀念學林臺帳及紀念學林圖ヲ備ヘ置クヘシ
學林臺帳ニハ植栽ニ關スル費用樹種樹數反別年月日兒童氏名下捺下草刈蔓切枝打間伐其他學林經營ニ關スル事項ヲ其都度記入スヘシ

第十一條 學林圖ニハ反別境界通路番號既植地未植地ノ別植付區劃土地ノ高低其他必要ナル事項ヲ表記スヘシ

伐採シタル跡地ニハ其順序ニ從ヒ植栽ヲ行フヘシ但シ切株ヨリ再生スル樹木アル場合ハ此限りニアラス

第十二條 紀念學林ヨリ生スル收益ハ小學校基本財産ニ編入スヘシ但間伐又ハ下草刈等ヨリ生スル收入ハ之ヲ學林經營費ニ充ツルコトヲ得

第十三條 紀念學林ノ地租及經營ニ要スル費用ハ當分小學校費ニテ支出スヘシ

第十四條 紀念學林ハ市町村長ノ管理ニ屬スト雖モ其事務ハ小學校長及學務委員之ヲ執行スヘシ

第十五條 小學校教員ハ校長ノ指揮ヲ受ケ紀念學林經營ニ關スル事務ヲ分擔スヘシ

小學校長ハ紀念學林ノ植栽後其反別樹種樹數及植栽ニ從事シタル兒童數並其費用ヲ町村立小學校ニアリテハ町村長ヲ經テ郡長ニ市立小學校ニアリテハ市長ヲ經テ知事ニ申報スヘシ

郡長ハ毎年十二月末現在調査ヲ以テ郡内紀念學林經營ノ狀況ヲ翌年一月限知事ニ報告スヘシ

第十六條 附則 既設ノ學校樹栽地其ノ他小學校兒童ノ樹栽ニ關スルモノハ其名義如何ヲ問ハズ本規程ヲ準用ス

第十七條 市町村特別ノ事情ニ依リ紀念學林ヲ造設スルコト能ハサルトキハ理由ヲ具シテ監督官廳ノ指掌ヲ受クヘシ

第十八條 明治廿九年栃木縣訓令甲第五號小學校樹栽規程標準ハ自今之ヲ廢止ス

○紀念學林補助規程 栃木縣令第三十九號 明治三十八年八月廿九日

小學校紀念學林補助規程左ノ通相定ム

第一條 市町村、町村學校組合、若クハ其ノ區ニ於テ明治廿八年一月訓令第四號ニ依リ小學校紀念學林ヲ造設シタルトキハ本規程ニ依リ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ハ小學校ノ在籍兒童數ニ對シ一人五坪以上十坪以内ノ割合ヲ以テ算出シタル樹苗代トス

但補植ヲ要スルトキハ更ニ其ノ樹苗代ヲ補助スルコトアルヘシ

學林ノ坪數前項ノ割合ニ滿タサルモノハ其ノ現實坪數ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 樹苗ノ種類、植栽本數及價格ハ左ノ標準ニ依ル

樹苗ノ種類 一坪植栽數 千本ノ價格

杉、扁柏、落葉松三年生以上 二本 三圓以内

檜、桐 二年生以上 一本 一圓五十錢以内

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ二月末日マテ第一號様式ノ願書ヲ差出スヘシ

第五條 學林ノ地拵ヲ終ヘタルトキハ植栽着手前第二様式ノ願書ヲ植栽ヲ終ヘタルトキハ直ニ第三號様式ノ願書ヲ差出スヘシ

第六條 學林ハ植栽後三年間ハ每年下刈ヲ爲シ且左ノ期間ハ其保護ヲ怠ラサランコトヲ要ス

杉、扁柏、落葉松 植栽後三十年

檜、桐 植栽後十五年

第七條 前條ノ保護期間内ニ於テ間伐ヲ行ハントスルトキハ着手十五日前第四號様式ノ願書ヲ差出スヘシ

合計

四二〇

右及御届候也

市町村長町村學校組合長

氏名印

明治年月日

知事宛

第四號様式

間伐届

校名	紀念學林所在地 市町村大字字名	地番	反別	樹名	立木概數	間伐數	間伐步合	着手年月日
合計								

右及御届候也

市町村長町村學校組合長

氏名印

明治年月日

知事宛

紀念學林、樹栽地等監督指導ニ關スル件

林發第五三九號 三十七年十二月農次官通牒

郡市區町村等地方公共團體ノ經營ニ係ル戰時紀念林學校樹栽地其ノ他植林事業ノ獎勵大ニ効ヲ奏シ既ニ其ノ設計ヲ了ヘ現ニ實行中ニ屬スルモノ尠ラサルノミナラス近來之カ企畫ヲ爲スモノ倍々増加ノ趨勢アルハ斯業ノ爲洵ニ喜フヘキ現象ト存候然ルニ林業ハ其收益ヲ永遠ニ期セサルヘカラサルカ故ニ當初設計方法ノ宜シキヲ得ルト否トハ將來ニ於ケル効果ニ多大ノ影響ヲ及ボシ候コト言テ俟タサル所ニ有之依テ此等植栽事業ニ對シテハ既ニ當局者ニ於テ夫々周到ナル監督指導ノ方法ヲ講セラレ候義ト被存候ヘ共尙樹種ノ撰定植栽ノ法又方ハ收支ノ計算等設計上必要ノ事項ニ關シテハ力メテ主任技師又ハ相當ノ官吏ニ命シ之カ適否ヲ調査セシメ企業者ヲシテ違算失計ナカラシムル様御施設相成度依命此段及通牒候也

追テ府縣ノ企業ニ係ルモノ等其設計ノ大ナル分ニ付テハ其需メニ依リ本省ニ於テモ相當調査ヲ加テ之ヲ指示スルコトニ取計フヘク此段申添候也

四二二

□ 部分林

國有林野法第十九條 國ハ造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得

法令慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト見做ス

同法第二十條 部分林ノ樹木ハ國ト造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國ノ所有トス

同法第二十一條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

同法第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

(參照) 民法第二百五十六條 各共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得但シ五年ヲ超

エサル期間内分割ヲ爲サハル契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

此契約ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其ノ期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

同法第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林造林者ニ之ヲ準用ス

(參照) 第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國有林野ニ於ケル部分林許可地ハ所轄大林區署ヨリ府縣ニ公示

ナルヘキ件 林發第五三號 明治三十八年五月二日

大林區署

部分林ノ設定ハ左記標準ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

右内訓ス

第一條 部分林ハ要存置林野中特別經營造林計劃以外ノ無立木地ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル箇所ニ付之カ設定ヲ許可スルコトヲ得明治三十一年度以前ノ伐採跡地ニ關シテモ亦同シ

一 牛馬放牧柴草拂下等ノ慣行其ノ他特殊ノ關係ニ因リ林業經營上國ニ於テ造林ヲ行ヒ難キ事情アリト認ムル林野

二 林業經營上國ニ於テ急速造林ヲ行フノ必要ナク且管理其ノ他ノ關係上部分林ノ設定ヲ許可スルヲ利益ナリト認ムル林野

施業案既成事業區内及事業區組成見込區域内ノ林野ニ付テハ特別ノ事由アル場合ノ外部分林ノ設定ヲ許可スルコトヲ得ス

第二條 部分林ノ設定面積ハ一記業者ニ付一箇所五十町步ヲ下ルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限リニ在ラス

第三條 部分林設定ノ出願競合スル時ハ左ノ順位ニ依リ許可スヘキモノヲ定ム但シ地元府縣又ハ地元郡ノ出願ニシテ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ順位ニ據ラス他ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得

一 地元部落

二 地元市町村

- 三 地元郡
 - 四 地元府縣
 - 五 地元部落ノ住民
 - 六 地元市町村ノ住民
 - 七 前各號以外ノ者
- 第四條 部分林ノ設定ヲ許可セムトスルトキハ豫メ其ノ管理及保護ノ方法ヲ記載セル書面ヲ提出セシムルニシ
- 第五條 第一條ニ依リ部分林ノ設定ヲ許可スヘキ林野ハ豫メ其ノ區域ヲ調査シ本大臣ノ認可ヲ受ケルニシ

○部分林設定方針決定ノ件
 明治三十八年五月二日
 局長各大林區署長ニ通牒

本日林發第五三號ヲ以テ部分林設定ノ義ニ付内訓相成候處右ニ關スル調査及實施ニ當リテハ充分慎重ノ注意ヲ加フヘキハ勿論尙之カ爲ノ要存置林野ノ賣拂處分ニ對シ影響ヲ及ホスカ如キコト無之様御考慮相成度而シテ調査ノ結果之カ設定ヲ許可スヘキ林野ニ對シテハ左記ノ通御取扱可成相此段及通牒候也

- 一 内訓第五條ノ認可上申書ニハ部分林設定區域圖及設定調査書ヲ添付スヘシ
 - 二 設定區域圖ニハ附近國有林野及部落ノ位置ヲ記入シ設定調査書ニハ設定ヲ要スル理田ヲ附記スヘシ
- 前項調査ニハ位置、面積、他ノ要件ヲ、造林設計ヲ指定スルノ必要アルモノニ付テハ其ノ設計ヲ詳細ニ記シ之ヲ附屬シ、造林設計ノ指定スルノ必要アルモノニ付テハ其ノ設計

□造林地ノ免租

森林法第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

○造林地ノ地租免除申請ノ件
 明治四十一年一月十六日
 大藏省令第一號

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林ノ地租免除ヲ得ムトスルモノハ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

大藏省訓令第一號
 明治四十一年一月十六日
 稅務監督局 稅務署

○造林地ノ地租免除許可方ノ件
 大藏省訓令第一號
 明治四十一年一月十六日
 稅務監督局 稅務署

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ申請シタル者アルトキハ地方廳ト協議ノ上相當免租年率ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘシ

但シ許可シタルトキハ免租年率及反別ヲ地方廳ニ通知スヘシ

○造林地ノ地租免除ニ關スル取扱方ノ件
 農商務省訓令第四號
 明治四十一年三月
 府縣 沖繩縣ヲ除ク

森林法第十二條ノ造林地免租ニ關シテハ左記各項ニ據リ取扱フヘシ

一 府縣知事ハ明治四十一年一月大藏省訓令第一號ニ依リ造林地免租ノ協議ヲ受ケタルトキハ左ノ標

準ニ依リ尙造林ノ難易植栽樹種地味ノ良否交通ノ便否等ヲ斟酌シテ免租年期ヲ協定スヘシ

- 一 喬林ヲ仕立ツルノ目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十五箇年以上三十箇年以内
- 二 中林ヲ仕立ツルノ目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以上二十箇年以内
- 三 矮林ヲ仕立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以内
- 四 前各號ノ外利用ヲ目的トセサル植樹ニアリテハ三十箇年以内

二 府縣知事ハ造林免租許可地ノ林種面積等左記様式ニ依リ毎年未ノ合計ヲ翌年三月末日限り本省ニ報告スヘシ但シ報告スヘキ事項ナキトキハ單ニ其ノ旨ヲ報告スヘシ

様式 造林地免租許可地報告

何年末現在

郡市	町村	大字	字	地番	地目	地別	面積	林種	樹種	免租年限	一箇年ノ免租額
合計											

備考

一 地別欄ニハ森林法第十二條第一項ノ荒廢ニ屬シタル森林同第二項ノ原野山岳荒廢地ノ別ヲ記載スヘシ

二 林種欄ニハ喬林中林矮林ノ別ヲ記載スヘシ

○公有林野整理統一ノ方針

林第四九二七號 明治四十三年十月十三日

公有林野ノ整理開發ニ關シテハ從來屢々訓示相成候次第有之一日モ之カ企畫ヲ緩クスヘキモノニ無之特ニ部落有財産ノ主要部分タル林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルコト整理開發ノ捷徑トシテ之カ遂行ヲ圖ルハ尤モ必要ノ事ト存候尤モ是等ニ就テハ貴官ニ於テモ種々御配慮ノ上既ニ夫々獎勵ノ方法ヲ講セラレ漸次實績ノ見ルヘキ向モ有之候モ本件林野ノ整理統一ハ實行上困難ノ點少カラシテ之カ完成ヲ得ルハ容易ノ義ニ無之ト存候就テハ各地ノ實況ニ應シ大體別紙ノ方法御斟酌ノ上一層御配意相成度依命此段及通牒候也

追テ林野事業ノ經營ハ團體ノ財政ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ市町村行政監督ノ事務ニ當ル者ト勸業ノ事務ニ從事スル者トハ常ニ相互共同研究ヲ盡シ齊一方針ノ下ニ指導獎勵ノ途ヲ講スル様致度右ハ當然ノ義ニハ候ヘ共爲念併セテ申進候

第一 部落有林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルコトハ林野ノ整理開發上緊要ノコトニ屬シ兼テ自治ノ圓滿ト財政ノ安固トヲ得セシムルモノニシテ之ニ關シ市町村民ノ自覺ヲ要スルハ勿論ナルモ之ヲ勸奨スルニ當リテハ弘ク一般人民ヲシテ自治ノ本旨ヲ体シ部落割據ノ觀念ヲ芟除セシムヘク其ノ統一方法ニ關シテハ大體左ノ方法ニ依リ地方ノ狀況ト沿革トニ應シ宜シキニ從ヒ措置セシムルコト

(一) 從來部落有林野ノ管理當ヲ失シ其ノ甚シキニ至リテハ擧ケテ之ヲ部落民ノ自由ニ放任セルカ爲權利義務ノ明確ヲ缺クニ至リ若ハ内實負債ノ擔保ニ供シ其ノ他賣却分割貸渡等ノ豫約ヲ爲シ或ハ正當ノ手續ヲ經スシテ事實處分シタルモノアリ是等諸種ノ事情纏綿シ部落有林野ノ全部ヲ擧ケテ之ヲ市町村有ニ提供スルコト能ハサル事情ノモノナキヲ保セス如此ハ篤ト其事實ヲ精査シ速ニ之カ匡正ノ手段ヲ講シ此際市參事會町村長ノ管理ニ移シ一層之力監督ヲ嚴ニスルコト

(二) 部落有林野ヲ市町村ニ統一歸屬セシムルニ當リ事ノ容易ナランコトヲ慮ルノ結果統一ヲ名トシテ林野ノ大部分ヲ部落民ニ分割又ハ賣却シテ唯其ノ一部ノミヲ市町村ニ提供スル等本來ノ主旨ヲ没却スルカ如キコトナカラシムルコト

(三) 統一シタル林野ハ市町村ノ基本財産トシテ適法ノ管理ヲ爲サシムルハ勿論ナリト雖從來部落民カ受ケツツアリシ緣故ニ基ク利益ハ之ヲ無視セス緣故部落民ニ產物ヲ特賣シ若ハ產物ノ一部(副産物ノ如キ)ヲ交付スル等ノ特權ヲ與ヘ之ト同時ニ其林野ニ對スル保護其ノ他特定ノ義務ヲ負擔セシムル等地方ノ事情ニ應ジ適當ノ處置ヲ取ルヲ要ス

(四) 部落力會テ植林シタル土地ヲ統一スルニ當リテハ可成其ノ植林ノ効績ヲ尊重シ部落民ヲシテ之カ利益ヲ喪ハシメザル爲適當ナル方法ヲ講シ以テ先覺造林ノ効果ヲ空フセシメサルコト

(五) 從來部落ノ負擔又ハ協議費ノ名義ヲ以テ部落有林野ノ收入ニ依リ費用ヲ支辨シタル道路堤防用惡水路溜池等ノ脩築維持ハ林野ノ統一ト共ニ實際不便ヲ感スルモノ、外之ヲ市町村ノ經濟ニ移サシムルコト

(六) 各部落ノ提供面積又ハ其價格カ部落間ニ權衡ヲ得サルモノアルヘシト雖(三)乃至(五)ノ方法宜シキヲ得ハ之カ調和ヲ計ルコトヲ得ヘク尙多少ノ懸隔ハ免レサルヘキモ統一ノ自治上ニ及ホス利益ヲ悟ラシメ公共心ニ依リ可成全部ノ統一ヲ爲サシムヘシ將又全然無財產ノ部落ニ對シテハ其部落ノ實力ニ堪フル相當範圍ニ於テ或ル期間特別ノ賦課ヲ爲サシメ以テ調和ノ方法ヲ講セシムルコト

第二 部落有林野ノ統一ト林業經營トハ自ラ問題ヲ異ニス統一シタル林野ハ必スシモ凡テ森林トシテ普通林業ヲ經營スルモノニアラスシテ第五項第六項所記ノ管理區分ヲ爲スヲ要ス而シテ其區分ニ依リ農用地ト査定シタル土地ハ開墾牧場採草地等トシテ適當ノ利用方法ヲ立テ、整理スルモノトス然レトモ是等農用地ハ特ニ管理ノ不便ナルモノ、外ハ可成之ヲ市町村ノ所有トシテ經營スルカ又ハ市町村住民ニ賃借權若ハ地上權等ヲ設定セシメテ適當ニ利用セシムルノ方針ニ依リ市町村ヲシテ土地ヲ失ハシメサルコト

第三 公有林野ノ內事實上社寺ノ所有タルヘキモノアリ又ハ簡人有若ハ共有ノ名義ニシテ其實公有タルモノハカガラサルモノハカガラサルモノカ知シ如モノテ此處設置スルコトハ從ニ所有權ノ明確ヲ缺キテテハ公有林野整理上障礙ノ因ヲ爲スニ依リ收租當時ノ取扱者ノ生存其他沿革證據等ノ亡滅セサル今日ニ於テ速ニ訂正ヲ加ヘ名實相稱ハシムルコト

第四 公有林野ノ管理區分ハ各市町村ノ當事者ヲシテ其ノ地ノ事情ヲ斟酌シ必要ニ應ジ適當ニ之ヲ按排セシムルハ當然ノ事ニ屬スト雖或ハ技術上ノ智識ニ乏シク或ハ徒ラニ情弊ニ束縛セラレ、ノ虞アリテ市町村ノ自覺經營ト地方官衙ノ指導誘掖トヲ併行スルコト

第五 公有林野ノ內將來農用地(開墾豫定地芝草採取地、牧場放牧地等)トシテ利用スルノ適當ナリトスルモノハ左ノ標準ニ依リ査定シ農業ト林業トノ調和ヲ計ルヘシ

此等ハ左ノ標準ニ依リ査定シ農業ト林業トノ調和ヲ計ルヘシ

(一) 農用地ト林業地トノ區別ヲ立ツルハ國防其他ノ公益上特別ノ必要アル場合ハ格別トシ其ノ以外ニ在テハ經濟上尤モ有利ナル方法ニ依リ土地ヲ利用スルコトヲ原則トシ若シ之ニ反スル永年ノ慣行アリテ俄カニ變更シ難キモノハ漸次此原則ニ近カラシムルノ方針ヲ探ルコト

(二) 開墾豫定地ハ開墾(田畑開墾ノ外桑茶漆檀楮及柑橘其ノ他果樹植栽地ヲ包含ス)ノ目的ヲ持續シ得ヘキ見込ノ地域ヲ劃定スルコト

(三) 前項開墾豫定地ヲ劃定スル場合ニハ特ニ國土保安ノ關係ヲ精査シ開墾ノ爲國土ノ安寧ヲ害スルノ虞アルモノハ一切豫定地ト爲サ、ルコト

(四) 芝草採取地ハ芝草ノ生産量及需用額ヲ調査シ尙將來ニ於ケル肥料飼料等改良ノ能否ヲ考察シテ必要ナル地域ニ査定スルコト

(五) 牧場及放牧地ハ牧畜業ノ現狀ヲ調査シ尙將來ニ於ケル牧畜業ノ發展及飼料ノ改良等ヲ考察シテ必要ノ地域ニ査定スルコト

(六)前兩號ニ依リ劃定シタル芝草採取地、牧場、放牧地等ハ舊慣ヲ參酌シ適當ナル方法ヲ定メテ利用セシムルコト

第六 公有林野ニ於テ地元住民ノ燃料トシテ小柴ヲ採取スル慣行ハ前項芝草採取ノ慣行ト同シク概ネ濫採ノ弊之ニ伴フヲ以テ之ヲ整理スルコト必要ナリト雖違ニ之ヲ禁止スルコトハ從來ノ關係上困難尠カラサルヲ以テ芝草採取地ノ例ニ倣ヒ左ノ標準ヲ以テ整理セシムルコト

(一)小柴採取地ハ小柴ノ生産量及需用額ヲ調査シ尙將來ニ於ケル採取法改良ノ能否他方面ヨリスル供給變遷等ヲ考察シテ必要ナル地域ニ止ムルコト

(二)前項ニ依リテ劃定シタル小柴採取地ハ舊慣ヲ參酌シ適當ナル方法ヲ定メテ利用セシムルコト

第七 公有林野中入會權ノ爲共同使用ニ供セラル、モノハ舊慣及事情ヲ調査シ之カ解除又ハ制限若ハ使用區域割當等ノ方法ヲ取り前各項整理ノ目的ヲ完成スルニ努ムルコト

第八 從來ヨリ市町村有ニ屬スル森林ハ勿論部落有林野ヲ統一シテ第四項乃至第五項ノ趣旨ニ依リ其管理區分ヲ了シ市町村トシテ經營スヘキ林野ハ速ニ相當計畫ヲ定メ團體財政ノ狀況ヲ斟酌シテ適當ノ施設經營ヲ爲サシメ荒廢ノ虞ナカラシムルコト

第九 公有林野ニ於テ芝草採取ノ慣行アル地方ニ在リテハ今尙年々火入ヲ爲スノ弊風存スルモノアリ此弊習永ク行ハル、トキハ遂ニ地表ヲ敗殘シ恐ルヘキ國土ノ危害ヲ誘起シ或ハ火災ノ原因トナリ成林ノ障害ヲ爲ス等國土ノ安寧ヲ害シ又林業ノ發達ヲ阻害スルコト尠カラサルニ依リ開墾及造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外ハ公有林野ニ於テ火入ヲ爲サシメサルノ方針ヲ取ラシムルコト

第十 部落有林野ノ整理統一ニ併セテ其他ノ財産モ亦之ヲ統一セシムルハ適切ノ措置ナルヲ以テ速ニ之カ處分方法ヲ講シ遂行ニ努メシムルコト

第十一 部落有財産ノ處分ヲ府縣郡參事會ニ於テ許可スルニ當リテハ統一ヲ避クル爲之ヲ處分スルカ如キ弊ヲキチ充分ニ調査シ監督上適當ナル時期ニシムルコト

第十二 既設府縣模範林ハ比較的利便ナル地域ヲ指定シ單ニ財產林トシテ最モ有利ナル營業計畫ヲ定ムルヲ以テ主眼ト爲スノ傾向アリ此ノ如キハ往々ニシテ模範林ノ本旨ヲ没却スルニ至ルナキヲ保セス加之地方ニ依ツテハ比較的利スル所多カラサルモ寧ロ公有林野ノ如キ從來荒廢ニ委棄シ願ミラレサリシ土地ノ内造林ニ適スル地域ニ於テ部分法其他ノ方法ニ依リ府縣模範林ヲ設置シ以テ荒廢地恢復利用ノ範ヲ示スハ蓋シ公有林野開發ヲ誘導スルニ於テ裨益スル所尠カラサルヘキニ依リ將來地方模範林ハ右ノ方針ニ基キ可成模範林ノ實績ヲ收ムル樣計劃スルコト

□ 治 水

○ 標柱建設規程

農商務省訓令第七號
明治四十四年四月四日

府 縣

標柱建設規程左ノ通定ム

農商務大臣

標柱建設規程

第一條 地方長官ハ本規程ニ依リ保安林及森林法第三十二條ノ規定ニ依ル開墾制限、禁止地ニ標柱ヲ建設スヘシ但シ御料林野及國有林野ニ付テハ此ノ限ニアラス

(參照)

森林法第三十二條主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得
森林法第三條本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ云フ

(參照)

地租條例第三條

有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス
第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地
第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地
第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト云フ
第一類地ニ勞費ヲ加ヒ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト云フ
第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、潮水成等ノ如キ天災

第二條 標柱ハ治水上重要ナル關係ヲ有スル箇所ヨリ順次ニ之ヲ建設スヘシ
第三條 標柱ハ一團地ニ付一本トス但シ其ノ面積ノ廣狹、交通ノ狀況取締ノ便否其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ適宜ニ其ノ數ヲ増加スルコトヲ得
第四條 標柱ハ方三寸以上地上三尺以上トシ表面ニ保安林種開墾制限地又ハ開墾禁止地ノ表示裏面ニ建設年月日標柱番號、府縣名側面ニ當該地域ヲ認識シ得ヘキ文字ノ記載ヲ爲スヘシ
第五條 地方長官ハ第一號樣式ノ標柱臺帳ヲ作製シ標柱ノ建設又ハ補修其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ
第六條 地方長官ハ當該年度所要ノ標柱建設費及補修費ヲ調査シ第二號樣式ノ標柱調査書ヲ前年度二月末日マテニ農商務大臣ニ提出スヘシ
第七條 地方長官ハ第三號樣式ニ依リ毎年六月末日マテニ前年度ニ於ケル建設及補修成績表ヲ農商務大臣ニ提出スヘシ
附 則
第六條中二月末日トアルハ明治四十四年度ニ限り明治四十五年五月末日マテトス
第一號樣式

標柱臺帳

團地	所在	保安林種臺帳番號	面積	建設年月日	番號	備考
郡市	町村	大字	一字	地番		

注意

- 一 郡市別保安林、開墾制限地、開墾禁止地別ニ口座ヲ設ケ區別スヘシ
- 二 開墾制限禁止地ニハ(保安林種臺帳番號)ノ二欄ヲ除ク
- 三 備考欄ニハ標柱建設補修年月日其ノ他參考上必要ノ事項ヲ記載スヘシ
- 四 團地所在欄ニハ團地中ノ主ナルモノ一筆ヲ記載シ外何筆ト記スルモ妨ケナシ

大正年度標柱調査書

種別	面積	新設		補修		備考
		本數	經費	本數	經費	
同制・限 計						
保安林						
開墾禁止地						

第三號樣式

標柱建設及補修成績表

種別	面積	新設		補修		備考
		本數	經費	本數	經費	
保安林						
開墾禁止地						
開墾制限地						
計						

注意

- 一、毀損ノ程度甚ダシクシテ新ニ建設スル場合ハ亡失トシ亡失欄及新設本數欄ニ記載スヘシ
- 二、亡失中新設セサルモノアルトキハ其ノ旨備考欄ニ記載スヘシ

○標柱建設規程取扱

林第一三一八號 明治四十四年四月五日各府縣知事へ通牒

標柱建設規程取扱左ニ依命通牒ス

- 一 標柱ハ明治四十四年度ヨリ同四十九年度(大正五年度)ニ至ル六ケ年間ニ全部終了スヘキ計劃ヲ以テ建設セラルヘシ
- 二 治水ニ關係ナキ保安林ニハ府縣ノ費用ヲ以テ相當ノ標柱ヲ建設セラルヘシ
- 三 標柱ノ建設費ハ標柱製作費運搬費及建設費等建設ニ要スル一切ノ經費ヲ合シ一本ニ付一圓以内トス
- 四 標柱建設ノ順序ハ保安林全部ノ建設ヲ終リタル後開墾制限地及開墾禁止地ニ建設スルコト、シ左記ニ依リ取扱ハルヘシ
 - (一) 一郡一市町村等明白ナル區域ニ付其ノ建設ヲ終ハリタル後他ノ區域ニ建設スルコト
 - (二) 法第八條ノ保安林ニシテ調査未済ノモノハ明ニ存置ノ必要アルモノ、外調査ノ上存置ニ決定シタル後之ヲ建設スルコト
 - (三) 土砂并止林、水源涵養林、水害防備林ヨリ順次建設スルコト但シ該建設地ノ附近ニ於ケル保安林ニシテ取締上必要アルモノニ付テハ同時ニ之ヲ建設スルヲ妨ケス
 - (四) 標柱ハ取締上差支ナキ限り可成其ノ數ヲ少クシ不足ノ分ハ順次之ヲ増設スルコト
 - (五) 標柱ハ左記河川ノ流域ニ於ケル建設ヲ終リタル後順次他ノ區域ニ及ホサルヘシ

(編者曰本縣ニハ法第八條ノ保安林ナシ)

- 利根川 (渡良瀬川) (思川) (鬼怒川) (那珂川) (荒川)

○荒廢地復舊費補助規則

大正三年六月省令第十四號

農商務省令第十六號 明治四十四年四月四日

農商務大臣

荒廢地復舊費補助規則

第一條 治水上重要ノ關係アル公有、社寺有、及私有ニ屬スル保安林又ハ森林法第七條ニ依リ造林ヲ命シタル土地ノ荒廢復舊ニ必要ナル地盤保護植樹費及地盤保護工事費ニ對シ本則ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス但シ砂防法ニ依ル砂防指定地ニ於ケル事業ニ就テハ此ノ限ニアラス

(參照)

森林法第七條 本法施行以前森林タリシモノニシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命スルコトヲ得

前項ニヨリ造林ノ命令ヲ受ケタルモノカ造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十一條ノ規程ヲ準用ス

同法第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタルモノ造林ヲ怠リタルキハ行政官廳ニ於テ自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

同法第十條 公有林、社寺有林、又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得

第廿五條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同法第二十五條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入ニ關シ必要アリト認ムルトキハ其ノ森林ニ於ケル木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ト雖保育ノ爲必要ナルトキ又ハ止ムコトヲ得サル

事由アルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得
砂防法第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行ヲ禁止若ハ
制限スヘキ土地ハ主務大臣之レヲ指定ス

第二條 國庫補助金ハ左ニ掲グルモノニ付府縣ニ之ヲ交付ス
一 府縣ニ於テ施行スル地盤保護工事ニ要スル費用

二 地盤保護植樹費及地盤保護工事費ニ對スル府縣ノ補助金但シ郡ニ於テ施行スル地盤保護植樹費
ニ付テハ此ノ限リニアラス

第三條 國庫補助金ノ交付ヲ受ケントスル府縣ハ申請書ニ前條第一號ノ場合ニ於テハ荒廢地復舊事業
豫定書(第一號様式)及工事設計書同條第二號ノ場合ニ於テハ荒廢地復舊事業豫定書工事設計書及府
縣補助金交付規程ヲ添付シ前年度未迄ニ農商務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ添付書類ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ補助ノ
目的及補助率ニ變更ナキ補助金交付ニ關スル規程ノ變更ハ此ノ限ニアラス

第四條 國庫補助金ノ交付ヲ受ケタル府縣ハ第二號様式ノ事業成績表及第三號様式ノ決算表ヲ翌年度
八月末日マテニ農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條 府縣ニ於テ交付ヲ受ケタル國庫補助金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其
ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出スヘキ義務アルモノトス但シ支出スヘキ見込
ナキトキハ其ノ旨ヲ決算表ニ附記スヘシ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ其ノ金額ノ還付ヲ命スルコ
トアルヘシ

前項ニ依リ支出スヘキ殘額ニ付テハ第三條ノ規程ヲ準用ス

第六條 府縣ニ於テ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ還付アリタルトキハ其ノ金額及事由ヲ農商務
大臣ニ報告スヘシ

前項ノ金額中國庫補助金ニ相當スル金額ハ其ノ還付アリタル年度ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ支出
スヘキ義務アルモノトス但シ其ノ年度ニ於テ支出スルコト能ハサル金額ハ之ヲ前條ノ殘額ト見做ス

附則
本則ノ規定ハ公有林野造林獎勵規則ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキモノニ之ヲ適用セス
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十四年度ニ限り第三條中前年度未迄トアルヲ明治四十四年
六月末日マテトス
第一號様式
大正年度荒廢地復舊事業豫定書

事業種別	施業地		施業面積		施業經費		補助豫定金額		備考
	種別	所有別	種別	所有別	種別	所有別	種別	所有別	
地盤保護	保安林	何有		何有		何有		何有	
		計		計		計		計	
植樹	造林命 令地	何有		何有		何有		何有	
		計		計		計		計	

本年四月農商務省令第十六號ヲ以テ荒廢地復舊費補助規則發布相成タルニ付テハ之ヲ取扱方左記ノ通
了知相成度右依命通牒ス

四四四

一 荒廢地復舊費補助ハ保安林ニ於テ地盤保護ノ爲植樹又ハ工事ノ施行ヲ命セラレタル場合ニ限リ

之ヲ交付ス但シ森林法第廿八條ニ依リ補償ヲ受クヘキ造林ニ付テハ此ノ限ニアラス
(參照)森林法第二十八條 木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ
之レニ因リテ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルトキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ
損害ト看做ス

前二項ノ損害ハ政府之レヲ補償ス但シ政府ハ保安林編入ニ依リ特ニ利益ヲ受クル公共團
体若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之レヲ徵收スル
コトヲ得

第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

同法第廿七條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止
シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

同法第廿六條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ木竹ノ伐採、傷害、
開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコト
ヲ得ス

二

森林法第二十七條ニ依リ指定スヘキ地盤保護工事ハ其ノ種類及範圍ヲ必要已ムコトヲ得サル限
度ニ止メ且事情ノ許ス限リ少額ノ經費ヲ以テ施行シ得ヘキ方法ニ依ルモノトス既ニ法第廿七條
ニ依リ地盤保護工事施行指定濟ノモノニ付テハ補助申請ニ對スル指令前實査ヲ遂ケ右ノ趣旨ニ
依リ補助スヘキ工事ノ種類及範圍ヲ決定シ又必要アル場合ニ於テハ該指定事項ノ廢止變更ノ手
續ヲ執ラシムルコトヲ得

三

地盤保護植樹ハ積苗工其ノ他土工ヲ要セスシテ單ニ植樹ノミニ依リ地盤保護ノ目的ヲ達シ得ル
場合ヲ指シタルモノナルニ依リ土工ト共ニ苗木ヲ植栽スル場合ハ地盤保護工事トシテ取扱ハル
ヘシ

四

國庫補助金ト府縣負擔額トノ割合ハ左記ノ例ニ依ル

一 地盤保護植樹ハ一町歩ニ付國庫補助額八圓以内ニシテ且經費ノ六分ノ一以内トシ府縣ノ負
擔額ハ府縣ノ定ムル所ニ依ル

二 地盤保護工事ハ國庫補助額ハ其ノ經費ノ三分ノ二以内トシ府縣ノ負擔額ハ國庫補助金ノ四
分ノ一以上トス

五

府縣ノ費用ヲ以テ苗木ノ無償交付ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ前項府縣
ノ負擔額ニ算入スルコトヲ得

六

國庫補助金ハ先ツ左記河川ノ流域ニ於テ施行スル地盤保護植樹費及地盤保護工事費ニ對シ之ヲ
交付シ順次他ノ區域ニ於ケルモノニ及フモノトス
利根川 (渡長瀬川) (思川) (鬼怒川) (荒川) (那珂川)

○荒廢地復舊費補助ニ關スル通牒

林第一九五九號 大正三年六月四日

山林局長

栃木縣知事宛

今回荒廢地復舊費補助規則改正相成候處右取扱方左記ノ通了知相成度依命此段及通牒候也

追テ以前ノ通牒中本通牒ト抵觸スルモノハ自然消滅ノ義ト了知相成度申添候也

一 國庫補助金ハ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ例ニ依リ交付ス

(一) 地盤保護植樹ハ一町歩ニ付八圓以内ニシテ且經費ノ六分ノ一以内

(二) 地盤保護工事ハ其ノ經費ノ三分ノ二以内

四四五

二 前項國庫補助金ニ對スル府縣負擔額ハ左ノ割合ニ依ル

(一) 地盤保護植樹ニ付テハ國庫補助額ト同額以上

(二) 地盤保護工事ニ付テハ國庫補助額ノ四分ノ一以上

三 地盤保護工事ハ造林地保護ノ爲必要ナルモノニシテ且ツ工事簡易ニシテ多大ノ經費ヲ要セサルモノナルコトヲ要ス

○公有林野造林獎勵費及荒廢地復舊費補助決算殘額ニ關スル件

山第二〇六號 大正二年二月十三日

栃木縣知事宛

山林局長

公有林野造林獎勵費及荒廢地復舊補助費ニ關スル決算中殘額ニシテ次年度へ繰越スヘキモノハ其ノ年度ノ補助額ニ充當スヘキモノナルモ往々之ヲ見込マシテ新ニ同年度ノ補助ヲ申請セラレ爲ニ復又殘額ヲ生スル向有之右ハ取扱上不便不尠ニ付向後補助交付申請ノ際ニハ相當前年度ノ繰越額ヲ見込ミ之ヲ差引其ノ不足額ノミ要求セラル、様特ニ留意相煩ハシ度此段及通牒候也

○荒廢地復舊費補助ニ關スル林務主任官會議決定事項

林第三三六七號 明治四十五年七月六日局長通牒

過般當省ニ開催シタル府縣林務主任會議ノ席上各主任ヨリ希望又ハ實義アリタル事項ハ左記ノ通決定シタルニ付御了知相成度

(八) 荒廢地復舊費補助規則第一條ノ但書ヲ削ルコトノ件

本件ハ豫算ノ都合上希望ヲ容レ難キノミナラス砂防設備地ハ相當工事ヲ施行スル管又砂防設備地以外ノ砂防指定地ハ一定ノ行爲ヲ禁止制限スルノミニ依リ地盤保護ノ目的ヲ達スヘキモノナルヘキヲ以テ荒廢地復舊費補助事業トシテ別ニ補助金ヲ交付スルノ必要ヲ認メス

(九) 荒廢地復舊費補助規則ハ獨リ保安林ノミニ限ラス知事ニ於テ治水上必要ト認メタル場所ニ之ヲ適用スルノ件

知事ノ認定ニ依リ治水上地盤保護植樹又ハ工事ヲ爲サシムル必要アルケ所ノ如キハ之ヲ保安林トシテ事業施行後ニ於ケル監督ヲ爲スノ必要アリ從テ保安林以外ニ補助ノ途ヲ開クノ必要ヲ認メス

(十) 山間僻陬ノ地ニ於ケル荒廢地復舊事業ハ土地所有者ノ之ニ對スル利害關係絶無ナルヲ以テ之カ施行上困難ナル場合アリ斯ノ如キ場合ニハ地盤保護工事ニ付所有者ヲシテ全然負擔ヲ免レシメ費用ノ全部ヲ補助スルノ途ヲ開クノ件

國土保安上危害ヲ及ホスノ虞アル場合ニ於テ設令土地所有者ニ對シ多少ノ苦痛ヲ與フルコトアルモ已ムヲ得サルコトニシテ現行補助制度ハ相當ナリト認ム

○荒廢地復舊費補助規則及公有林野獎勵規則適用上ノ件

山第二〇〇七號 明治四十四年十月三日局長通牒

本年當省令第十六號荒廢地復舊費補助規則ニ關シテハ附則ニ於テ公有林野造林獎勵規則ニ依リ獎勵金ヲ受クヘモノニ適用セサルカ故ニ該規則第一條公有ニ屬スル保安林ノ荒廢復舊ニ必要ナル地盤保護植樹及地盤保護工事トハ公有地ニ市町村又ハ町村組合以外ノモノカ施業スル場合ヲ指稱シタルモノニシテ從テ市町村又ハ町村組合カ其ノ事業トシテ公有林野造林獎勵規則第二條各號ノ土地ニ於テ地盤保護植樹又ハ地盤保護工事ヲナス場合ハ假令其ノ土地カ保安林ナルト否トチ問ハス總テ該規則ニ依リ補助スヘク尙保安林ノ荒廢復舊ニ必要ナル地盤保護工事ハ總テ造林ノ爲ニスル地盤保護工事ト看做スヘキモノナルニ付取扱上注意相成度若シ既ニ申請セラレタル分ニシテ右趣旨ニ該當セサル廉モアラハ此ノ際變更又ハ訂正ノ手續相成度右爲念通牒ス

○治水調査會規程

栃木縣訓令甲第二十三號
治水調査會規程左ノ通定ム

內務部 郡市役所

栃木縣知事

大正三年九月十五日

治水調査會規程

- 第一條 本縣治水ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議スル爲メ治水調査會ヲ設ク
- 第二條 治水調査會ハ治水ニ關スル事項ニ付知事ノ諮問ニ答ヘ又ハ建議スルモノトス
- 第三條 治水調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
 - 會長一名 內務部長ヲ以テ之ニ充ツ
 - 委員若干名 縣高等官中ヨリ知事之ヲ命ス
 - 臨時委員 郡市長中ヨリ知事之ヲ命ス
- 第四條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ特ニ命セラレタル委員其ノ事務ヲ代理ス
- 第五條 治水調査會ニ書記二人ヲ置キ關係課員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

附則

本會ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○栃木縣治水會規程

栃木縣告示第五百十八號
大正三年十二月二十二日

栃木縣知事

栃木縣治水會規程左ノ通定ム

栃木縣治水會規程

- 第一條 栃木縣治水會ハ本縣治水ニ關スル重要ノ事項ヲ調査審議スル爲メ之ヲ栃木縣廳内ニ置ク
- 第二條 本會ハ治水ニ關スル事項ニ付知事ノ諮問ニ答ヒ又ハ建議スルコトヲ得
- 第三條 本會ハ會長一名委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス
- 會長及委員ハ名譽職トス
- 第四條 會長ハ知事ヲ以テ之ニ充ツ
- 委員ハ左ノ者ヨリ知事之レヲ囑託又ハ任命ス
 - 一 本縣選出貴族院議員
 - 二 本縣選出衆議院議員
 - 三 縣高等官
 - 四 縣會議員各郡一名
 - 五 治水上學識經驗アルモノ各郡市二名以內
- 第五條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 會長事故アルトキハ特ニ指名セラレタル委員其ノ事務ヲ代理ス
- 第六條 本會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク知事之ヲ命ス
- 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 本會ニ關スル細則ハ會長之ヲ定ム

附則

本規程ハ大正四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○治水造林補助規程

栃木縣令第四號
大正四年一月十九日

治水造林補助規程左ノ通定ム

第一條 治水上必要ナル私有林野ニシテ左記ノ土地ニ人工造林ヲ爲シタルトキハ左ノ順序ニ依リ補助金ヲ交付ス

- 一 無立木地
二 散生地
三 叢生地

第二條 補助金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

- 一 喬林(杉、扁柏、松、花柏、檉、栗等)ハ植栽面積一町歩ニ付金六圓乃至十二圓
二 矮林(櫟、檜等)ハ植栽面積一町歩ニ付金五圓乃至十圓

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ノ申請書ニ實測圖ヲ添付シ前年十月末日迄ニ所轄市町村長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第四條 補助金ノ指令ハ植栽終了後實地調査ノ上左記ノ事項ヲ斟酌シ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲ス
一 申請書ト相違ノ有無
二 事業費ノ多寡
三 成績ノ良否

第五條 縣ヨリ苗木ノ下付ヲ受ケタル場合ハ其ノ植栽面積ニ對シ補助金ヲ交付セス

第六條 第三條ノ申請書ヲ差出シタル者植栽ヲ終リタルトキハ直ニ第二號様式ノ届書ヲ知事ニ差出スヘシ

第七條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ植栽後枯損ニ對スル補植ヲ爲シ且ツ五箇年間ハ毎年一回以上ノ手入ヲ行フヘシ

第八條 本規程ニ依リ補助ヲ受ケタル森林ノ間伐及主伐ヲ行ハムトスルトキハ着手十五日以前ニ第三號様式ノ届書ヲ知事ニ差出スヘシ

第九條 本規程ニ依リ補助ヲ受ケタル森林ニシテ火災蟲害其ノ他ノ被害アリタルトキハ直ニ知事ニ届出スヘシ

第十條 本規定ニ依リ補助ヲ受ケタル森林若ハ立木ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ第四號様式ニ依リ其ノ承繼者ト連署ノ上遲滞ナク知事ニ届出ツヘシ但シ家督相續等ノ場合ハ相續人ヨリ速ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第十一條 補助金ヲ交付シタル後不正ノ行為ヲ發見シ又ハ第七條乃至第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシメ仍將來補助金ヲ交付セサルコトアルヘシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正四年ニ限り第三條中前年十月末日迄トアルヲ當年五月末日迄トス

第一號様式 治水造林補助金交付申請書

何郡何町(村)大字何字何番山林(原野) 臺帳(實測)面積何町何反何畝歩(別紙實測圖ノ通り) 施業面積 何町何反何畝歩(別紙實測圖ノ通り) 樹種及本數 杉何木、扁柏何本、何何本計何本 豫定經費 金何程 但シ一町歩ニ付何程

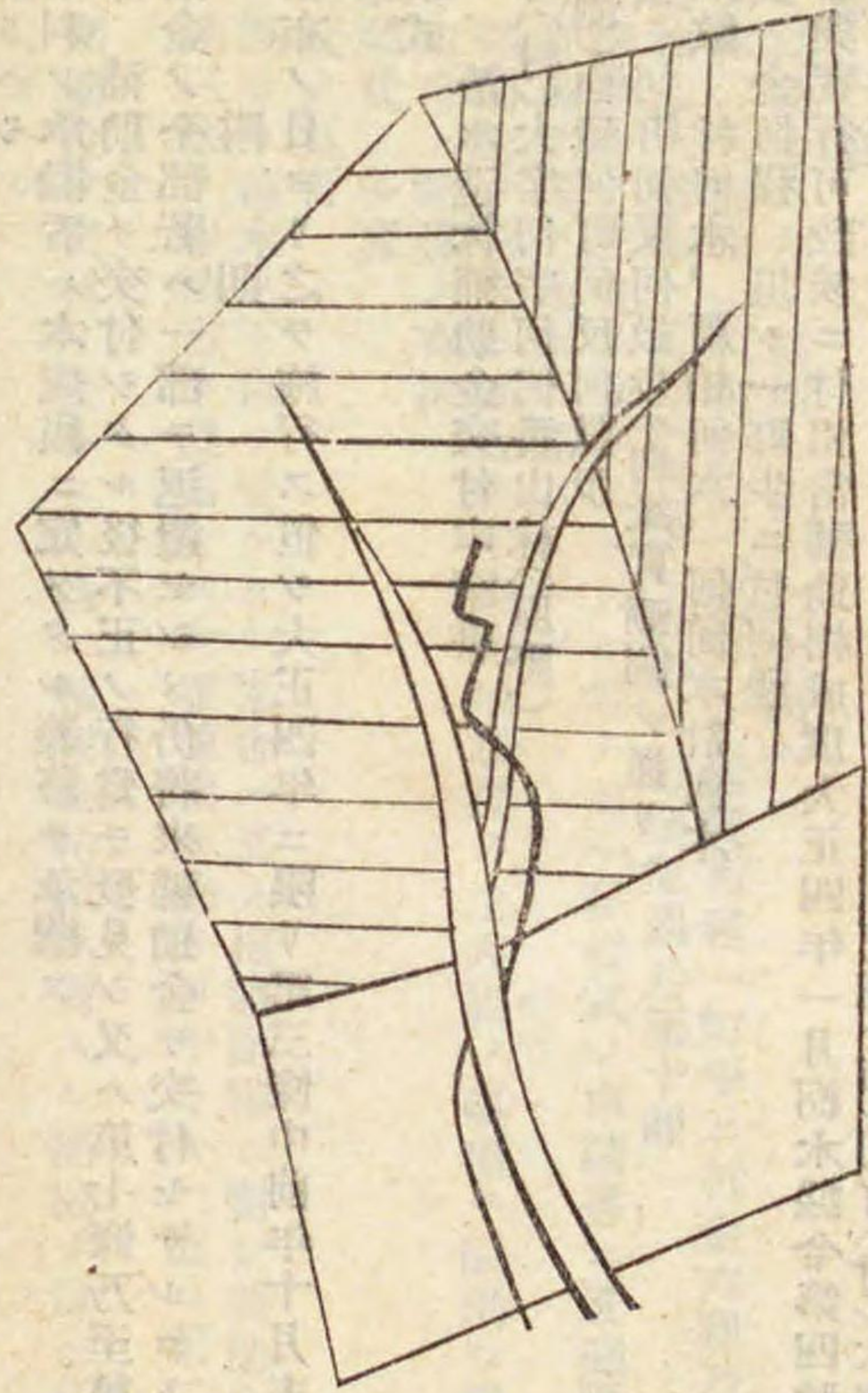
前記ノ事業實行可致候ニ付相當補助相成度大正四年一月枋木縣令第四號ニ依リ申請候也 大正何年何月何日 何郡(市)何町(村)大字何番地 何

(注意) 枋木縣知事宛 申請書ハ事業地毎ニ作製スヘシ

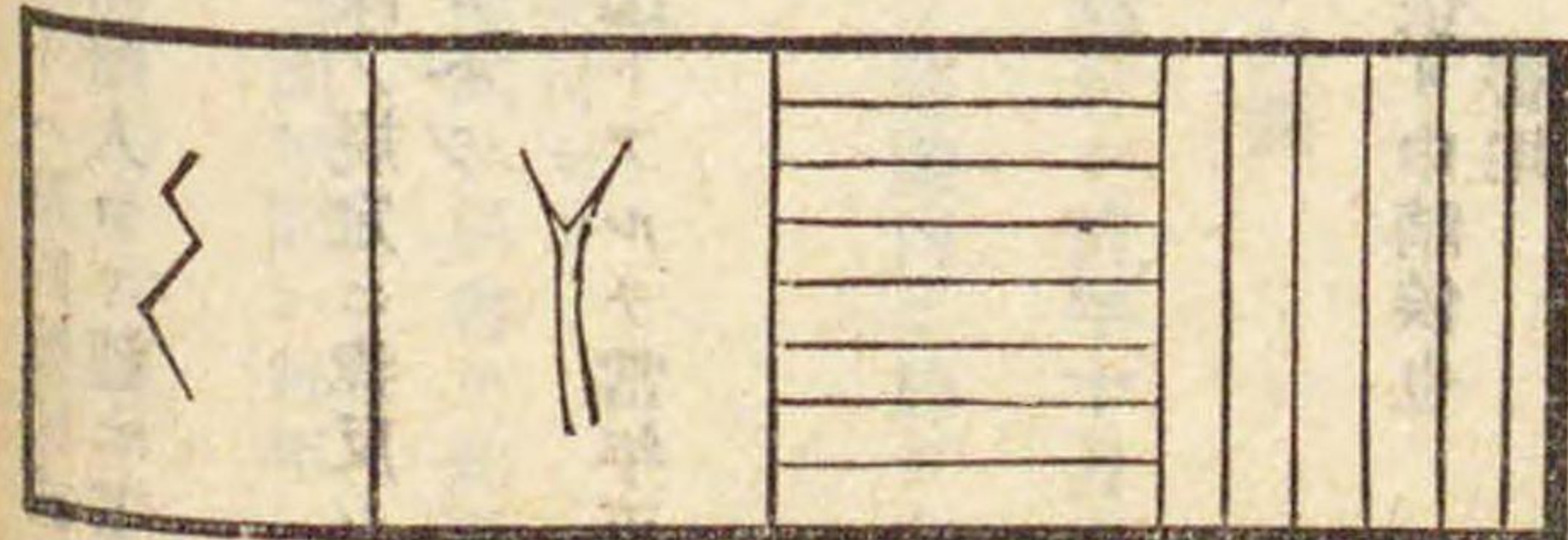
四五一

何郡何町(村)大字何字何何番山林(原野)
 臺帳(又ハ實測)面積 何町何段何畝步
 內實測施業面積 何町何段何畝步

事業地實測圖樣式



何百分ノ一



何年度 補植地
 本年度 申請地
 (藍色) 河川
 (赤色) 道路

第二號樣式 治水造林事業終了屆
 大正何年何月何日付ヲ以テ治水造林補助金申請致置候處何月何日事業終了致候ニ付及御届候也
 大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何番地 某 印

第三號樣式 栃木縣知事宛

伐採届
 何郡何町(村)大字何字何何番
 面積何町步 何樹何本
 右ハ大正何年何月補助金ノ交付ヲ受ケタル造林地ニ有之候處今回何月何日ヨリ間伐(主伐)致度候ニ付
 此段及御届候也
 大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何番地 某 印

第四號樣式 栃木縣知事宛

所有權移轉届
 何郡何町(村)大字何字何何番
 一森林面積何町何段何畝步(立木何樹何本)
 、、、、、、、、、

一、、、、(數地番ニ亙ルトキハ列記ス)
右ハ何郡何町(村)大字何何某ニ所有權移轉致候ニ就テハ新所有者ハ大正四年一月栃木縣令第四號治水造林補助規定ヲ遵守可致此段及御届候也
大正何年何月何日

四五四

栃木縣知事宛

○竹林造成補助規程

栃木縣令第二號
大正五年二月四日

何郡(市)何町(村)大字何	番地
舊所有者	何
何郡(市)何町(村)大字何	番地
新所有者	何
某	某
某	某

竹林造成補助規程左ノ通定ム
第一條 水害防備上必要ナル河川沿岸ノ土地ニ新ニ竹林ヲ造成シタルトキハ左ノ順序ニ依リ補助金ヲ交付ス

- 一 耕地及宅地
- 二 水害防備保安林
- 三 官有借地
- 四 其ノ他ノ土地

第二條 本規程ニ依リ補助スル竹ノ種類ハ苦竹、淡竹ノ二種ニシテ植栽株數ハ一段步當リ百五十株以上トス
第三條 補助金ハ一段步當リ金五圓乃至七圓トス

第四條 補助金ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ第一號様式ノ申請書ニ實測圖ヲ添付シ前年十月末日迄ニ所轄市町村長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ
第五條 補助金ノ指令ハ裁終了後實地調査ノ上左記ノ事項ヲ斟酌シ豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ爲ス

一 申請書ト相違ノ有無
二 事業費ノ多寡
三 成績ノ良否
第六條 第四條ノ申請書ヲ差出シタル者植栽ヲ終リタルトキハ直ニ第二號様式ノ届書ヲ知事ニ差出スヘシ

第七條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ植栽後枯損ニ對スル補植ヲ爲シ且ツ五箇年間ハ保護、手入ヲ爲スヘシ
第八條 本規程ニ依リ成立シタル竹林ニ於テハ四年生以上ノモノニ非サレハ伐採スルコトヲ得ス

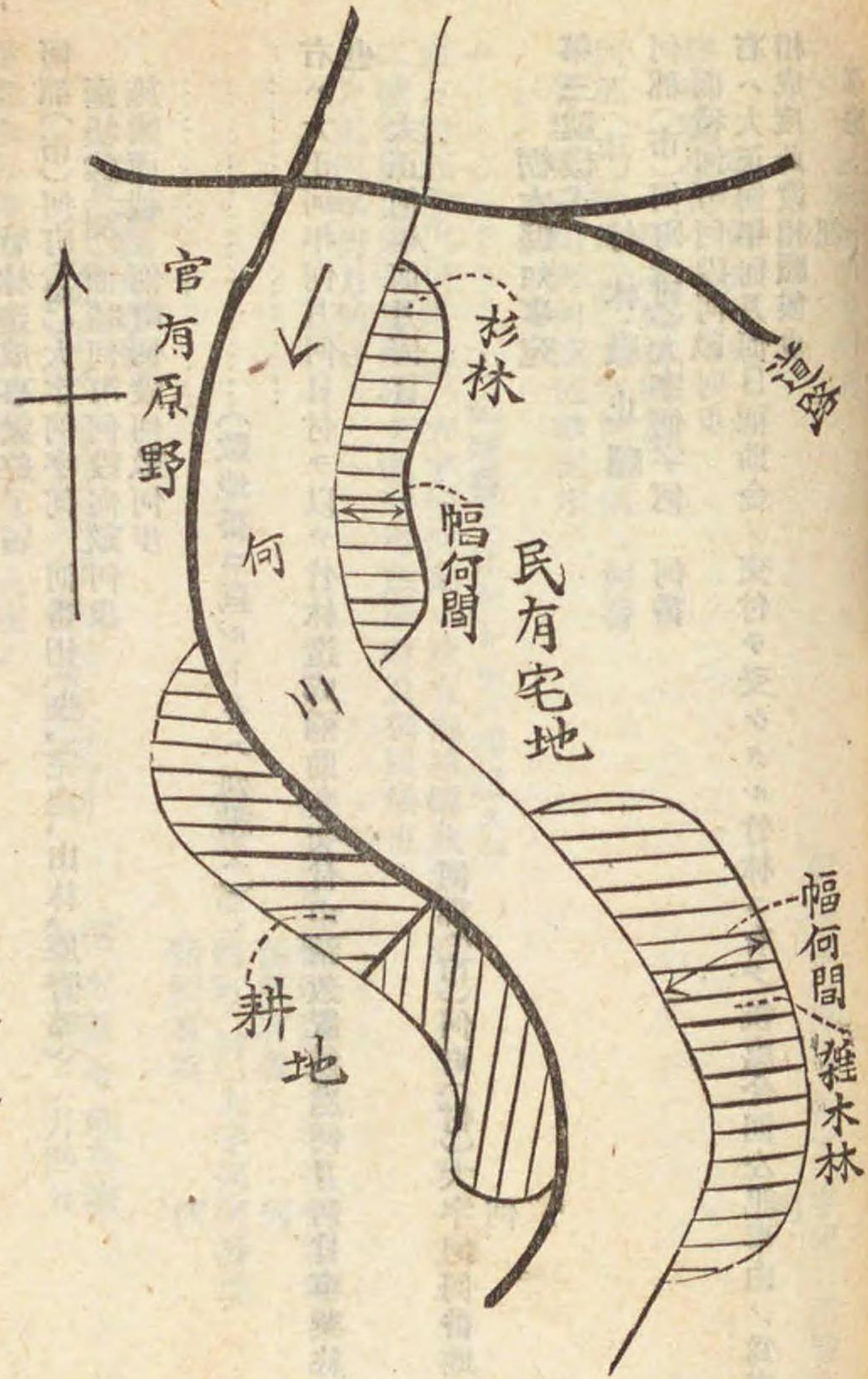
第九條 本規程ニ依リ成立シタル竹林ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第三號様式ノ願書ヲ知事ニ差出スヘシ
第十條 本規程ニ依リ成立シタル竹林ニシテ水害、火災、蟲菌害其ノ他ノ被害アリタルトキハ直ニ知事ニ届出ツヘシ

第十一條 本規程ニ依リ補助ヲ受ケタル土地若ハ立竹ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ第四號様式ニ依リ其ノ新所有者ト連署ノ上遲滯ナク知事ニ届出ツヘシ但シ家督相續等ノ場合ハ相續人ヨリ速ニ其ノ旨知事ニ届出ツヘシ

第十二條 前項ノ新所有者ハ本規程ニ定メタル義務ヲ承繼ス
第十三條 補助金ヲ交付シタル後不正ノ行爲ヲ發見シ又ハ第七條乃至第十一條ノ規程ニ違反シタルトキハ補助金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシメ仍將來補助金ヲ交付セサルコトアルヘシ

四五五

事業地實測圖樣式



四五七

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正五年ニ限り第四條中前年十月末日迄トアルヲ當年五月末日迄トス

第一號樣式

竹林造成補助金交付申請書

何郡(市)何町(村)大字何字何番田(畑、宅地、山林、原野等)

臺帳(實測)面積何町何反何畝何步

施業面積 何町何反何畝何步(別紙實測圖ノ通)

土地ノ現況 全部田、畑、宅地、原野或ハ七分通雜木林三分通畑(又ハ杉林等)(現況別ニ圖示スルコト)

竹ノ種類及株數 苦竹何株 淡竹何株

豫定經費 金何程 但シ一段步當リ金何程

前記ノ事業實行可致候ニ付相當補助相成度大正五年二月四日栃木縣令第二號ニ依リ申請候也

大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何番地 某

栃木縣知事宛

(注意) 附近ノ箇所ハ一申請書ニ數筆ヲ併記スルモ妨ケナシ

何郡(市)何町(村)大字何字何番田(畑、宅地、山林、原野等)

臺帳(實測)面積何町何反何畝何步

內實測地業面積何町何反何畝何步

四五六

第二號樣式

竹林造成事業終了届

何郡(市)何町(村)大字何字何 何番田(畑、宅地、山林、原野等)

臺帳(實測)面積何町何段何畝何步

施業面積 何町何段何畝何步

.....(數地番ニ亘ルトキハ列記ス)

右ハ大正何年何月何日付ヲ以テ竹林造成補助金交付申請致置候處何月何日事業終了致候ニ付及御届候也

大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何何番地

何

某 印

第三號樣式

竹林廢止願

何郡(市)何町(村)大字何字何 何番

面積何町何段何畝何步

右ハ大正何年何月何日補助金ノ交付ヲ受ケタル竹林ニ有之候處今回左記事由ノ爲廢止致度ニ付御許可相成度此段相願候也

事由.....記

大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何 何番地

何

某 印

栃木縣知事宛

第四號樣式

所有權移轉届

何郡(市)何町(村)大字何字何 何番

一竹林面積何町何段何畝何步

.....(數地番ニ亘ルトキハ列記ス)

右ハ何郡(市)何町(村)大字何何某ニ所有權移轉致候ニ就テハ新所有者ハ大正五年二月四日栃木縣令第二號竹林造成補助規程ヲ遵守可致此段及御届候也

大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何何番地

舊所有者

何

某 印

何郡(市)何町(村)大字何何番地

新所有者

何

某 印

栃木縣知事宛

○縣有水害防備竹林委託規則

栃木縣令第三號
大正五年二月四日

縣有水害防備竹林委託規則左ノ通定ム
第一條 縣ニ於テ水害防備ノ爲經營シタル竹林ハ本則ニ依リ其ノ保護ヲ委託ス

- 第二條 委託竹林ノ委託期間ハ十五年以内トス
- 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
- 第三條 受託者ハ委託竹林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ
 - 一 筒、籜ノ盜採、竹ノ盜伐、誤伐、侵襲、柵内侵入其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止
 - 二 水災ノ豫防及防止
 - 三 柵圍、標識ノ保護及修繕
 - 四 蟲菌害其ノ他ノ被害豫防及驅除
 - 五 諸被害ノ報告
 - 六 雜草木ノ芟除
- 第四條 委託竹林ノ收入ハ植栽後十箇年間ハ全部、其ノ以後ハ主產物ノ十分ノ三及副產物ヲ受託者ニ讓與ス產物ノ採取ハ縣ノ指揮ニ從フヘシ
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ委託ヲ解除スルコトヲ得
 - 一 受託者第三條ノ義務ヲ怠リタルトキ
 - 二 受託者其ノ委託竹林ニ關シ不都合ノ所爲アリタルトキ
 - 三 委託竹林ヲ廢止スル必要ヲ生シタルトキ
 - 四 縣ノ都合ニ依リ解除ノ必要ヲ生シタルトキ
- 前項ニ依リ委託ヲ解除シタル場合ニ於テ縣ハ其ノ損害ヲ賠償セス
- 第六條 委託ヲ受ケムトスル者ハ左記様式ノ願書ニ實測圖ヲ添付シ所轄市町村長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

縣有水害防備竹林委託願
何郡(市)何町(村)大字何字何

實測面積何町何段何畝何步(別紙實測圖ノ通)
右ハ大正五年二月四日栃木縣令第三號縣有水害防備竹林委託規則ニ依リ委託御許可相成度此段相願候也

大正何年何月何日

何郡(市)何町(村)大字何何番地

某 印

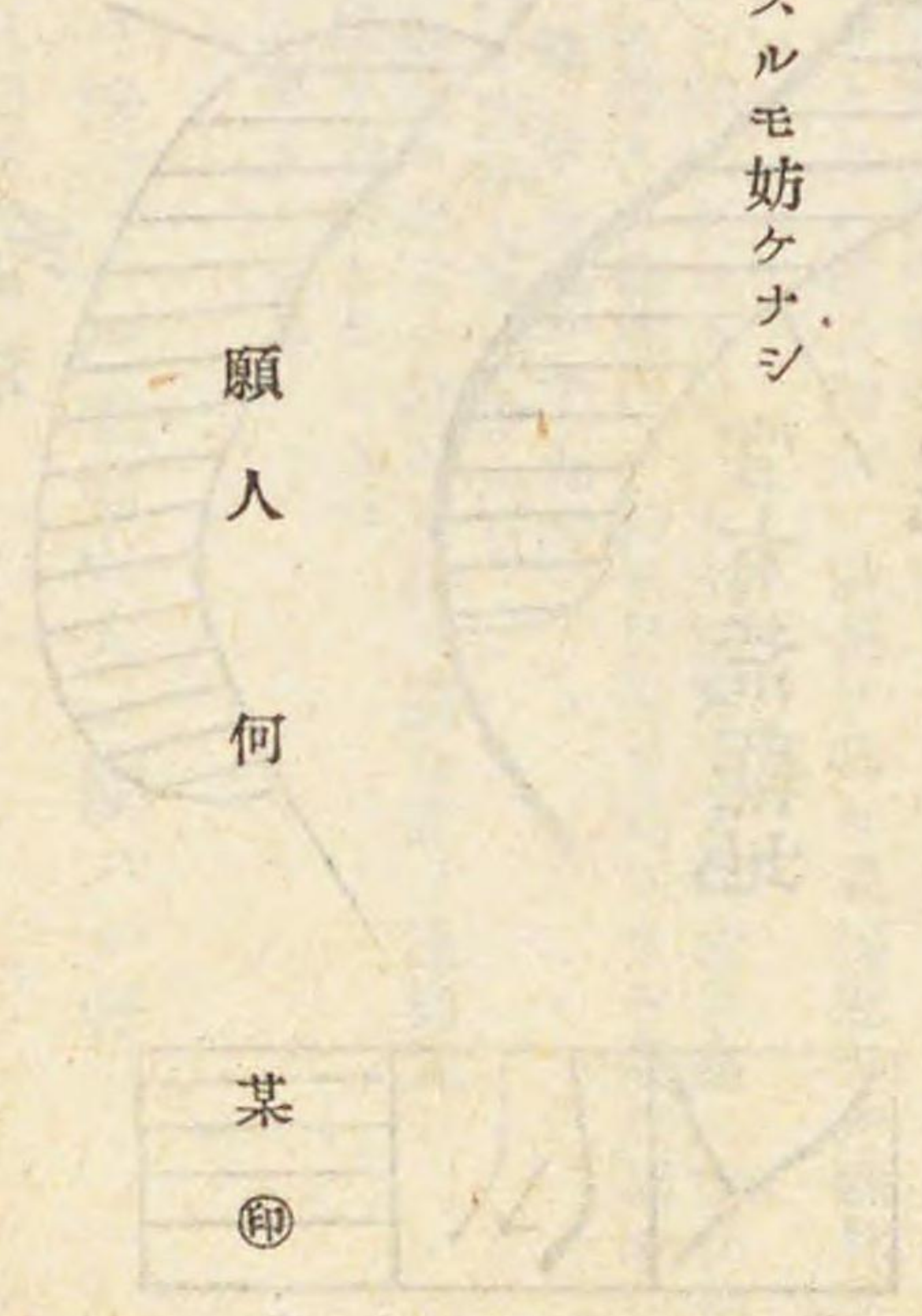
栃木縣知事宛

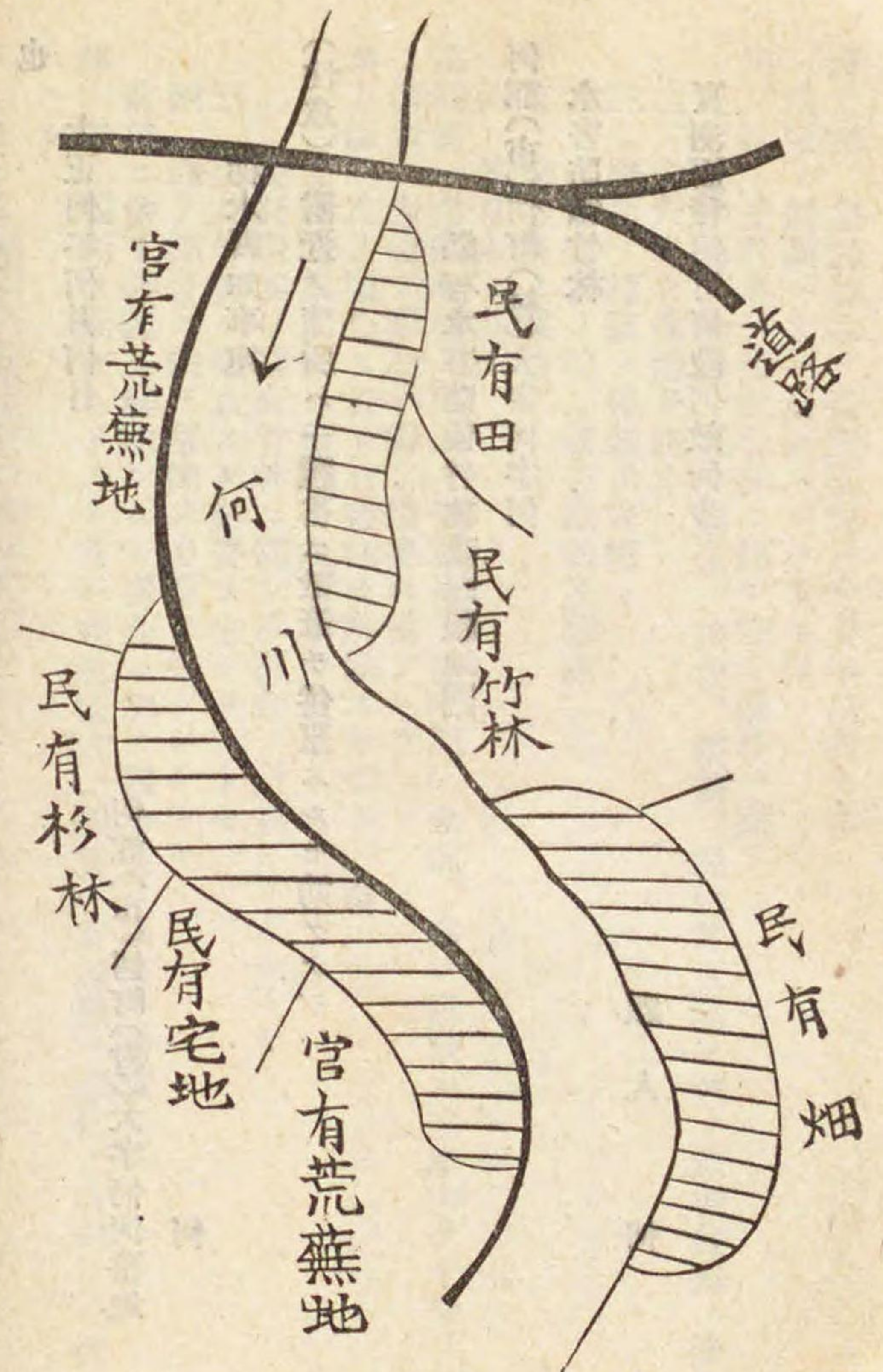
(注意) 附近ノ箇所ハ一願書ニ數筆ヲ併記スルモ妨ケナシ

縣有水害防備竹林委託願地圖

何郡(市)何町(村)大字何字何
水害防備竹林

實測面積何町何段何畝何步





何百分ノ一

林野火入

○森林原野ニ火入ヲ爲ス場合

森林法第七十八條 森林原野山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官ニ於テ必要ト認メ主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外火入ヲ爲スコトヲ得ス
 前項指定ノ場合ニ於テ火入ヲ爲サントスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ
 森林法第七十九條 前條ノ火入ヲ爲サムトスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
 森林法第二百二條 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒棄シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ

○火入許可ノ指定

栃木縣令第五十九號
 明治四十四年九月二十六日

- 森林法第七十八條ニ依リ森林原野山岳又ハ荒蕪地ニ火入ヲ許可シ得ル場合左ノ通指定ス
- 一 造林地拵ノ爲小柴及蔓草等障害物ノ燒拂ヲ利便トスルトキ
 - 二 防火線ヲ設クル爲又ハ防火線掃除ノ際必要ナルトキ
 - 三 害蟲害菌驅除及豫防ノ爲必要ナルトキ

○御料地及大林區署所管地ニ接近スル土地火入ニ關スル件

林第四〇五二號ノ内 明治四十四年九月十八日局長通牒
 森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴縣警察署官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ帝室林

野管理局又ハ林区署所管地ニ接近スルトキハ直ニ當該局署森林官吏ニ左記事項ヲ通知シ又貴縣自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準シ取扱相成度

四六四

一火入箇所及面積

一火入ノ目的

一火入ノ日時

一火入者ノ住所氏名

追テ大林區署長ニ對シテハ別紙ノ通牒シ帝室林野管理局ヨリハ協議ノ結果別紙ノ通回答ヲ得タル

ニヨリ含ミ置カレ度
林第四〇五二號 明治四十四年九月局長通牒各大林区署長宛

森林法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ貴署森林官吏カ火入ヲ許可シタル場合ニ於テ火入地カ帝室林野管理局所管地ニ接近スルトキハ同局森林官吏ニ其他ノ土地ニ接近スルトキハ警察官吏ニ直ニ左記事項ヲ通知シ貴署自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準シ取扱相成度

記

一火入箇所及面積

一火入ノ目的

一火入ノ日時

一火入者ノ住所氏名

追テ府縣知事ニ對シテハ別紙ノ通り通牒シ帝室林野管理局ヨリハ協議ノ結果別紙ノ通回答ヲ得タル

ニ依リ含ミ置カレ度
林第四〇五二號 明治四十四年八月局長照會帝室林野管理局局長宛

管地ニ接近スルトキハ全署森林官吏ニ其他ノ土地ニ接近スルトキハ警察官吏ニ直ニ左記事項ヲ通知シ又貴局自ラ火入ヲ行フ場合モ之ニ準スル様致度ニ付テハ御異議ノ有無承知致度

記

一火入箇所及面積

一火入ノ目的

一火入ノ日時

一火入者ノ住所氏名

追テ本文ノ取扱振リニ對シ御異議無之ハ林区署森林官吏并ニ警察官吏ニ於テ火入ヲ許可シタル場合及林区署又ハ府縣自ラ火入ヲ行フ場合ニ於テモ亦本文ニ準シ取扱ハシムヘキ筈ニ付了知相成度

林第五八九號 明治四十三年十一月局長ヨリ各大林区署長ニ通牒

○公有林野火入ニ關スル件
公有林野ニ於テハ開墾又ハ造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外火入ヲ爲サシメサル省議ニ有之左記ノ通府縣知事ニ訓示相成タルニ付森林法ニ依リ森林官吏ノ公有林野火入許可ノ場合ハ右趣旨ヲ依リ取扱相成度

記

公有林野ニ於テ芝草採取ノ慣行アル地方ニ在リテハ今尙年々火入ヲ爲スノ弊風存スルモノアリ此弊習永ク行ハルルトキハ遂ニ地表ヲ敗殘シ恐ルヘキ國土ノ危害ヲ誘起シ或ハ火災ノ原因トナリ成林ノ障害ヲ爲ス等國土ノ安寧ヲ害シ又林業ノ發達ヲ阻害スルコト尠カラサルニ依リ開墾及造林地拵等特種ノ事情アル土地ノ外ハ公有林野ニ於テ火入ヲ爲サシメサルノ方針ヲ取ラシムルコト

○森林法第七十八條適用方ノ件
林第四四六六號 明治四十四年九月局長ヨリ各大林区署ニ通牒

甲號熊本大林區署長照會

四六五

今回森林法第七十八條改正相成同條第一項ヲ以テ火入ハ地方長官ノ必要ト認メタルモノヲ農商務大臣認可指定セラレタル場合ニ限ルコトト相成候處右ハ國ノ行フ造林地拵防火線設置若ハ害虫驅除等ノ爲火入ヲ爲ス場合ニアリテハ其必要ノ有無ヲ大臣ノ認可ニ依リサル可カラサルモノトモ認メ難ク地方長官ノ監督ヲ受クヘキモノトモ認メラレス同條第一項ハ國有林野ニ適用ナキモノト認メ差支ナキヤ前項ノ如シトスルモ火入ノ行爲ハ公共ノ危險ヲ來スノ虞アルモノニ付豫メ地方長官ニ通知ヲ要スルモ乙號山林局長回答
 (前畧)右ハ國有林野ニモ適用スヘキモノニ有之尙後段取扱方ニ就テハ九月十八日付林第四〇五二號通牒ニ依リ了知相成度

○森林火災報告ノ件

林發第七十三號 明治四十二年三月局長通牒

公私社寺有森林ノ火災アル場合ハ明治二十七年五月訓令第一七號第二條ニ依リ面積ノ大小被害ノ多寡ニ拘ラス總テ其都度御報告相成居候處自今森林ノ火災ニシテ輕微ノモノハ臨時御報告ニ不及候條此段及通牒候也

□害虫驅除豫防法

明治二十九年法律第十七號

○害虫驅除豫防法

法律第十七號

明治二十九年

第一條 此ノ法律ニ於テ害虫ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ虫類ヲ云フ
 第二條 驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム認可ヲ經タル種類以外ノ害虫發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ地方長官ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトキテ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
 第三條 害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ地方長官ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
 前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシテ該作人ヨリ其費用ヲ徵收セシムルコトヲ得其費用ノ徵收ニ關シテハ市制第百二條及町村制第百二條ヲ適用ス

(參照)市制第百二條 市ニ於テ徵收スル使用料手數料(第八十九條)市税(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサルトキニ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之レテ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得
 納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル
 本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免、及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス
 町村制第百二條ハ同意味ナレハ略ス

第四條

害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生

ノ虞アルトキハ地方長官ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得
 第五條 地方長官ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及
 所有者ニ賦課セシムルコトヲ得
 夫役ハ害虫ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得
 夫役ノ賦課ハ反別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ
 夫役ハ別各ノ率ニ據リ小作人自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得
 本條ノ場合ニ於テハ市制第二百二十三條及町村制第二百二十七條ヲ適用セス
 (參照)市制第二百二十三條

六 法律敕令ニ依テ負擔スル義務ニアラスシテ向五ヶ年間以上ニ亘リ新市住民ニ負擔ヲ課
 スルコト

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スルコト
 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一區ニ費用ヲ賦課スルコト

第六條 地方長官ハ驅除豫防ノ爲ニ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株
 雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得
 本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得
 第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其指揮ヲ承クル者ノ其地ニ入り驅除豫防ニ從事スル
 第九條 地方長官又ハ部長ハ必要ナル場合ニ於テハ北海道地方稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三

條、第四條、第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得
 第十條 虫類以外ノ動物又ハ細菌ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ地方長官ハ農商
 務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得
 第十一條 第三條ノ場合ニ於テ地方長官ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ
 一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
 第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓
 以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス
 第十三條 本法中市町村ニ關スル規定ハ北海道ノ區町村沖繩縣ノ區(間切島)及市制町村制ヲ施行セサ
 ル地方ニ於ケル市町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス
 第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○害虫驅除豫防法取扱手續
 明治廿九年三月廿八日
 農商務省訓令第六號
 (大正二年九月改正第八條ヲ削除ス)

第一條 害虫驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付本大臣
 ノ認可ヲ請フトキハ各害虫ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 名稱、方言
 二 主ナル被害農作物ノ種類
 三 驅除豫防ノ方法
 害虫驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ
 第二條 害虫驅除豫防法ノ施行ニ係ル命令ヲ發布シタルトキハ其都度本大臣ニ報告スヘシ
 第三條 害虫一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫
 防

防ヲ行フヘシ

第四條 害虫隣接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ
第五條 二府縣以上ニ跨リ害虫蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條 害虫驅除豫防法第十條ニ依リ虫類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條 害虫發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第九條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ書式ニ依リ翌年四月三十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

害虫驅除豫防報告様式 (各虫害ニ付區分スヘシ)

害虫名

郡市名	被害町村ノ數	同上農作物ノ種類	同上見積反別	此平年收穫高	被害ニ付見積減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	同夫役ノ數	同上郡費	同上府縣稅(地方稅)補助額
何市									
何郡									
計									

○農作物害虫發生報告様式

明治三十六年九月四日 農發第一二五號農務局長通牒

明治二十九年三月農商務省訓令第六號害虫驅除豫防法取扱手續第七條ニ依ル害虫發生報告ハ今後左記様式ニ依リ御急報相成度依命通牒候也追テ害虫驅除豫防法施行ニ付發布シタル命令ハ遲滞ナク御報告相成度爲念此段申添候也

農作物害虫發生報告様式(虫類以外ノ動物、黴菌發生報告モ此様式ニ準ス)

郡市名	發生町村名	發生害虫ノ種類	發生ノ日	被害農作物ノ種類	發生區域ノ見積反別	蔓延ノ程度	備考
何市							
何郡							

右及報告候也

年 月 日

農商務大臣宛

○病虫害豫防獎勵規則

農商務省令第十三號

病虫害豫防獎勵規則左ノ通相定ム

明治四十四年四月四日

病虫害豫防獎勵規則

道廳長官

府縣知事

農商務大臣男爵 大浦兼武

第一條 本則ニ於テ病虫害ト稱スルハ農作物又ハ農産物ニ對スル菌類又ハ虫類ノ害ヲ云フ

第二條 農商務大臣ハ病虫害ノ豫防ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル處ニ依リ毎年度ノ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第三條 獎勵金ハ左ノ場合ニ於テ府縣ニ之ヲ交付ス
一 府縣ノ費用ヲ以テ病虫害ノ豫防ヲ督勵スルトキ
二 農商務大臣ニ於テ菌類又ハ虫類ノ種類又ハ豫防方法ヲ指定シ府縣ヲシテ豫防ヲ督勵セシムルトキ

第四條 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ病虫害豫防ノ研究ヲ目的トスル公益法人ニ獎勵金ヲ交付スルコトアルヘシ

第五條 第三條第一號ノ規定ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル府縣ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付シ前年度ノ二月末日迄ニ農商務大臣ニ差出スヘシ
一 主ナル菌類又ハ虫類ノ種類並豫防方
二 豫防ノ督勵ニ關スル計劃並費用ノ豫算
三 第三條第二號ノ規定ニ依リ豫防ノ督勵ヲ爲サシメムトスルトキハ農商務大臣ハ前二號ニ準スル書類ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル公益法人ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添付シ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ
一 組織ニ關スル規程
二 設備
三 業務ノ計劃並ニ費用ノ豫算
四 職員ノ氏名並各其履歷ノ大要

第七條 農商務大臣ハ獎勵金ヲ交付シタル府縣又ハ公益法人ニ對シ調査ヲ命ジ報告ヲ徴シ其他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第八條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣第五條第一號及第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ農商務大臣ニ届出ツヘシ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル公益法人ニ於テ第六條第一號乃至第四號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣又ハ公益法人ハ八月末日迄ニ前年度ノ成績及費用ノ決算ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル府縣又ハ公益法人ニ於テ負擔ヲ減少シタルトキ第七條ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ第八條若ハ第九條ニ違反シタルトキハ農商務大臣ハ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ農商務大臣ニ於テ其成績不良ナリト認ムルトキ亦同シ

第十一條 農商務大臣必要アリト認ムルトキハ第一條ニ規定シタル以外ノ農作物ニ對スル動植物ノ害ニ付本則ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

第十二條 本則中府縣ニ關スル規定ハ北海道ニ於テハ北海道地方費ニ之ヲ適用ス

第十三條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治四十四年度ニ限り第五條中前年度ノ二月末日トアルヲ四月末日トス

○病虫害豫防獎勵費支出ニ關スル件

農務局長
農第六五三九號 明治
四十四年四月十一日

栃木縣知事宛

四月四日付農商務省令第十三號ヲ以テ病虫害豫防獎勵規則發布相成候處明年以後ニ於テハ該費ノ支出ハ主トシテ道府縣ノ負擔額(明カニ豫算又ハ豫算ノ附記若ハ説明書ニ掲記シタル金額)ニ準スル見込ニ候ヘ共本年度ニ於テハ道府縣中特ニ本件ニ關スル豫算ナキモノ可有之ニ付便宜前年度ニ於ケル第

二豫備金配當額ヲ大体ノ標準トシテ之ニ比例シテ支出可相成候前年度支出額ノ約七割ニ相當致居候ニ付右御舎相成度尙申請書添付書類中督勵ニ關スル計劃並ニ費用ノ豫算ハ左記ニ依リ御調製相成度右依命通牒ス

記

- 一 督勵ニ關スル計劃ハ本文獎勵金交付額ト貴縣ノ負擔額トヲ考量シ相當ニ之ヲ定ムルコト
- 一 費用ノ豫算ハ左ノ三項ニ區別スルコト
- 一 前項計劃ニ必要ナル費用明細
- 二 道府縣ノ負擔額並豫算中其金額ノ屬スル類項目
- 三 國庫獎勵金ノ豫定額

○造林用苗木ニ害虫驅除豫防法ヲ適用ス

林第一四九九號 大正元年十一月二十七日

山林局長

栃木縣知事宛

造林用ノ苗木ハ害虫驅除豫防法ノ農作物中ニ包含セラレル義ニ付了知相成度依命此段及通牒候也

○害虫驅除豫防法施行規則

大正二年五月三十日 栃木縣令第三十五號

害虫驅除豫防法施行規則左ノ通定ム

第一條 害虫驅除豫防法ニ依リ本縣ニ於テ驅除豫防スヘキ害虫並黴菌ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、螟蟲 二、浮塵子 三、苞蟲 四、地蠶 五、金龜子 六、尺蠖 七、杉赤枯病菌

第二條 害虫並黴菌ノ驅除豫防方法ヲ定ムルコト左ノ加シ

主ナル被害農作物ノ種類

二 驅除豫防方法

稻

(イ) 五六月ノ交及八月頃螟蛾ノ飛翔スルトキ夜間誘蛾燈ヲ點シテ之ヲ誘殺スヘシ

(ロ) 苗代期間又ハ挿秧除草等ノ際産卵セル稻葉ヲ除去スヘシ

(ハ) 被害ノ藁稈及刈株等ハ堆肥トスルカ又ハ之ヲ燒棄スヘシ

浮塵子

一 主ナル被害農作物ノ種類

二 驅除豫防ノ方法

(イ) 苗代期間ハ捕蟲網ヲ以テ苗ノ頭部ヲ掬ヒ之ヲ捕殺スルカ又ハ夜間誘蛾燈若ハ篝火ヲ點シテ之ヲ誘殺スヘシ

(ロ) 挿秧後ハ其ノ田ニ水ヲ張り一反歩ニ村鯨油若ハ石油一升乃至二升ヲ滴下シ稻草ヲ拂ヒテ

(ハ) 蟲ヲ振り落シ然ル後田水ヲ下シ其落口ニ於テ適宜ノ受器ヲ以テ之ヲ捕殺スヘシ

時々畦畔及接近ノ雜草ヲ芟除シ及冬期ニ於テハ之ヲ燒棄スヘシ

一 主ナル被害農作物ノ種類

稻

二 驅除豫防方法

(イ) 八九月ノ交飛翔スルトキ捕蟲網ヲ以テ其ノ蝶ヲ捕殺スヘシ

(ロ) 竹櫛ヲ附シタル袋ヲ以テ苞狀ニ束ネタル稻葉ヲ搔キ分ケ其袋中ニ落チタル仔蟲ヲ集メテ

之ヲ壓殺スヘシ

一 主ナル被害農作物ノ種類
粟、蕎麥、大麻、菽

二 驅除豫防ノ方法

(イ) 六月乃至九月頃夜間燈火誘殺法ヲ以テ其蛾ヲ誘殺スヘシ
(ロ) 發生地ノ周圍ニ溝渠ヲ設ケ之ニ陥落セシメテ壓殺スルカ又ハ其ノ溝渠ニ水ヲ張りテ溺死
セシムヘシ

(ハ) 本蟲ハ晝間被害作物ノ根際若ハ雜草ノ中ニ潜伏スルモノ多キヲ以テ特ニ注意ヲ加ヘ之ヲ
捕殺スヘシ

(ニ) 被害地ハ秋冬ノ交之ヲ耕鋤シ其ノ蛹ヲ壓殺スヘシ

一 主ナル被害農作物ノ種類
菽、蔬菜、金龜子

二 驅除豫防ノ方法

(イ) 六月乃至九月頃朝露ノ未タ乾カサルニ先チ捕蟲網又ハ適宜ノ器具ヲ以テ之ヲ捕殺スヘシ
(ロ) 夜間誘蛾燈ヲ點シテ之ヲ誘殺スヘシ
(ハ) 被害地ハ冬耕ヲ行ヒ土中ニ蟄伏セル蛹ヲ捕殺スヘシ

主ナル農作物ノ種類
尺蠖

二 驅除豫防ノ方法

(イ) 冬季樹幹若ハ其裂目等ヲ搜索シテ其潜伏セルモノヲ捕殺スヘシ
(ロ) 五六月ノ交桑葉ニ蟲糞ヲ存スルモノハ其樹根際ヲ搜索シテ之ヲ捕殺スヘシ
(ハ) 六七月又ハ八月頃枝幹ニ産付セル卵ヲ壓殺スヘシ

一 主ナル被害作物ノ種類
杉苗、杉赤枯病菌

二 驅除豫防ノ方法

(イ) 苗圃一部ノ苗木ニ發生シタルトキハ其胃サレタル苗木ハ悉ク之ヲ拔取り一個所ニ纏メテ
直ニ燒棄シ其ノ胃サレサル殘苗ニ對シテハ速ニ三斗式石灰「ホルド」液ヲ撒布ス

(ハ) 被害ノ狀況苗圃ノ苗木全体ニ渉ルトキハ苗木ヲ全部拔取り直ニ之ヲ燒棄ス

(ロ) 被害ナキ苗圃ト雖附近ニ該病菌發生セルトキ若ハ之カ蔓延ノ虞アルトキハ豫防ノ爲四五
月頃ニ一回九月頃ニ一回三斗式石灰「ホルド」液ヲ撒布ス

第三條 田畑所有者又ハ作人ニ於テ害蟲若ハ黴菌發生シ又ハ發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ驅除
豫防ニ着手シ同時ニ口頭若ハ書面ヲ以テ市町村長ニ報告スヘシ

第四條 前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ左ノ様式ニ依リ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ
様式

農作物害蟲發生報告 (蟲類以外ノ動物又ハ黴菌ノ發生報告モ此様式ニ準ス)

郡市名	發生町村名	發生害蟲ノ種類	發生ノ日	被害農作物ノ種類	發生區域數	發生區域ノ見込反別	蔓延ノ程度	備考
市								
郡								

第五條 左ノ場合ニ於テハ市町村長ハ前條規定ノ外驅除豫防スヘキ區域期限及其事由ヲ詳具シ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ上申スヘシ

一 第一條以外ノ害蟲發生シ若ハ發生ノ虞アリテ急速ノ處分ヲ要スルトキ

二 害蟲驅除豫防法第十條ノ動物又ハ黴菌ヲ驅除豫防セントスルトキ

三 害蟲驅除豫防法第四條乃至第六條ノ規定ヲ適用スルノ必要アリト認メタルトキ

四 他府縣ニ跨リ害蟲又ハ黴菌蔓延ノ兆アルカ爲メ其府縣ト驅除豫防ノ方法ヲ協議シ之ヲ施行スル必要アリト認メタルトキ

第六條 害蟲驅除豫防法第三條第一項ニ依リ驅除豫防施行ノ命令アリタルトキハ郡長ハ直ニ町村長ニ市町村長ハ直ニ該田畑ノ作人ニ傳令シ指揮監督シテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ郡市長ハ直ニ害蟲驅除豫防法第三條第二項ノ手續ヲ執行シ其旨知事ニ報告スヘシ

第七條 害蟲又ハ黴菌一市町村以上ニ蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリト認メタルトキハ隣接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第八條 害蟲又ハ黴菌ノ驅除豫防ヲ行ヒタルトキハ市町村長ハ七日以内ニ左ノ各項ヲ詳記シ知事ニ報告スヘシ

一 害蟲又ハ黴菌ノ種類

二 市町村大字名

三 被害農作物ノ種類及被害見積反別

四 被害見積減收額

五 驅除豫防ニ要シタル市町村費

六 夫役員數及驅除豫防ニ關スル費用見積

第九條 市町村長ハ毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲又ハ黴菌驅除ニ關スル事項ヲ各其種類別ニ區分シ左ノ様式ニ依リ町村長ハ翌年四月十日限り郡長ニ郡市長ハ同月十五日限り知事ニ報告スヘシ

様式

害蟲、黴菌驅除豫防報告

害蟲又ハ黴菌名

町村名	被害農作物ノ種類	同見積別	同平年收穫高	被害ニ付見積減收額	驅除豫防ニ係ル市町村費	同夫役數	同上郡費補助額
何町(大字)							
何村(大字)							
計							

第十條 市町村ハ害蟲又ハ黴菌ノ驅除豫防ニ關シ必要アル場合ハ其地域ヲ數區ニ分チ每區組合ヲ設ケ

其ノ區域内田畑所有者及作人ヲシテ委員ヲ選定セシムルコトヲ得委員ノ選定又ハ變更アリタルトキハ其都度住所氏名ヲ知事ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年六月縣令第九十三號及明治三十三年七月縣令第六十號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○害虫驅除豫防ニ關スル告諭

栃木縣告諭第一號

杉苗ニノミ發生シテ激烈ナル傳染性ヲ有スル杉赤枯病菌ハ近來本縣及隣縣ニ尤モ多ク發生シ之レニ冒サレタル苗圃ニシテ殆ント全滅ニ歸セサルモノ尠ク其ノ損害モ亦莫大ナリ之レ今回縣令第三十五號ヲ以テ害虫驅除豫防法施行規則中ニ同病菌驅除豫防ニ關スル規定ヲ設ケタル所以ナリ而シテ本年亦同病菌發生蔓延ノ徵候アリ縣下一般營業者ハ今春各町村役場ニ配付シタル農商務省山林局編纂ノ同病菌驅除豫防法ニ基キ充分之力豫防滅減ニ努力セラルヘシ

大正二年六月三日

栃木縣知事 岡 田 文 次

○病害虫驅除豫防ニ關スル件

農第三九〇二號 大正二年四月二十六日局長通牒

造林用苗木ハ農産物トシテ害虫驅除豫防法ヲ適用致候ニ付テハ其指導監督ハ一般農作物ノ場合ニ於ケルト同様ニ御取扱可相成儀ニ候ヘ共造林用ノ苗木ノミヲ栽培セル圃場ニ於ケル指導監督ニ付テハ林業ニ關スル技術員ヲシテ之ニ當ラシムル方便宜ナルヘシト被認候條御含置相成度依命右及通牒候也
追テ造林用ノ苗木ト他ノ農作物ト混植セル圃場ニ於テ造林用ノ苗木ニ付キ林業ニ關スル技術員立會之ニ當ラシムル方便宜ト被認候場合ニハ右様御取計相成差支無之爲念申添候

○虫害驅除ニ關スル林務主任官會議打合せ事項

林第三三六七號 明治十五年七月六日局長通牒

過般當省ニ開催シタル府縣林務主任會議ノ席上各主任ヨリ希望又ハ質義アリタル事項ハ左記ノ通御了知相成度

ハ苗圃ニ害虫發生シタル場合ニ於ケル森林法第八十一條適用ノ件

森林法第八十一條ハ森林ニ於ケル害虫ノミニ限ル規定ニアラスシテ森林ニ屬スル害虫ニ關スル規定ナリ而シテ苗圃ニ害虫發生シ延テ森林ニ危害ヲ及ホスノ虞アルトキハ苗圃ニ於ケル苗木ノ害虫ノ驅除豫防モ亦森林法第八十一條ニ依リ之ヲ爲スヲ妨ケス

(參照)

森林法第八十一條 森林害虫蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林害虫ノ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命シ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得虫類以外ノ動物又ハ黴菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ
前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ標準トナシ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス

林業報告

○森林ノ業務ニ付都度報告ノ件

林發第二五號 明治四十年二月十九日局長通牒

貴管下ニ於テ左記事項ニ該當スルモノアルトキハ其ノ都度御報告相成度尙既ニ御實行中ノモノハ此際洩ナク御報告相煩度依命此段及通牒候也

追テ本文報告事項ニシテ明治二十六年四月甲第三十號通牒ニ依ルモノハ重テ報告ニ及ハス候爲念此旨申添候

(參照)甲第三十號

農商務次官

本省主管事務ニ關スル縣令ハ發布ノ都度直ニ報告可相成旨大臣ノ命ニ依リ及通牒候也

報告事項

- 一 府縣郡ノ事業トシテ森林經營ヲ爲シタルトキハ其計劃書及施業方法等但シ市町村其他町村組合ニ於テ著シキ森林經營ヲ爲シタルトキ亦同シ
- 二 公有林、社寺有林ノ施業及整理ニ關スル方法ヲ定メタルトキハ其方法ノ概要
- 三 府縣郡ニ於テ林業ニ關スル試驗所、講習所ノ類ヲ設置シタルトキハ其位置目的及設備ノ概要
- 四 府縣郡ニ於テ林業ニ關スル獎勵事項ヲ定メタルトキハ其方法ノ概要
- 五 流材ニ關スル制限又ハ保護ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法ノ概要
- 六 府縣郡市町村ニ於テ林產物ニ課稅シタルトキハ其ノ課率並ニ稅額等
- 七 同業組合法、產業組合法ニ依ルモノノ外ニ造林組合、製炭組合、其他林業ニ關スル組合ヲ設置シタルトキハ其概要
- 八 農林學校山林學校ノ類ヲ設置シタルトキハ其學則其他ノ學校ニ林業科ヲ增置シタルトキハ其學科目等
- 九 林產物ノ新規用途ヲ發見シ又ハ工藝上重要ノ材料トナリタルモノアルトキハ其品名、用途、數量、見込額等
- 一〇 新タニ市町村林ノ設置ニ關スル方法ヲ定メタルトキハ其方法ノ概要(例令部落所有ノ山林チ町村有トシ森林事業ヲ經營スル場合ノ如キ之レナリ)
- 一一 林產物ニ關スル共進會ノ類ヲ開催セムスルトキハ其ノ位置、目的及設備ノ概要等
- 一二 林產物ニシテ新タニ海外ニ輸出販路ヲ生シタルモノアルトキハ其ノ品名、生産地、用途、輸出港、輸出先、數量見込額等
- 一三 前各項ノ外林業ニ關シ注意ヲ惹起スヘキ事項

農商務統計樣式制定ノ件

農商務省訓令第十三號
大正三年十一月

道廳府縣

明治三十七年九月農商務省訓令第十一號農商務統計樣式別冊ノ通り改正シ大正四年調查報告ヨリ之ヲ施行ス

第六七 民有林野面積定期調查(報告期翌年四月限) 大正 年十二月末日現在

公	道府縣有	土地臺帳面積			見	木	面	積
		森林	原野	計				
市	有							
郡	有							
道府縣	有							
		針葉樹林	闊葉樹林	針闊混濘樹林	竹林	計	無立木地	
		反	反	反	反	反	反	
		立	立	立	立	立	立	
		地	地	地	地	地	地	
		計	計	計	計	計	計	
		反	反	反	反	反	反	
		合	合	合	合	合	合	
		計	計	計	計	計	計	

(注意)

一 北海道、東京府委託伊豆七島及小笠原島ニ限り國有ノ一欄ヲ加ヘ本様式ニ準シ會計年度間ノ事實ヲ記入報告スヘシ

一 薪炭以外ノ用途ニ充ツルモノハ總テ用材欄ニ記入スヘシ

一 用材トシテ伐採シタルモノノ枝條根株ニシテ薪炭材ニ供スルモノハ其材積及價格ニ限り薪炭材ノ各相當欄ニ記入スヘシ

一 本表ニハ伐倒シタル儘ノ材積ヲ記入シ價格ハ山元相場(立木賣渡價格)ニ依リ計算スヘシ

一 用材ノ材積單位ハ尺角長サ十尺ニ相當スルモノ即チ實積十立方尺ヲ以テ石トシ薪炭材ノ材積單位ハ長サ二尺ノモノヲ高サ五尺巾十尺ニ積立テタルモノ即チ層積百立方尺ヲ以テ一棚トス

(此ノ層積ニハ間隙アルヲ以テ其ノ實積ハ三割ヲ減スルモノト見做シ即一棚ハ用材ノ七石ニ相當スルモノトス)

一 桐ハ林野以外ノモノヲモ調査シ林野以外ノモノニ付テハ「※」印ヲ附シ別記スヘシ

一 竹ノ材積ハ地方慣用ノ束ニ依リ計算シ其一束ノ數量ヲ備考トシテ記入スヘシ

一 其ノ他ノ欄ニ合算セルモノニシテ顯著ナルモノハ其樹種又ハ竹種名ヲ備考トシテ記入スヘシ

第七六 林野產物 (報告期翌年四月限)

大正何年

五倍子	數	量	價	格
		斤		円

松脂	松烟	木タール	醋酸石灰	計
		石	貫	

(注意)

一本表ハ御料、國有、公有、社寺有、私有林野ニ於ケル總生産額ヲ調査スヘシ

第七七 林野產物定期調査 (報告期翌年四月限)

大正何年

林造			數	量	價	格
松	扁柏	杉				
				升		円

合	計	野	林
---	---	---	---

(注意)

一本表ハ大正四年ノ調査ヲ以テ第一回トシ以後毎三年ニ調査報告スヘシ
 一北海道、東京府委託伊豆七島及小笠原島ニ限り國有ノ一欄ヲ加ヘ本様式ニ準シ記入報告スヘシ

○林業講習報告ノ件

農商務省令第一號

明治三十九年五月農商務省訓令第十五號左ノ通り改正シ大正四年ノ事實ニ付キ報告スヘキ分ヨリ之ヲ施行ス

大正四年一月二十九日

各管内ニ於ケル林業講習ノ狀況自今左記様式ニ據リ翌年一月限調査報告スヘシ

林業講習

大正何年分

農商務大臣

市町村	郡	道府縣	主催者	開會數	開會日數	講習生數	費				講習科目	
							道府縣費	郡費	市町村費	其ノ他		

計												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

講習ノ成績

(注意)

- 一 講習ノ成績ハ講習ヲ卒ヘタル者ノ就業ノ實況及講習ノ爲生シタル林業發達ノ事項ヲ簡明ニ記載スヘシ
- 一 講習費用ハ主催者ノ費用ノ外補助費ヲモ掲クルヲ要ス例ヘハ府縣主催ノ講習ニ對シ郡費又ハ市町村費ヲ以テ講習生ノ食費若ハ旅費等ヲ補助シタルトキハ其ノ金額ヲ郡費市町村費ノ欄ニ掲クヘシ
- 一 郡市以下主催ノ講習ニ對シ府縣郡費ヲ以テ補助シタルトキ亦同シ
- 一 講師ニシテ本俸アル縣技師又ハ巡回教師アルトキハ其ノ俸給旅費ハ之ヲ除キ單ニ講習費ヨリ支出セシ報酬手當ノミヲ算入シ特ニ招聘シタル講師ト雖同時ニ他ノ講師ヲ兼タルトキハ其報酬旅費ハ分割計算スヘシ
- 一 講師ノ資格及氏名ヲ備考トシテ掲記スヘシ

□境内編入

○社寺境内編入

(參照)

國有林野法 明治三十二年三月法律第八十五號

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ組換ヲナスコトヲ得
組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有
林野ニ編入ス
社寺上地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第一條 國有林野法施行規則 明治三十二年八月農商務省令第二十五號

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ事由
ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添付シ地方長官ヲ經由シテ內務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願
書ニ添付スヘシ

第二條ノ二 內務農商務兩大臣ハ地方長官ヲシテ國有林野法第三條第三項ノ境内編入ヲ爲サシムルコ
トヲ得

書式

何國何郡(市)何村(町)大字何字何々番森林(原野)

臺帳面積何程(ノ内)

一實測面積何程

右ハ當神社(寺院、佛堂)ノ上地ノ森林(原野)ニ候處左記ノ事由有之候ニ付當神社(寺院、佛堂)ノ境
内ニ編入許可相成度實測圖相添此段相願候也

(出願ノ事由)

何國何郡(市)何村(町)大字何
何神社神職(何寺院住職何佛堂受持僧侶)

氏 名 印

氏子(信徒)總代

檀徒(信徒)總代

信徒總代

氏 名 印

年 月 日

內務大臣 農商務大臣 氏名殿

○社寺境内編入出願取扱ノ件

林發第三號

府縣 沖繩縣ヲ除ク

國有林野法第三條第三項ニ依ル社寺境内編入ノ出願ニ付テハ國有林野法施行規則ニ依ルノ外左記條項
ニ準據シ之ヲ取扱フヘシ

右訓令ス

明治三十九年二月十七日

農商務大臣 松岡康毅 敬
內務大臣 原

第一條 地方長官社寺境内編入願ヲ受理シタルトキハ第一號書式ニ依リ直ニ大林區署長ニ通知スヘシ
第二條 社寺境内ニ編入シ得ヘキ箇所ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ其ノ社寺ニ相當スル區域ニ限ル

一 社寺ノミノ風致ニ必要ナル箇所
 二 祭典、法要、又ハ參詣道ニ必要ナル箇所
 三 歴史若ハ古紀、社傳、等ニ於テ社寺ト密接ノ緣故アル箇所
 四 社寺ノ建物建築ニ要スル箇所
 五 特ニ社寺ノミノ災害防止(濫リニ防風ト稱スル類ヲ除ク)ノ爲必要ナル箇所
 無格社、佛堂等ニシテ別格ノ由緒ナク其建物矮小ナルモノ、出願ハ特別ノ事由アルニ非サレハ之ヲ許可セサルモノトス

第三條 編入面積ニ付大林區署長ト協議整ヒタルモノ又ハ編入ヲ要セスト認メタルモノハ地方長官限リ之ヲ處分スヘシ

第四條 地方長官前條ニ依リ編入許可ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ豫メ大林區署長ニ協議シ實地調査ヲ行フヘシ

前項ノ處分ヲ了シタルトキハ地所引渡方大林區署長ニ請求スヘシ

第五條 地方長官第三條ニ依リ編入不許可ノ處分ヲ爲シタルトキハ直ニ大林區署長ニ通知スヘシ

第六條 第三條ノ處分ハ每一箇月分取纏メ第二號書式ニ依リ報告書二通ヲ作り翌月十日迄ニ内務農商務兩省ヘ各一通ヲ進達スヘシ

第一號書式

地籍	面積			社寺名稱
	臺	帳	實測	
、	、	(ノ内)	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	
、	、	、	、	

備考 臺帳面積全部ヲ出願セサル場合ト雖臺帳面積ニハ全面積ヲ記入スヘシ(ノ内)ト付記シ實測面積ハ出願面積ノミヲ掲クヘシ

第二號書式 社寺境内編入報告

明治何年何月分

處分	面積			社寺名稱
	臺	帳	實測	
編入許可	、	、	、	、
編入不許可	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、
、	、	、	、	、

備考 (一) 臺帳面積全部ヲ編入セサル場合ト雖臺帳面積ハ全面積ヲ記入シ實測面積ハ編入面積ノミヲ掲クヘシ

(二) 出願面積ノ一部ヲ編入シ他ノ一部ヲ編入セサル場合ハ編入面積ヲ許可ノ欄ニテ報告スルニ止メ不許可ノ欄ニ包含セシメス即チ不許可ノ欄ニハ出願面積全部不許可ノ場合ニ限り記載スルモノトス

○國有林野ノ公賣公告以後ハ境内編入願ヲ受理セス

栃木縣告示第三四五號

林野整理支局ニ於テ國有林野ノ公賣ヲ公告シタル以後ハ其ノ林野ニ對スル社寺境内編入ノ願書ハ受理セサルモノトス

明治三十三年九月一日

栃木縣知事 溝部 惟 幾

○國有林野ノ組替ニ付キ大林區署ニ協議ノ件

林發第三六號
國有林野法第三條第三項ノ社寺境内ニ編入ノ出願有之候場合ニノミ國有林野法施行規則第二條ノ手續ニ依リ貴官ヨリ大林區署長ニ御協議可相成規定ノ處爾今ハ國有林野法第三條第一項ニ依リ組替ヲ要スル場合モ凡テ大林區署長ニ御協議相成度依命此段及通牒候也

明治三十三年三月廿二日

山林局長

知事 宛

追テ大林區署長ニ御協議相成タルモノニシテ不許可指令ノ分ハ其ノ都度貴官ヨリ直ニ其ノ旨大林區署長ニ御通知相成候様致度候

豫テヨリ御協議相成候境内編入願回答濟ノ分ニ對シ不許可指令相成候節ハ其ノ都度御通知可相成答ノ處右ニハ回答番號年月日及出願箇所社寺名丈必ス御掲記相成候様致度此段申進候也

明治三十四年十一月十三日

東京大林區署長

栃木縣知事宛

○編入區域ノ實地授受ヲ省署スルノ件

發第三〇三號
從來社寺境内ニ編入相成候林野引渡ノ義ハ所轄小林區署ヲシテ取扱ハシメ居候處右編入區域ハ貴廳ハ勿論當署ニ於テモ御協議ニ依リ自然實地ノ狀況承知致居候ニ付キ假令實地ノ引渡ヲ爲サザルモ其ノ間ニ錯誤ヲ生スル虞ナキモノト被存候條實地引渡方省略致度就テハ將來許可ノ分ハ當署ヨリ引渡ニ可及旨御通知可致候ニ付其ノ節ハ直ニ當署ヘ領收證御送付相成度此段申進候也

明治三十九年四月廿三日

東京大林區署長

栃木縣知事宛

○分裂編入ハ領收書ト共ニ圖面寫ヲ大林區署ニ送ルノ件

發第五五〇號
三十九年六月東京大林區署長通牒
三十六年九月發第八九二號ヲ以テ小林區署ヘ送付方申進置候境内編入地實測圖寫爾今領收書ト共ニ當署ヘ御送付相成度此段申進候也

追テ數番ノ内一番若クハ其各番ノ一部ツ、許可相成候場合ハ其各地番臺帳及編入反別並地番境必ス御明示相成度此段申添候也

○編入許可ハ小林區署ニモ通知スルノ件

監發第一一二號
社寺境内編入許可ニ係ル林野ニ對シテハ貸地其ノ他ノ處分ヲ爲サ、ル見込ニ候處右ハ當該小林區署ヲシテ可成迅速ニ其ノ許可ヲ了知セシムル外適當ノ方法無之哉ニ被存候ニ付爾今御證議ト同時ニ當該小林區署ヘ便宜其ノ趣御通知相成候様致度御協議旁此段及照會候也

明治四十年五月四日

東京大林區署長

栃木縣知事宛

○境内編入協議不調上申ノ場合ハ大林區署ニモ通知スルノ件

東林第一〇八號

那須郡伊王野村溫泉神社同親園村溫泉神社同向田村鹿島神社境内編入願ノ件ニ付過般主務省へ具申相成候趣ニ候處自今具申相成候場合ハ協議ノ調不調ニ拘ラス其ノ旨御通知相成度此段申進候也

明治四十二年四月一日

東京大林區署長

栃木縣知事宛

□ 雜 件

○國有林野放牧ニ關スル件

發第一五一號 明治三十一年十月十五日局長通牒

國有林野内放牧牛馬取扱方ノ義ニ付別紙寫ノ通各大林區署へ内訓相成候條爲念此段及通牒候也

戊第二二八號寫 明治三十一年十月十五日大臣ヨリ各大林區署長ニ

各地ニ於テ舊來ノ慣行ニ依リ許可ヲ得スシテ國有林野ニ牛馬ヲ放牧スルモノ有之候處森林法實施ノ今

日林地ニ對シテハ同法第四十二條ノ制裁モ有之最早不問ニ付スルコトヲ得ス然レトモ多年ノ慣行ナレ

ハ一朝之ヲ嚴禁スルトキハ當業ノ困難ハ勿論延ヒテ該業ノ發達ニ影響ヲ及ホスヘキヲ以テ自今國土保

安上若クハ林業上支障無之箇所ニ限リ林野地トモ左ノ方法ニ依リ取扱フヘシ

一國有林野ニ牛馬ヲ放牧スルノ慣行アル地方ハ放牧期限ヲ定メソノ(放牧期限ハ一ケ年以内)放牧料

トシテ一期間一頭ニ付金五錢以上十錢以下ノ範圍内ニ於テ地方ノ狀況ヲ斟酌シ適宜徵收ノ上許可

スヘシ

但一才牛馬ハ該料金ヲ免除スヘシ

一已ニ放牧料ヲ納付シタル牛馬ニ對シテハ其ノ所有主ニ異動アルモ該期間重テ料金ハ徵收セサルモ

ノトス

一牛馬死亡又ハ賣却等ノ爲頭數ニ減少ヲ來シ或ハ約定ノ期間放牧セサルモ既納料金ハ還付セサルモ

ノトス

前各項ノ外取締上必要ト認ムルモノハ適宜取定メ施行スヘシ

一徵收科目ハ追テ達スヘシ

(參照)舊森林法第四十二條 濫ニ他人ノ森林内ニ於テ牛馬ヲ放牧シタル者ハ二圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處ス

改正森林法第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○司法事務ニ關係アル府縣令發布ノ件 司法省訓令第二號 明治二十四年五月

府縣ニ於テ發布スル府縣令ハ其司法事務ニ關係アルモノニ限リ發布ノ都度當省ヘ報告シ且ツ其管内ニ在ル地方裁判所區裁判所及其地ヲ管轄スル控訴院ヘ報告スヘシ

○森林所有者不明ノ場合通知書保管ニ關スル件 林第七九二二號 明治三十三年十一月二日局長通牒

森林法第十二條ノ通知書ヲ森林所有者ニ送達セシモ本人逃亡失踪又ハ轉々寄留旅行等ノ爲送達シ能ハサル場合ハ書類ハ土地所在ノ市町村長ヘ保管セシメ候様取扱フヘキ旨徳島縣伺ニ對シ通牒致シ候ニ付爲念此段及通牒候也

(參照)舊森林法第十二條

保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ會議ニ付セムトスルトキハ開會三十日以前ニ府縣公報ヲ以テ告示シ其ノ森林所有者並大林區署土木監督署ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在市町村役場ニ揭示スヘシ

改正森林法第十八條 保安林編入解除ヲ爲サムトスルトキ又ハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルトキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者土地所有者其ノ他土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニ之ヲ揭示スヘシ地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方森林會ノ議ニ付スヘシ

○脱落林野國有地編入ノ件 二乾第二〇號 三十六年十一月二十七日山口縣知事伺

改租ノ際脱落地ト相成候山林原野ヲ國有地ニ編入シ義ニ付テハ三十五年一月二十九日附林第二二五號ヲ以テ御通達ノ旨モ有之候處爰ニ山林改租ノ際誤テ調査脱落セシ山林ヲ發見シタル旨ヲ以テ更ニ民有

地ニ編入ノ義出願ノモノアリ右ハ證左ノ有無ニ關セズ下展法第一條第三項ニ依リ期限内申請ノ手續ヲ爲サトリシモノニ付當然國ノ所有ニ歸着シタルモノトシ國有ニ編入可相成義ト存候處前述ノ如キ場合ハ當廳限リ國有地編入方取計實地ハ所轄大林區署ヘ引繼スヘキ義ト相心得可然哉又ハ當廳ニ於テハ右發見シタルコトヲ大林區署ヘ通知スルニ止メ國有地編入方ハ總テ同署ニ於テ處分可相成義ニ有之候哉右山林局長回答
右ハ三十五年一月林第二二五號御通達ハ事務ノ簡捷ヲ期スル御主旨ニ有之候ヘ共後段御意見ノ通貴官ニ於テハ林野發見シタルコトヲ大林區署ニ通知スルニ止メ國有地編入方ハ總テ林區署ヲシテ處分セシムヘキ義ト御了知相成度

(參照)

林第二二五號 明治三十五年一月農商務大臣ヨリ通達

地租改正既濟地方ニ於ケル未定地脱落地ノ内森林原野ニ係ルモノハ國有土地森林原野下展法ニ據リ該申請期間内ニ申請ヲ爲サレハ當然國ノ所有ニ歸着スルモノト推定セララルニ依リ町村大字ノ區域ニ異動ヲ生セサル分ハ從來ノ如ク地方廳ヨリ引繼ノ手續ヲ須タス所轄大林區署ニ於テ直ニ地方廳ニ協議シ國有林野ニ編入スル方相互ノ利便ナルヲ以テ其ノ邊內務省ヘ商議及ヒタルニ同省ニ於テモ更ニ異存ナシトノ事ニ付自今ハ右ニ據リ取扱フヘシ

○府縣郡ノ造林ニ關シ營林ノ施業方法ハ府縣郡會ノ議決ヲ經ヘキ

モノニアラサル件 地甲第八一號 明治三十八年四月二十日地方局長通牒

府縣郡ノ造林ニ關シ營林ノ施業方法ヲ府縣郡會ニ付議スル向有之候處右ハ府縣郡會ニ諮問スルハ格別其議決ヲ經ヘキ筋ノモノニ無之候條御心得迄此段及通牒候也

○保安ニ關係アル不要存置林野處分方ノ件

明治四十一年十月六日林發第三五五號局長ヨリ各大林区署長へ通牒

不要存置林野ニシテ現ニ保安林ニアラサルモ事實保安ノ關係ヲ有スルモノ可有之是等ノモノ賣拂處分ニ因リ利害關係者以外ノ者ノ手ニ歸シ濫リニ伐採スルノ結果ヲ來スノ虞ナキヲ保シ難キニ付右保安ノ關係アリト思料スル箇所ハ賣拂前豫メ府縣知事ニ協議シ保安林ニ編入スルノ必要アルモノハ其ノ編入ヲ待ツテ處分相成度依命此段及通牒候也

追テ保安ノ關係アルモノハ處分調査ノ際特ニ注意シ其ノ實況ヲ取調處分調査書ト共ニ具申セシムル様調査委員ニ御訓示相成可然候此段申添候也

○國有林野ノ所有權移轉登記ニ關スル件

林發第一六二號 明治四十二年一月局長通牒

府縣郡ノ事業トシテ模範林造設ノ爲ニ拂受ケラレタル國有林野ノ所有權移轉登記ニ關スル登錄稅ノ義ニ付テハ今回司法省ト協議ノ結果登錄稅法第十九條第二號ニ該當スルモノトシテ爾來登錄稅ヲ要セサルコトニ相成候條御承知相成度此段及通牒候也

○町村有ノ林野其ノ他ノ土地所有者名義訂正ノ件

林第五四三號 明治四十三年九月二十一日內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

市町村(大字部落ヲモ含ム)所有ノ林野及其他ノ土地ニシテ土地臺帳面ノ所有者カ一箇人若ハ箇人共有等ノ名義ニナリ居ルモノ有之候ハ、此際至急正當所有者ノ名義ニ更正ノ義各町村へ通達整理方御取計有之度依命此段及通牒候

追テ本名義更正ニ付テハ移轉登記ノ手續ヲ爲サス直ニ町村會ノ決議ヲ經其謄本ヲ添へ町村長ヨリ稅務署へ申請セハ稅務署ニ於テハ誤謬訂正トシテ取扱フコトニ稅務監督局ト交渉濟ニ候條此段申添候

○町村有ノ林野其他ノ土地所有者名義訂正ノ件

林第五四三號 明治四十三年十一月四日內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

本年九月二十一日林第五四三號ヲ以テ町村有ノ林野及其他ノ土地名義訂正ノ義ニ付及通牒候處或ル町村ノ内ニハ本通牒ヲ動機トシ現ニ町村、大字部落等ノ所有タルモノヲ町村民町會議員等結託シ個人若クハ個人共有ニ引直シ分割計ルモノ有之哉ニ相聞ヘ候若シ斯ノ如キモノ有之候テハ甚々不都合ニ候條能ク各町村ノ實況ヲ調査シ充分御監督ノ上右ノ如キ不當ナル處置ヲ爲ス者出テサル様豫メ御注意有之度依命此段及通牒候也

○國有林野ノ拂受者緣故ニ關スル件

林第三九四號 明治四十四年一月廿日內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

客年十月二十一日農商務省令第廿三號ヲ以テ國有林野法施行規則中改正相成候結果舊來國有林野ノ拂受緣故者トシテ認メラレ居タル市町村内ノ一部ニ係ル緣故ハ總テ市町村ヲ以テ緣故者ト爲スヘク又特定ノ目的ヲ以テ國有林野ノ賣拂ヲ受ケタルモノハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其目的以外ニ林野ヲ使用シ又ハ讓渡スルコトヲ得サリシヲ其拂受后拾ケ年ヲ經過セハ右許可ヲ要セサルコト、相成候ヘ共尙其ノ後トモ不都合ノ行爲者ヲ出サ、ル様充分御監督相成度尙村長ヘモ前記規則改正ノコトヲ通知シ併セテ最前ノ目的ヲ没却スル如キモノ無之様御注意有之度此段及通牒候也

○氏子檀徒信徒連署ニ關スル件

發部三第二八號 明治四十三年二月八日內務部長ヨリ各郡市長ニ通牒

社寺佛堂ノ願届ニ對シ連署スヘキ總代人ハ三名以上即チ其社寺佛堂ニ置キタル總代一人一同ノ連署スヘキ儀ハ客年二月縣令第七號總代人ニ關スル規則第十條ニ依リ既ニ明瞭ノ答ニ候處現ニ五名乃至十名以上ノ總代人アルニモ不拘其ノ員數ヲ省略シテ三名若クハ四名ノミノ連署ヲ以テ提出スルノ向少カラサルヲ認メ候ニ付テハ自今御注意相成尙市役所町村役場ニ於テ書類受理ノ際ハ必ス一應總代人名簿ニ對照ノ上進達候様致度依命此段及通牒候也

(參照)

栃木縣令第七號 四十二年二月二日

神社寺院佛堂總代人ニ關スル規則

第十條 總代人ハ社寺佛堂ニ關スル願届等ニ連署スヘシ

○工事執行規程

明治三十三年七月十八日
縣告示第三〇二號

第一條 縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ハ此ノ規定ニ依ル

第二條 工事ノ施行ハ直轄及請負ノ二種トス

第三條 工事ノ請負及工事ニ要スル物件ノ買入若ハ借入ハ競争又ハ指名入札ニ付ス但シ左ノ場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 入札人ナキトキ又ハ再入札ニ付スルモ入札人一人ナルトキ

二 急施ヲ要シ競争入札ニ付スル暇ナキトキ

三 特別ノ技術ヲ要スル工事ヲ施ストキ

四 測量製圖器械其ノ他特種ノ物品又ハ特別使用ノ目的ヲ以テ買入若ハ借入ル、トキ

五 土地建物工作物其ノ他土砂等ノ買入若ハ借入チナストキ

六 百圓未満ノ工事及物件買入又ハ賣却ノトキ

七 重大ノ事業ニシテ請負人特定ノ必要アルトキ

八 土木ノ工事ニシテ市町村ノ請負又ハ地元人民ノ請負ト爲ストキ

九 増工事ニシテ前請負工事ニ付帶スルトキ

十 直轄工事中ノ部分請負ニ係ルモノニシテ隨意契約ノ必要アルトキ

十一 入札ノ價格豫定價格ニ違ヒス再入札ニ付スルモ尙豫定價格ニ違ヒサルトキ

第四條 工事ノ直轄施行スル場合左ノ如シ

一 特別ノ技術ヲ要シ又ハ模範トナルヘキ工事ヲ施行スルトキ

二 急施ヲ要シ請負ニ付スル暇ナキトキ

三 請負人ナキトキ

四 其ノ他直轄施行ヲ必要ト認ムルトキ

第五條 此規定ヲ施行スル爲必要ナル細則ハ知事之ヲ定ム

○直轄工事施行規程

訓令第二十一號 明治
三十七年十二月六日

直轄工事施行規程

第一條 直轄工事ハ左ノ方法ニ依リ施行スヘシ

一 直營

二 部分請負

第二條 直營ハ材料ヲ購入シ職工人夫ヲ使用シテ施行スルモノトス

多數ノ職工人夫ヲ使用スル場合ニ於テハ可成供給者ヲ定メ日々要スル處ノ數ヲ出サシムヘシ

職工人夫ノ就業時間ハ十時間乃至十二時間トシ日ノ長短ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

暴風雨出水又ハ急施ヲ要スル場合ハ前項ノ規定ニ不拘就業セシムルトキ得

就業時間外ニ服役セシメ又ハ中途退場シタルトキハ其ノ時間ニ應シ賃錢ヲ増減スヘシ但シ其ノ増減

スヘキ部合ハ就業時間ヲ以テ一日ノ賃額ヲ除シ其ノ得タル額ヲ一時間ノ賃錢トシテ之ヲ定ム

暴風雨出水ノ場合ニ於テハ普通賃錢ノ十分ノ三以内ヲ増額スルコトヲ得

雨天等ノ爲服役セス又ハ縣ノ都合ニ依リ工事ヲ休止シタル日ハ賃錢ヲ支給セサルモノトス但シ特ニ

工事場ニ滞在シタル者ニハ其ノ半額ヲ支給スルコトヲ得

第三條 部分請負ハ一工場又ハ一工事ヲ二ヶ以上ニ分割シ請負ニ付スルモノトス

第四條 職工人夫ノ供給ハ隨意契約部分請負ハ指名競争ノ例ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第五條 直轄工事場ニハ左ノ帳簿ヲ備ヒ日々之ヲ整理スヘシ

- 一 材料検査簿
 - 二 職工人夫點檢簿
 - 三 工事受拂簿
 - 四 物品受拂簿
 - 五 功程簿
 - 六 日誌
- 前項ノ帳簿ハ第一號乃至第六號様式ニ依ルヘシ
 多額ノ費用ヲ要スル工事ニ付テハ第一項ニ掲ケルモノノ外特別ノ帳簿ヲ設ケシムルコトアルヘシ
 第六條 左ニ掲ケル日ハ工事ヲ休止スヘシ但シ事業ノ都合ニ依リ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 一大祭日及地方例祭日
 二年末年始 自十二月廿九日至翌年一月三日
 (様式略ス)

○鑛山監督署長鑛業又ハ砂鑛法ノ出願書類ヲ受理シタル場合處
 理ノ件 大正元年八月二十日 農商務省訓令第一號

北海道廳 府縣 鑛山監督署

鑛山監督署長鑛業又ハ砂鑛法ノ出願書類ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ出願地ノ全部又ハ一部カ新ナル場所ニ係ルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ出願地所管ノ地方長官ニ通知シ公益上支障ノ有無ニ關スル意見ヲ求メ且ツ出願地ノ地名地種目出願地ニ鑛業法第十條及第十一條ニ掲ケタルモノノ有無又ハ出願地内ノ土地所有者ニ關スル事項ノ調査ヲ請求スヘシ

地方長官前項ノ通知及請求ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ公益ニ關スル意見ト共ニ前項調査ノ結果ヲ鑛山監督署長ニ通知スヘシ
 明治三十二年三月農商務省訓令第十三號同三十八年六月訓令第十五號及同四十二年訓令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

○砂防法ト森林法適用上ノ調和ニ關スル件 內務省元土第一八四號 大正二年四月十六日土木山林兩局長通牒

從來治水ノ爲同一地域ニシテ砂防法ニ依リ取締ヲ爲ス外森林法ニ依リ取締ヲ爲スモノ往々有之候處同一ノ地域ニ對シ二種ノ法律ヲ適用スルコトハ實際上必要之ナカルヘク地方長官ノ意見モ有之候ニ付執レカ一方ニ依リ取締ヲ爲スヘキコトニ決定相成候條右様御承知相成度從テ從來右二様ノ取締ヲ爲シタル土地ニ付テハ此際實地ノ必要ニ基キ相當解除ノ手續御取計相成度尙砂防指定地中當分砂防法ニ依リ工事ヲ施行スル見込ナキ部分ニシテ保安林トナシ森林法ニ依リ施設ヲ爲スノ必要アルモノハ砂防指定地ヲ解除シ又保安林中當分森林法ニ依リ施設ヲ爲ス見込ナキ部分若ハ開墾禁止制限地ニシテ砂防設備地トナシ砂防法ニ依リ工事ヲ施行スル必要アルモノハ保安林若ハ開墾制限地中ヨリ解除シ速ニ國土保安ノ目的ヲ達スル様御措置相成度候

○立木及木材ノ單位ニ關スル件 農商務省告示第八十六號 大正三年三月二十八日

國有林ニ於ケル立木及木材ノ材積單位ハ大正三年四月一日ヨリ實積ハ石(十立方尺)層積ハ棚(百立方尺)ヲ用フ

○國有森林原野及其產物拂下後ニ於ケル監督ノ件 林發第一四九號明治三十三年十一月二十日局長通牒

明治三十三年整第一〇〇二號ヲ以テ國有林野ヲ特定ノ目的ヲ以テ特賣シタルモノ、取締方ニ關シ曩ニ及御通牒置候處產物ノ賣拂ニ付テモ同シク之カ取締ヲ爲スノ必要有之且ツ林區署ノミニテハ右讓渡後

ノ監督方法十分ナラサル次第ニ付爾今公共團體ニ賣拂タルトキ及特ニ賣拂後ノ監督ヲ要スルトキハ其讓渡ノ都度大林區署長ヨリ關係地方長官ヘ其ノ讓渡ニ關スル事項ヲ通知スヘキ旨大林區署ニ對シ訓令可致候條貴官ニ於テモ夫々關係警察署長分署長又ハ郡市長町村長ヲシテ讓受人ニ於テ其ノ讓受ノ目的ニ違反スル事實ナキヤ否ヲ注意セシメ若シ之レアリタルトキハ之ヲ大林區署長ニ報告セシメラル、樣致度此段依命通牒候也

○國有森林原野及其產物拂下後ニ於ケル監督ノ件

林發第一四九號明治卅九年十一月主務大臣ヨリ各大林區署ニ内訓

國有林野法第八條第十五條又ハ明治三十二年勅令第三百六十三號ニ依リ特定ノ目的ニ供スル爲國有林野若ハ產物ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ左記ノ條項ニ準據シテ處理スヘシ

第一條 大林區署長特定ノ目的ニ供スル爲國有林野又ハ產物ヲ讓渡シタルトキハ其目的林野ノ所在面積數量及讓受人ノ氏名名稱住所ヲ林野ニ在リテハ其ノ所在地ヲ管轄スル地方長官及小林區署長ニ產物ニ在リテハ其ノ目的ニ供用スヘキ地方ヲ管轄スル地方長官及小林區署長ニ通知スヘシ

前項地方長官ニ對スル通知ハ公共團體ニ讓渡シタル場合ヲ除クノ外特ニ監督ノ必要ナシト認ムル場合ハ之レヲ爲スヲ要セス

第二條 小林區署長前條ノ讓渡ヲナシタルトキハ前條ニ準シ之ヲ大林區署長ニ報告スヘシ

大林區署長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ通知スヘシ

第三條 林區署長ハ特定ノ目的ニ供スル爲國有林野若ハ產物ヲ讓受ケタル者カ契約違反ノ事實ナキヤヲ注意シ若シ違反者アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク相當ノ處置ヲ爲スヘシ

○執務上注意スヘキ事項 (大正五年四月二十九日提出渡邊技師復命書)

一 公有林野造林事業又ハ荒地地復舊事業補助金決算表國庫補助金豫定額欄ニハ當該年度ニ於ケル交付額並前年度繰越金額ヲ記載スヘキモノトス

二 同上決算ノ結果生シタル殘額ノ僅少ナル場合ニ於テ不用額トシテ處理セントセル向アルモ右ハ整理

三 年度ニ於テ同一事業ヲ行フ以上ハ必ス繰越使用ノ義務アルモノトス

同上事業ニ關シ事業者ニ交付スヘキ金額ノ決定ハ府縣ノ編成交付シタル設計書ニ依リ設計額又ハ縣ノ認定ニ基ク標準額ニ依レル向アルモ右ハ必ス事業者ニ於テ支出シタル實費額ニ依ルヘキモノトス

四 同上事業竣工届出ニ際シ單ニ所要經費ノ總額ヲ掲記セシムルニ止ムル向アルモ右ハ其ノ所要經費精算書ヲ添付セシムルヲ要ス

同上交付金決定上等級ヲ設クルコトニ定メアルモ之力決定ヲ單ニ實地検査員ノ認定ニ一任セル向アリ右ハ尙相當審査ノ必要アルヘシ

六 全上事業ノ豫定變更ニ關シ事前ニ於テ認可ヲ申請スルノ手續ハ今尙充分ニ行ハレス爾後一層ノ注意ヲ要ス

七 全上事業上使役シタル人夫員數ノ計上ニ當リテハ必ス使役實數ニ依ルヘキモノトス

八 全上事業ニ關シ指令ヲ與ヘタル造林地ノ異動又ハ面積ノ變更等ニ關シテハ必ス事前ニ於テ認可ノ手續ヲ履行セシメラレタシ

九 全上事業ニ關シテハ實行見込確實ナル分ニ限り獎勵金又ハ補助金交付ノ申請ヲ爲サレタシ

一〇 同上事業ノ成功検査ヲ郡長ニ委任セル向アルモ右ハ縣技術員ヲシテ實査セシムルヲ可トス

一一 森林組合設立獎勵金交付ニ關スル經伺書ニハ組合總會ノ決議ヲ經タル當該年度收支豫算書並事業豫定書ヲ添付セラレタシ

一二 施業要領認可報告中所有者ヲ單ニ公有社寺有トノミ記載セス何町村何大字何神社等ト記載セラレタシ

一三 國有林又ハ御料林ヲ保安林ニ編入上申ノ際ハ必ス將來ノ施業方法ニ關スル當該官廳トノ協議ノ概要ヲ知り得ヘキ書面ヲ添付セラレタシ

一四 單ニ保安的施業方法定マレルノ故ヲ以テ保安林編入ヲ要セサル旨ノ上申ヲ爲スモノアリ右ハ大

- 一五 正三年三月三十日林第一〇九一號通牒ノ主旨ニ反スルモノトス
新ニ編入セントスル保安林ニ依リ保安ノ目的ヲ達シ得ルヲ以テ保安林ヲ解除セントスル向アル
モ右ハ未タ解除ノ理由ト爲スニ足ラサルモノナリトス
- 一六 單ニ地盤安定セルノ理由ヲ以テ保安林ヲ解除セムトスル向アルモ右ハ將來普通作業ニ依ルモ尙
國土ノ保安ヲ害スルコトナキヲ明ニスルニアラサレハ解除ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス
- 一七 地方森林會ノ決議ト知事ノ意見ト異ナルトキ著シク上申ノ遅延スルモノアルモ決議濟後ハ速ニ
上申スヘキモノトス
- 一八 森林法第十八條又ハ第二十一條ノ期間經過前保安林處分ノ手續ヲ進行スルモノ往々有之モ右ハ
理由ノ如何ヲ問ハス告示ノ翌日ヨリ起算シ所定ノ日數ヲ經過シタル後其ノ手續ヲ進行スヘキモ
ノトス
- 一九 土砂、并止、水源涵養其他付近ノ地況ニ密接ノ關係ヲ有スル保安林處分ニ關シ上申ノ際ハ必ス
付近ノ地形並地物配置ノ狀態ヲ知り得ヘキ概況圖ヲ添付セラレタシ
- 二〇 解除調書面積欄ノ記載ハ全筆ニ係ルトキハ臺帳面積ヲ掲ケ(實測又ハ見込面積ヲ併記スルハ妨
ケナシ)一筆中一部ニ係ルトキハ現保安林欄ニハ臺帳面積及實測又ハ見込面積ヲ併記シ要解除
地及殘地欄ニハ實測又ハ見込面積ヲ掲ケ且何レノ場合ニ於テモ面積ノ上ニ臺帳實測又ハ見込ノ
文字ヲ附記セラレヘシ
- 二一 森林法第十八條ノ告示ニ掲グル面積ハ臺帳面積及實測又ハ見込面積ノ兩者ヲ明示セラレタシ地
方森林會ニ附議スヘキ議案ニ掲グル面積亦同シ
- 二二 地方森林會規則第二十四條ニ依リ未タ會務處理ノ爲必要ナル規則ヲ制定セサル府縣ニ於テハ速
ニ之レヲ制定スルヲ要ス
- 二三 地方森林會ノ議事録ニハ議長及議員數名ヲシテ署名セシムルヲ可トス
- 二四 保安林編入解除上申ノ際ニハ森林法第二十一條ノ異議意見ニ對スル地方長官ノ意見ヲモ開陳ス

- 二五 ルノ取扱トセラレタシ
- 二六 森林組合ニ於テ總代會ヲ設ケタル場合ニ於テモ尙定款中總會ニ關スル規定ヲ設ケヘキモノトス
- 二七 同上組合員ノ議決權費用負擔額及收益分配額算定ノ標準ハ定款中之ヲ明確ニ規定セシムルヲ要
ス
- 二八 全上通常總會ハ事業年度開始前ニ開會スル様定款中規定セシメラレタシ
- 二九 同上定款中任期滿了ニ依ル役員改選ノ場合ニ於テ選舉ノ期限ヲ任期滿了一ヶ月前ト規定スル向
アルモ右ハ任期滿了前一ヶ月以内ト規定セシメラレタシ
- 三〇 施業森林組合ニ於テ其ノ施業ヲ組合員各自ニ於テ施行スル場合ハ定款中組合員ニシテ組合ニ於
テ定メタル方法ニ依リ施業ヲ爲サ、ルトキハ之ヲ強制シ得ヘキ規定ヲ設クルヲ要ス
- 三一 重要物産同業組合ニシテ製品ノ検査ヲ施行スルモノニアリテハ其ノ定款中之ニ關スル規定ヲ明
確ニ規定セシムルヲ要ス
- 三二 保安林開墾制限、禁止地ノ調査及處分方ニ關スル明治四十四年五月林第二三六八號農商務次官
通牒中第一號及第二號様式ハ左記各號ニ依リ記載セラレタシ
- (一) 第一號様式ニ關シ
イ 本通牒第一、第一項及明治四十年八月林發第二五六號通牒ニ依リ處分シタル區域制限地内ヲ精
査シタル面積ヲ各相當欄ニ掲記スルコト但シ該開墾區域制限地外ニ於テ調査ヲ爲シタルモノア
ルトキハ之ヲ相當欄ニ朱書スルコト
ロ 前號前段ニ依ル精査未濟ニ係ル縣下全体ノ面積ハ調査未濟面積トシテ必ス備考欄ニ掲記スルコ
ト
- (二) 第二號様式ニ關シ
イ 開墾區域制限地欄ニハ本通牒第一、第一項及明治四十年八月林發第二五六號通牒ニ依リ處分シ

タル區域制限地ノ内未タ同第二項ニ依リ處分スルニ至ラサル殘面積ヲ毎年十二月末日現在ニ依リテ揭記スルコト

合計欄ニハ前號ニ掲クル全縣下未處分開墾區域制限地總面積ヲ揭記スルコト

ハ 處分欄ニハイ號ニ掲クル開墾區域制限地中前年ニ於テ處分セル面積ヲ揭記スルコト

ニ 開墾區域制限地ヲ精査ノ結果小區域制限地トシテ依然存置セルモノノ面積ハ開墾區域制限地面積ヨリ控除シ處分欄中ノ開墾制限欄中ニ算入揭記スルコト

ホ 開墾區域制限解除欄ニハ開墾制限解除ト共ニ保安林編入開墾禁止制限等ノ處分ヲ爲シ又ハ諭示ニ依リ地盤保護工事ヲ爲サシメタルモノノ面積ハ之ヲ算入揭記セサルコト

ヘ 計欄ニハ開墾區域制限地面積ヲ算入セサルコト從テ該計ハ前々年末ノ開墾區域制限地面積ヨリ前年末ノ開墾區域制限地面積ヲ差引キタル殘面積ニ該當スヘキモノトス若シ符合セサルトキハ其ノ事由ヲ備考欄ニ説明スルコト

ト 累計ノ計欄ニハ前年中ニ處分シタル面積ノミチ處分欄ニ掲ケタル場合ト雖既往處分總面積ヲ加算揭記スルコト

チ イ號ニ掲クル區域制限地以外ヲ精査ノ上處分シタル場合ハ之ヲ相當欄ニ朱書スルコト

(三) 第一號及第二號表ニ掲クル面積ニハ各箇所ノ面積ヲ集計シタルモノニ付町未滿ハ四捨五入シ町位ニ止ムルコト

(四) 第一號及第二號様式ノ累計ニハ本通牒ヲ發シタル以來精査シタル總面積又ハ處分シタル總面積ヲ揭記スルコト但シ一イニ掲クル開墾區域制限地以外ニ係ル分ハ朱書スルコト

(五) 本通牒ハ國有林ニハ適用ナキモ若シ國有林ヲ調査又ハ處分シタルモノアルトキハ本通牒ノ様式ニ準シ用紙ヲ異ニシ作成報告セラレタキコト

三三 保安林編入ニ關シ保安林特別補償規則ニ依ル補償ヲ要スル場合ハ當該補償金豫算ノ配付ヲ得タ

林第二五九七號
大正四年九月二十七日

山林局長

國有林野開墾適地ノ處分ニ關シ別紙ノ通大林區署長へ通牒候右御含迄及通報候也

別紙

國有林野開墾適地ノ處分追々實行可相成ニ付テハ其ノ豫定地中ニハ立木地勢カラサルヘク是等ヲ開墾ニ供スル場合ニ於テ其ノ開墾事業ニ附帶シテ防風林若クハ薪炭林ノ爲ニ存續セントスル立木又ハ林相劣等若クハ幼齡ナル少許ノ立木等ニシテ不得止モノナルトキハ土地ニ付隨シテ之ヲ處分スルコトアルヘキモ其ノ他ノ立木ハ素ヨリ開墾トハ相關係ナキモノニ付別途處分ニ付スルハ取扱規定ノ本旨ニ付萬一立木所得ノ目的ヲ含メ濫ニ開墾ヲ出願スルカ如キ弊ヲ生セサル様豫メ留意相成度而シテ右立木ノ別途處分ニシテ廣大ナル地域ニ多大ノ材積ヲ存スルモノ、如キハ必スシモ一時ニ伐採スルヲ要セス地方ノ需要供給ニ鑑ミ尙拂下代金收入年額ノ關係並ニ開墾企業ノ便否ヲモ考量シ其ノ伐採量及伐採時期等事宜ニ適スル様相當措置相成度此段及通牒候也

林庶第一九二號
大正四年十一月六日

山林局長

栃木縣知事宛

府縣山林會其他林業ニ關スル集會開催ニ際シ林業講話ノ爲局員派遣方申請ノ場合ハ人線上ノ都合モ有之候條當該期日ノ切迫セサル様相當餘日ヲ存シ申請相成度尙右申請ノ際往々派遣官ノ氏名ヲ指定シ又ハ府縣林務主任官ヨリ直接局員ニ私翰ヲ以テ交渉シ來ル向有之候へ共右ハ講話事項ニ付特別ノ御希望有之義ニ候ハバ單ニ其ノ事項ヲ添申スルニ止メラレ候様致度爲念此段申進候也

內務省發書第一號

大正五年一月二十五日

栃木縣知事宛

廳府縣名ノ件通牒

這般府縣ト樺太廳警視廳ヲ北海道廳トニ併セテ適用スヘキ法令又ハ公文書ヲ發スヘキ場合ニ於ケル廳府縣名記載方ニ關シ法制局トモ協議ノ上左ノ通り定メラレ候ニ付爲念

記

樺太廳、警視廳、北海道廳ヲ府縣ニ適用スヘキトキ

警視廳、北海道廳、府縣ニ適用スヘキトキ

警視廳、府縣、又ハ北海道廳府縣ニ適用スヘキトキ

又ハ

五三〇
內務大臣官房文書課長

樺太廳

廳府縣

警視廳府縣
北海道廳府縣

國有林野法規

○國有林野法

明治三十二年三月
法律第八五號

第一條 此法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之ヲ組替ヲ爲スコトヲ得

組替ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ隣接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ

隣接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ隣接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第七條 隣接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ愛ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得
一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ
 三 社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フコト
 四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ
 五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フトキ
 六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ
 七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲メ貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ
 第九條 國有林野ハ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂ノ豫約ヲ爲スコトヲ得
 第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得
 一 公用又ハ公益事業ノ爲メ必要アルトキ
 二 牧畜又ハ植樹ノ爲メ必要アルトキ
 三 牛馬放牧ノ爲メ使用セシムルトキ
 四 第九條ニ依ル開墾者ノ爲ニスルトキ
 五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ
 第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得
 第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
 一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年
 二 家屋、倉庫其ノ他ノ建設物ノ場合ニ於テハ三十年
 三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
 第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限リ國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得
 第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限リ讓與スルコトヲ得
 一 反別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ付スルトキ
 二 府縣郡市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ
 第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ用途ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得
 前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス
 第十七條 社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保管セシムルコトヲ得社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得
 第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得
 第十九條 委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十條 國有林野ノ其ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト見做ス
 第二十一條 部分林ノ樹木ハ國有林者トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス
 部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國有林者トシ其ノ持分ハ收益分收ノ部分ニ均シキモノトス
 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十二條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十四條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十五條 主務大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十六條 此ノ法律ハ北海道ニ施行セス

沖繩縣ノ國有林野ノ貸付、使用及賣拂並其ノ產物ノ處分ニ關シ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

國有林野法施行規則

明治三十二年八月 省令第二十五號

第一章 社寺境内編入

第一條 社寺國有林野法第三條第三項ノ規定ニ依リ境内編入ヲ出願セムトスルトキハ願書ニ其ノ事由ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添付シ地方長官ヲ經由シテ內務農商務兩大臣ニ差出スヘシ

第二條 地方長官願書ヲ受理シタルトキハ大林區署長ト協議シタル後實地調査ヲ爲シ其ノ意見書ヲ願書ニ添付スヘシ

第二條ノ二 內務農商務兩大臣ハ地方長官ヲシテ國有林野法第三條第三項ノ境内編入ヲ爲サシムルコトヲ得

第二章 境界査定

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少ナクモ其ノ期日ヨリ五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ隣接地所有者ニ通告スヘシ但シ隣接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 隣接地所有者者期日ニ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ期日前境界査定官吏ニ其ノ事由ヲ申立テ延期ヲ出願スルコトヲ得

第五條 境界査定ヲ終ハリタルトキハ大林區署長ハ直ニ其ノ旨ヲ隣接地所有者ニ通告シ且所轄小林區署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ

第六條 隣接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六條 通告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

隣接地所有者者通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其ノ受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ差出スヘシ

郵便ヲ以テ通告書ノ送付ヲ爲ストキハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第六條ノ二 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ因リ隣接地所有者ニ對シ通告書ノ送附ヲ爲ス能ハサルトキハ大林區署長ハ官報ヲ以テ其ノ事由及通告ヲ爲スヘキ事實ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ公告ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ通告アリタルモノト看做ス

第三章 第四章 大正四年七月削除

第五章 貸付及使用

第二十二條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ貸付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ實測圖ヲ添付シ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

林野ニ立木竹アルトキハ其ノ種類及材積又ハ數量ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第二十三條 貸付料ハ年期貸ニ在リテハ其ノ年額一時貸ニ在リテハ其ノ金額金二十錢以上トス

第二十四條 貸付ノ許可アリタルトキハ契約擔任官吏ハ借受人ト共ニ貸借契約書ヲ作り双方署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ

一時貸付又ハ十年ヲ超エサル年期貸付ニシテ其ノ料金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第二十五條(削除)

第二十六條 借受人其ノ林野ヲ轉貸シ又ハ其ノ權利ヲ讓渡セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第二十七條 借受人契約期間滿了ノ時林野ヲ原狀ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコト能ハサルトキハ大林區署長ハ其ノ請求ニ依リ貸付料ヲ定メテ相當ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第二十八條 借受人林野ヲ原狀ニ復シ又ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキハ大林區署長ハ代テ之ヲ執行シ借受人ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ大林區署長其ノ附屬物收去ノ必要ナシト認メタルトキハ借受人力之ヲ拋棄シタルモノト看做スコトヲ得

第二十九條 借受人本則又ハ代テ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ大林區署長ハ林野ヲ返還セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ貸付料ハ之ヲ還付セス

第三十條 借受人ノ家族、傭人又ハ代理人本則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキハ借受人其ノ責ニ任ス

第三十一條 第十三條乃至第十五條、第十九條及第二十條ノ規定ハ林野ノ貸付ニ之ヲ準用ス

第三十二條 林野又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキハ借受人ハ直ニ其ノ旨ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第三十三條 國有林野法第十一條ノ規定ニ依リ國有林野ノ使用ヲ出願セントスル者ハ願書ニ見取圖又ハ實測圖ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第三十四條 大林區署長必要ト認ムルトキハ使用ノ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三十五條 第十五條、第十九條、第二十四條乃至第二十六條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ林野ノ使用ニ之ヲ準用ス

第三十六條 本章中大林區署長ニ屬スル職權ハ五箇年以内ノ貸付若ハ使用ニシテ面積一町步ヲ超エサルモノ又ハ一年以内ノ貸付若ハ使用ニ關シテハ小林區署長之ヲ行フ但シ林道、貯木場、土場、苗圃其ノ他森林附屬地ニ係ルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六節 交換

第三十六條 國有林野法第十四條ノ規定ニ依リ交換ヲ爲サムトスルトキハ大林區署長ハ相手方ト立會

ヲ以テ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 交換地ノ實測面積及價格

二 產物ノ種類材積又ハ數量及價格

三 第三者ノ權利ノ有無

第三十七條 大林區署長交換ヲ行ハムトスルトキハ意見書ヲ作り之ニ調査書實測圖及位置圖ヲ添附シ

テ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條 第二十四條ノ規定ハ交換ニ之ヲ準用ス

第七章 讓與

第三十九條 國有林野法第十五條ノ規定ニ依リ國有林野ノ讓與ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ其ノ事由

ヲ詳記シ之ニ實測圖ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十條 讓與セムトスル林野ノ使用ノ方法始期又ハ繼續期間ヲ指定スル必要アルトキハ之ヲ讓與ノ許可書ニ記載スヘシ

第八章 保管

第四十一條 社寺國有林野法第十七條ノ規定ニ依リ其ノ土地ノ森林ノ保管ヲ出願セムトスルトキハ願

書ニ實測圖及保護方法書ヲ添附シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十二條 社寺其ノ保管林ニ看守人ヲ置キタルトキ又ハ看守人ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名住所及年齡ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第四十三條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

- 一 保管林又ハ其ノ木竹ニ異狀ヲ生シタルトキ
- 二 採取スヘキ主産物ノ搬出ヲ終ハリタルトキ
- 三 保管林ノ植樹補植手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲シタルトキ

第四十四條 保管林ノ主産物ヲ採取スル場合ニ於テハ大林區署長ハ社寺ノ採取スヘキ産物其ノ伐採ノ方法及搬出期間ヲ指定スヘシ

第四十五條 第十三條及第十四條ノ規定ハ林野ノ保管ニ之ヲ準用ス

第九章 委託

第四十六條 國有林野法第十八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ委託ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ見取圖保護方法及規約書ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第四十七條 規約書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 林野保護ニ關スル負擔方法
- 二 産物ノ採取及分配ノ方法
- 三 違約者犯則者又ハ犯罪者ニ對スル處分方法
- 四 其ノ他必要ナル事項

第四十八條 大林區署長又ハ小林區署長必要ト認ムルトキハ産物ノ採取人ニ入林鑑札ヲ交付スヘシ

第四十九條 受託者其ノ林野ノ管理者ヲ選定シタルトキハ其ノ氏名住所ヲ大林區署長ニ届出ツヘシ

第五十條 受託者ニ讓與シタル産物ノ材積又ハ數量豫定額ニ達セサルトキト雖受託者ハ其ノ補足ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十一條 第十三條及第四十二條乃至第四十四條ノ規定ハ林野ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十章 部分林

第五十二條 國有林野法第十九條ノ規定ニ依リ部分林ノ設定ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ實測圖造林豫定圖及造林設計書ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十三條 造林者其ノ權利ヲ處分セムトスルトキハ當事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添付シテ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第五十四條 造林者左ノ事業ヲ爲サムトスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル願書ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

- 一 手入間伐
- 二 防火線又ハ道路ノ廢置又ハ修繕

第五十五條 造林者規約書ヲ作りタルトキハ之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ大林區署長必要ト認ムルトキハ造林者ヲシテ規約書ヲ作ラシムルコトヲ得

第五十六條 材積ヲ以テ分收ヲ爲ストキハ大林區署長ハ造林者ノ立會ヲ以テ其ノ分收スヘキ樹木ヲ指定スヘシ

第五十七條 第十四條第十九條第二十四條第二十五條第四十二條第四十三條及第四十九條ノ規定ハ部分林ニ之ヲ準用ス

第五十八條 (削除)

第五十九條 (削除)

第六十條 左ノ場合ニ於テハ造林者ハ直ニ大林區署長ニ届出ツヘシ

- 一 造林者其ノ氏名住所ヲ變更シタルトキ
- 二 造林者其ノ權利ヲ處分シタル事由カ消滅シタルトキ
- 三 部分林ノ樹木ノ數ニ變更ヲ生シタルトキ

第六十一條 (削除)

第十一章 雜則

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出又ハ作製スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依ルヘシ

第六十三條ノ二 本則ノ規定ニ依リ書類ヲ大林區署長ニ差出サムトスルトキハ小林區署長ヲ經由スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此限ニアラス

一 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル不要存置國有林野賣拂ニ關スルモノ

二 林道貯木場土場苗圃其ノ他森林附屬地ニシテ大林區署ノ直接管理ニ屬スルモノニ關スルモノ

三 二小林區署以上ノ管轄區域ニ亘ル林道ニ關スルモノ

第六十四條 佛堂ノ出願ニ付テハ受持僧侶及信徒總代願書ニ連署連印スヘシ

第六十五條 市町村ノ出願ニ付テハ願書ニ市町村會ノ決議書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六十六條 公用又ハ公益事業ノ爲ニスル公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲出願スル場合ニ於テ監督官聽ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六十七條 本則ニ依ル出願人又ハ契約當事者ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第六十八條 前項ノ出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ總代ヲ選定シ書類ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添付スヘシ

第六十九條 本則ノ規定ニ依リ出願セムトスル者國有林野ニ立入り又ハ之ヲ測量スル必要アルトキハ其ノ事由ヲ申立テ小林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

第六十一條 本則施行前ヨリ存スル部分林ニ就テハ造林者及利害關係人ハ本則施行ノ日ヨリ一年以内ニ第五十八條ニ掲ケタル事項ノ登錄ヲ大林區署長ニ申請スヘシ

第六十二條 本則施行前ニ生シタル事項ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

○社寺保管林規則

明治三十二年八月 勅令第三六一號

第一條 社寺上地ノ森林保管ヲ其ノ社寺ノ願出ニ依リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣ノヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第五條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セムトスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ社用ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第七條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐誤伐冒認墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 稚樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

七 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管林ノ植樹補植手入其ノ他造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スコト

第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主産物ヲ採取スルコトヲ得

根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ採取スルコトヲ得ス

第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲ササル副産物ヲ採取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ採取産物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ産物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第九條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ

二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ

三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管理者保管林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附 則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官林ハ従前ノ例ニ依ル

第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上土地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ノ定ムル保管林ト爲スコトヲ得

○國有林野委託規則

明治三十二年八月 勅令第三六四號

第一條 市町村又ハ市町村内ノ一部ニ國有林野ノ保護ヲ委託スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 委託林野ノ區域ハ市町村ノ位置緣故及其ノ地方ノ狀況ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 委託林野ノ委託期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 委託者ハ委託林野ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐誤伐冒認侵墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 稚樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ手入ヲ爲シ又ハ看守人ヲ配置スルコト

第五條 左ノ委託林野産物ハ之ヲ受託者ニ讓與スルコトヲ得

一 末木枝條及枯倒木

二 手入ノ爲伐採スル樹木

三 自家用薪炭材

四 土地ノ資質ヲ爲ササル副産物

第六條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ委託ヲ解除スルコトヲ得

一 受託者第四條ノ義務ヲ怠リタルトキ

二 受託者其ノ委託林野ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ

三 委託林野ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要生シタルトキ

前項ノ規定ニ依リテ委託ヲ解除シタル場合ニ於テハ損害ヲ賠償セス

第七條 受託者タル市町村又ハ市町村ノ一部ノ住民委託林野ニ損害ヲ加ヘタルトキハ受託者ハ之ヲ賠償スルノ責ニ任ス

附 則

第八條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ニ關シテハ従前ノ例ニ依ル

第九條 本令施行前ニ副産物ノ無料採取ヲ許可シタル森林ハ其ノ採取者ノ出願ニ依リ委託林野ト爲スコトヲ得

五四四

○國有林野部分林規則

明治三十二年八月 勅令第三六二號

第一條 國有林野ニ部分林ヲ設定スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 部分林ノ收益分收ノ部分ハ地代及造林費ヲ參酌シテ農商務大臣之レヲ定ム

第三條 造林者ノ分收部合ハ十分ノ八ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス

第五條 造林者ハ部分林ノ植樹補植手入其ノ他ノ造林ニ必要ナル行爲ヲ爲スヘシ

第六條 造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ植樹ヲ終ルヘシ大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ依リ二年以内ニ於テ植樹期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第七條 造林者植樹準備又ハ手入ノ爲部分林ニ耕作ヲ爲サムトスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 造林者ハ左ノ事項ニ關シ部分林ヲ保護スル義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐誤伐冒認墾其ノ他ノ加害行爲ノ豫防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 種樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

七 造林者ハ左ノ產物ヲ採取スルコトヲ得

一 樹實及菌蕈ノ類

二 部分林設定後天然ニ生育シタル雜木

三 植樹後二十年内ニ於テ手入ノ爲伐採スル樹木

四 部分林設定後天然ニ生育シタル樹木ニシテ雜木ニ非サルモノハ之ヲ部分林ノ樹木ト看做ス

第九條 根株ハ特別ノ契約アル場合ヲ除ク外國ノ所有トス

第十條 部分林ノ收益ハ其ノ樹木ノ賣拂代金ヲ以テ分收ス但國ノ分收スヘキ樹木ヲ保存スル必要アルトキハ材積ヲ以テ分收ヲ爲スコトヲ得

第十一條 代金ヲ以テ分收スルトキハ樹木ノ賣拂ハ當該官廳之ヲ行フ材積ヲ以テ分收スルトキハ造林者ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其ノ分收樹木ノ搬出ヲ終ルヘシ

第十二條 前項ノ搬出期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 大林區署長ハ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ニ於テハ二年以内ヲ限リ搬出期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ延長期間ニ對スル地代ヲ前納セシムヘシ

第十四條 造林者搬出期間内ニ分收樹木ノ搬出ヲ終ラサルトキハ其ノ搬出セサル樹木ハ國ノ所有ニ歸ス

第十五條 造林者ハ森林經濟上利益ナリト認ムル場合ニ限リ造林者ノ請求ニ依リ十年以内ニ於テ部分林ノ存續期間又ハ伐期ヲ變更スルコトヲ得

第十六條 部分林ニ損害ヲ加ヘタル第三者ヨリ賠償トシテ得タル金額ハ分收部合ニ依リ之ヲ分收ス

第十七條 天災其ノ他避クヘカラサル事由ニ依リ造林者契約ノ解除ヲ願出テ之ヲ許可シタル場合亦同部合ニ依リ之ヲ分收ス已ムヲ得サル事由ニ依リ造林者契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

造林者ノ責ニ歸スヘカラサル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

造林者左ノ諸項ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ部分林設定契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ

五四五

- 一 植樹期間ノ始期ヨリ一年ヲ經過スルモ植樹ニ著手セサルトキ
- 二 植樹期間内ニ植樹シタル面積カ總面積ノ二分ノ一ニ及ハサルトキ
- 三 植樹期間延長ノ許可ヲ得タル場合ニ於テ其ノ期間内ニ植樹ヲ終ラサルトキ
- 四 植樹ヲ終リタル後五年ヲ過クルモ成林ノ見込ナキトキ
- 五 造林者其ノ部分林ニ關シテ罪ヲ犯シタルトキ
- 第六條 前條ノ規定ニ依リ部分林設定契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ部分林設定ノ日ニ遡リ地代ヲ徵收シ既植ノ樹木ハ國ノ所有ニ歸ス
- 第七條 造林者部分林ヲ他ノ目的ニ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス部分林ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附則

- 第二十條 明治十一年三月內務省甲第四號布達部分林仕付條例ハ之ヲ廢止ス
- 第二十一條 第二條ノ規定ハ國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニハ之ヲ適用セス
- 第二十二條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ存續期間ノ定ナキモ又ハ其ノ期間本令施行ノ日ヨリ起算シテ八十年ヲ超ユルモノニ付テハ其ノ部分林ノ存續期間及伐期ハ現存スル樹木ノ年齢ヲ參酌シテ農商務大臣之ヲ定ム
- 第二十三條 國有林野法第十九條第二項ノ規定ニ依ル部分林ニシテ天然ニ生育シタル雜木ノ分收ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ樹木ハ部分林ノ樹木ト看做ス

○國有林野部分林規則、社寺保管林規則、國有林野委託規則及

國有林野施行規則ニ依ル事務取扱手續

明治四十年一月 訓令第一二號

第一條 國有林野部分林規則、社寺保管林規則、國有林野委託規則及國有林野法施行規則ニ依ル事務

ハ別ニ定ムルモノノ外本令ニ依リ之ヲ處分スヘシ
第二條 大林區署長左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ處分セムトスルトキハ意見ヲ具シ農商務大臣ニ稟

伺スヘシ

- 一 國有林野境界査定ニ關スル紛議ノ解決及決定セシ境界改定ニ關スルコト
- 二 要存置國有林野賣拂ニ關スルコト
- 三 國有林野施行規則第七條ノ六又ハ第七條ノ九ニ依ル認可ニ關スルコト
- 四 面積十町歩ヲ超ユル國有林野賣拂豫約ニ關スルコト
- 五 本令施行前賣拂豫約ヲ爲セル國有林野及本令施行後稟伺ノ上賣拂豫約ヲ爲セル國有林野ニ關スル事業成功期限延長ノコト
- 六 面積十町歩ヲ超ユル林野ノ賣拂豫約ニ關スル事業方法ノ變更中防風林薪炭林ノ新設又ハ其ノ面積增加許可ノコト
- 七 面積十町歩又ハ期間十箇年ヲ超ユル國有林野年期貸付若ハ年期使用又ハ其ノ轉貸若ハ權利讓渡許可ニ關スルコト
- 八 國有林野ノ交換ニ關スル調査ノコト
- 九 國有林野讓與ニ關スルコト
- 十 部分林、社寺保管林又ハ委託林設定ノコト
- 十一 國有林野法第十九條第二項ニ依ル事實認定ノコト
- 十二 見積價格千圓ヲ超ユル主產物ヲ社寺保管林ノ保管者ニ採取セシメ又ハ委託林ノ受託者ニ讓與スルコト
- 十三 前各號ノ外事ノ重要ノ關係アルモノ又ハ異例ニ屬スルモノヲ處分スルコト

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ大林區署長ハ遲滞ナク意見ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
國有林野ヲ內務省所管ノ土地水面又ハ帝國鐵道線路敷地ニ組替若クハ內務省所管ノ土地水面又ハ帝

國鐵道線路敷地ヲ國有林野ニ編入スル場合ハ前項第二號第三號ノ具申ヲ要セス大林區署長限リ專決

處分スルコトヲ得但シ異例又ハ重要ノ關係アルモノハ處分前稟伺スヘシ

一 社寺境内編入願ニ關シ地方廳ヨリ協議ヲ受ケタル場合ニ於テ編入實測又ハ見込面積一町歩以上

ナルトキ又ハ其ノ協議整ハサルトキ

二 國有林野ヲ他ノ官有地ニ組織スルノ必要アリト認メタルトキ

三 國有林野ノ實拂豫約部分林契約社寺保管林又ハ委託林ノ解除ヲ必要ナリト認メタルトキ

四 國有林野ノ道路河川堤塘溝渠溜池又ハ用水路ニ組織ヲ爲ス場合ハ前項第二號ノ具申ヲ要セス

五 大林區署長限リ之ヲ專決處分スルコトヲ得但シ事ノ重要ノ關係アルモノ又ハ異例ニ屬スルモノ

ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ小林區署長ハ遲滯ナク意見ヲ大林區署長ニ具申スヘシ

一 小林區署長ヲ經由スル願書ヲ進達スルトキ

二 國有林野ノ買受人林野ノ引渡ヲ受ケ領收書ヲ差出サス又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付セサルトキ

三 功拂豫約開墾者國有林野ノ法施行規則若ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ又ハ開墾事業成

功ノ見込ナシト認メタルトキ

四 面積一町歩又ハ期間五箇年ヲ超ユル國有林野ノ借受人若ハ使用人契約期間満了ノ時林野ヲ原狀

ニ復シ若ハ之ニ附屬セシメタル物ヲ收去スルコトヲ怠リタルトキ又ハ其ノ借受人若ハ使用人又

ハ其ノ家族傭人若ハ代理人國有林野ノ法施行規則又ハ契約ニ定メタル事項ニ違反シタルトキ

五 國有林野ノ法施行規則第三十四條ニ依リ國有林野使用ノ區域ヲ制限スルノ必要アリト認メタルト

六 部分林造林者チシテ規約書ヲ作ラシムルノ必要アリト認メタルトキ

七 部分林ニ關シ材積チ以テ分收ヲ爲ス必要アリト認メタルトキ

八 部分林契約社寺保管林又ハ委託林ノ解除ヲ必要ナリト認メタルトキ

九 部分林社寺保管林又ハ委託林ニ看守人ヲ配置スルノ必要アリト認メタルトキ

十 社寺保管林ノ植樹補植手入其ノ他造林ニ必要ナル方法ヲ指定スルノ必要アリト認メタルトキ

十一 委託林ニ手入ヲ命スルノ必要アリト認メタルトキ

十二 第五條 第二條ノ稟伺書又ハ第三條若ハ前條ノ具申書ニハ必要ニ應シ目的物若ハ條件ノ證明書狀況調

査書願書若ハ協議書證據書類計劃書若ハ施業書地圖其ノ他必要ナル書類ノ原本若ハ謄本ヲ添付スヘ

シ

第六條 小林區署長國有林野法施行規則第十七條又ハ第三十五條ノ二ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ五

日以内ニ大林區署長ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ明治四十年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

農商務省令第九號 大正三年八月二十二日

林 區 署

國有林施業案規程左ノ通定ム

國有林施業案規程 第一章 總 則

第一條 要存置國有林ニ付テハ之ヲ法正ナル狀態ニ導キ其ノ利用ヲ永遠ニ保續シ國土ノ保安其他公益

ヲ保持スルノ趣旨ヲ以テ事業區毎ニ施業案ヲ編成スヘシ

第二條 施業案ハ一施業期ノ最終年度ノ前年度ニ於テ之ヲ檢訂スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ臨時

之ヲ行フコトヲ得

第三條 本規程ニ於テ除地ト稱スルハ道路、河川、池沼、溝渠、固定防火線、區劃線、土場、貯木場、不毛地

建物敷地、苗圃、貸付地、賣拂豫約地、採草放牧專用土地等國有林木育成ノ用ニ供セサル土地ヲ請フ

第四條 本規程ニ於テ施業制限地ト稱スルハ保安林、砂防法第二條ニ依ル指定地、部分林、混牧又ハ

混農ノ林業地等法令、契約又ハ慣行ニ依リ施業上ノ制限アル土地ヲ謂フ

第五條 本規程ニ於テ準施制限地ト稱スルハ施業制限地及除地ヲ除クノ外特設試驗林、參考林及國土

ノ保安其ノ他公益ノ爲施業ノ制限ヲ要スル土地ヲ謂フ

第六條 面積ハ町チ單位トシテ歩位迄ヲ示スヘシ

第七條 材積ハ實積ニ依リ四捨五入シテ單位ニ止ムヘシ

第八條 本規程ニ於テ主伐ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該時スル伐採ヲ謂フ

一 更新ノ爲行フ伐採

二 林地チ林木育成以外ノ用ニ供スル爲行フ伐採

三 被害ニ基ク伐採ニシテ跡地ニ造林ヲ要スルモノ

第九條 本規程ニ於テ間伐ト稱スルハ主伐以外ノ伐採ヲ謂フ

第十條 施業案編成ノ豫業ニ屬スル業務左ノ如シ

一 森林ノ區劃

二 地況ノ調査

三 林況ノ調査

四 將來施業見込ノ調査

五 其ノ他施業關係事項ノ調査

第二章 施業案ノ編成

第一節 豫業

第十條 施業案編成ノ豫業ニ屬スル業務左ノ如シ

一 森林ノ區劃

二 地況ノ調査

三 林況ノ調査

四 將來施業見込ノ調査

五 其ノ他施業關係事項ノ調査

前項各號ノ事項ハ之ヲ第一號樣式ノ森林調査簿ニ記載スヘシ

第十一條 事業區ハ森林配置ノ狀況、產物利用ノ程度、交通ノ便否及產物搬出ノ關係等ニ鑑ミ森林經

營上適當ナル區域ニ依リ之ヲ設クヘシ

第十二條 事業區ノ名稱ハ地名ニ依ルヘシ

第十三條 事業區ハ森林ノ狀況及施業上ノ關係ニ鑑ミ之ヲ若干ノ林班ニ區劃スヘシ

第十四條 面積ハ成ルヘク均等ナラシムルヲ旨トシ其ノ過大ニ失スルヲ避クヘシ

第十五條 區劃線ハ成ルヘク河川、峯、谷等天然ノ地形又ハ既設ノ道路、防火線等ニ依リ之ヲ設クヘシ

第十六條 前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ人工ニ依リ之ヲ設クヘシ

第十七條 前項第一項ノ區劃線ニ在リテハ道路又ハ防火線等ニ兼用スヘキ場合ヲ除クノ外伐開チ行ハ

サルモノトス

第十八條 前項第二項ノ區劃線ニ在リテハ伐開チ行フヘシ但シ道路、防火線等ニ兼用スヘキ場合ノ外其ノ幅二

間チ超ユルコトヲ得ス

第十九條 前項ノ伐開ハ當該林分ノ伐期ニ至ル迄視透線ヲ設ケテ之ニ代フルコトヲ得

第二十條 林班境界ノ要所ニハ保存ニ耐ユヘキ標識ヲ設ケ第二號樣式ニ依リ隣接各林班ノ番號ヲ表示

スヘシ

第二十一條 林班番號ハ亞刺比亞數字ヲ用キ成ルヘク伐採方向ニ從ヒ順次之ヲ附スヘシ

第二十二條 一林班内ニ於テ施業上取扱チ異ニスヘキ部分アルトキハ各之ヲ小班ニ區劃スヘシ但シ固定

防火線、河川及伐開チ爲セル區劃線等ハ小班ヲ設ケスシテ別ニ其ノ區域ヲ劃スヘシ

第二十三條 小班ノ記號ハ林班毎ニ平假名ヲ用キ第十七條ニ準シ先ツ林地ヨリ之ヲ附シ次ニ除地ニ及フ

ヘシ但シ小班ニ孕在又ハ隣接セル小面積ノ小班ニシテ將來施業上ノ取扱チ同一ニ爲シ得ル見込ノモ

トス

五五一

ノハ主タル小班ノ記號ニ亞刺比亞數字ヲ附記シテ(い1い2等)其ノ記號ト爲スヘシ

小班ノ境界明瞭ナラサルモノハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ表示スヘシ

第二十條 事業區、林班、小班及小班ト爲ササル除地ハ其ノ境界及面積ヲ測定スヘシ

第二十一條 前條ノ測定ヲ終リタルトキハ周圍測量圖ニ基キ第三號樣式ニ依リ基本圖ヲ調製スヘシ

第二十二條 基本圖ヲ分圖ト爲ス場合ニ於テハ適宜ノ縮尺ニ依リ別ニ全事業區ヲ通覽シ得ヘキ縮圖ヲ調製スヘシ但シ林相圖ニ依リ全事業區ヲ通覽シ得ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第一款 地況ノ調査

第二十三條 地況ハ氣象、地勢、土地及地位ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第二十四條 氣象ハ一事業區ヲ通シ氣溫、濕度、雨量、霜雪、常風及暴風等ニ付調査スヘシ

第二十五條 地勢ハ一事業區ヲ通シ位置、海面高、海岸ヨリノ距離、山脈ノ走向、傾斜ノ概要、河川ノ狀態及比隣ノ狀況等ニ付調査シ小班毎ニ方位、傾斜及比隣ノ狀況ニ付調査スヘシ

傾斜ハ平坦(五度未滿)緩斜(二十度未滿)急斜(三十五度未滿)險阻(四十五度未滿)絶險(四十五度以上ノ五種ニ分ツヘシ)

第二十六條 土地ハ一事業區ヲ通シ基岩ニ付調査シ小班毎ニ土質、深度(淺、中、深)、結合度(堅、軟、鬆)及濕度(乾、潤、濕)ニ付調査スヘシ

第二十七條 地位ハ氣象及土地ノ狀態畧同一ナル地方ヲ通シ五級(第1級乃至第V級)ニ分チテ之ヲ定ムヘシ但場合ニ依リ上中下ノ三級ニ分ツコトヲ得

前項ノ地位ハ一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムルコトヲ得

地位ハ小班毎ニ之ヲ調査スヘシ

第二十八條 林況ハ小班毎ニ樹種、作業種、疎密度、林齡、齡級、成立、材積、平均生長量及林位ニ付調査スヘシ

二十九條 疎密度ハ十分率ヲ用キ之ヲ示スヘシ但シ疎、中、密ノ三ニ分チテ之ヲ示スコトヲ得

第三十條 疎密度十分ノ三未滿ナルモノハ之ヲ散生地トシ全部立木ナキモノ又ハ立木アルモノ之カ爲造林上影響ナキモノハ之ヲ未立木地トス

第三十一條 異齡林ノ林齡ハ平均齡ヲ以テ之ヲ示スヘシ此ノ場合ニ於テハ樹齡ノ範圍ヲモ示スヘシ樹齡ニ著シキ差異アルトキハ其ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第三十二條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ト幼木トノ林齡ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

第三十三條 擇伐喬林及竹林ニ在リテハ其ノ樹齡ノ範圍ノミヲ示スヘシ

第三十四條 數段喬林及中林ノ上木、擇伐喬林並竹林ニ在リテハ齡級ヲ分ツコトヲ要セス

第三十五條 前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ノ老木ト幼木トノ齡級ハ各別ニ之ヲ調査スヘシ

第三十六條 森林ノ成立ニ關シテハ更新及手入ノ方法、生育及被害ノ狀況竝作業ノ沿革等ニ付其ノ概要ヲ調査スヘシ

第三十七條 材積ハ林相及利用程度ニ鑑ミ適當ノ方法ニ依リ之ヲ調査シ第一施業期ニ伐採スヘキ林分ハ特ニ精細ナル方法ニ依リ之ヲ調査スヘシ

第三十八條 樹種ノ混淆セルモノニ在リテハ各樹種ニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ但シ施業案實行上其ノ必要ナキトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條 數段喬林及中林ニ在リテハ上木ト下木ト各別ニ、前更喬林ノ更新期間ニ屬スル林分ニ在リテハ老木ノミニ付其ノ材積ヲ調査スヘシ

第四十條 平均生長量ハ一町歩ノ現在材積ヲ林齡ニテ除シタル商ヲ以テ之ヲ示シ四捨五入シテ單位

以下二位ニ止ムヘシ但シ樹齡ノ範圍ノミヲ示セルモノ、生長ノ休止セルモノ又ハ休止ニ近キモノニ付テハ生長量ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

竹林ノ平均生長量ハ既往ニ於ケル一年平均發生ノ新竹束數ヲ以テ之ヲ示スヘシ

第四十條 第二十七條ノ規定ハ林位ニ付之ヲ準用ス

第四十一條 林況調査ヲ終リタルトキハ其ノ成績ニ基キ第四號様式ニ依リ林相圖ヲ調製スヘシ

第四款

將來施業見込ノ調査

第四十二條 將來ノ施業見込ニ付テハ地況及林況調査ニ基キ小班毎ニ左ニ掲グル事項ノ概要ヲ調査シ

一 事業區ニ對スル將來ノ施業方針ヲ定ムヘシ

二 斫伐ニ關スルコト

三 播種ニ關スルコト

四 手入及撫育ニ關スルコト

五 保護ニ關スルコト

六 其ノ他施業上必要ナルコト

第五款

施業關係事項ノ調査

第四十三條 施業關係事項ノ調査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ爲スヘシ

一 森林行政ニ關スルコト

二 土地所有ノ沿革ニ關スルコト

三 境界及接續地ノ狀況ニ關スルコト

四 森林ニ對スル民情及山稼ノ狀況ニ關スルコト

五 森林保護ニ關スルコト

六 林産物ノ需用供給ニ關スルコト

七 國有林以外ノ林業及他ノ産業トノ關係ニ關スルコト

八 交通及運搬ニ關スルコト

九 勞働者ノ需要供給、賃金及技能ニ關スルコト

十 林産物ノ價格及其ノ販賣上ノ慣習ニ關スルコト

十一 森林ノ作業ニ關スルコト

十二 施業制限ニ關スルコト

十三 既往ノ收支ニ關スルコト

十四 存廢區別變更ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ決定ニ關シ必要ナルコト

十五 其他參考上必要ナルコト

第一節

本業

第四十四條 施業案編成ノ本業ニ屬スル業務左ノ如シ

一 樹種及作業種ノ確定

二 作業級及伐採列區ノ設置

三 輪伐期、回歸年、更新期及整理期ノ確定

四 施業期編入

五 伐採量ノ算定

六 伐採順序ノ確定

七 造林方法ノ確定

八 施業上必要ナル施設ノ計畫

九 收穫及造林基案ノ調製

十 施業案説明書ノ調製

第四十五條 樹種ハ地況及林況ノ現狀、第四十二條及第四十三條調査ノ結果並左ノ各號ニ付考量ノ上

之ヲ定ムヘシ

一 當該地方又ハ類似ノ土地氣候ヲ有スル他ノ地方ニ於ケル造林ノ成績及天然生ノ生長狀態

二 材積生長及價格生長ノ長否

三 造林及保護ノ難易

四 作業級設置ノ關係

第四十六條 作業種ハ左ノ七種ニ分ツ

一 皆伐喬林作業

二 數段喬林作業

三 前更喬林作業

四 擇伐喬林作業

五 矮林作業

六 中林作業

七 竹林作業

前項各號ニ屬セサル作業種ハ便宜之下類似ノ作業種ト看做シ取扱フヘシ

第四十七條 作業種ハ地況及林況ノ現狀、第四十五條ニ依リ確定シタル樹種、林業ノ集約度並施業制限ノ事項等ニ鑑ミ之ヲ定ムヘシ

第四十八條 作業級ハ一事業區中同一ノ作業種及同一ノ輪伐期ニ依リ施業シ得ヘキ林分ヲ集合シテ之ヲ設クヘシ但シ作業級組成ノ要素ニ大差アル數種ノ林分交互錯綜セルモノ又ハ獨立ノ伐採順序ヲ設クルコト能ハサルカ如キ小面積ノ林分ニ付テハ各別ニ作業級ヲ設クルコトヲ要セス

施業制限地及準施業制限地ニ於ケル作業級ハ森林法施行手續第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ設クヘシ

第四十九條 伐採列區ハ輪級配置ノ整理、木材ノ需要供給、產物搬出ノ關係及森林間接ノ効用等ニ鑑

ミ之ヲ設クヘシ

第五十條 伐採列區ノ番號ハ一事業區ヲ通シ羅馬數字ヲ用キテ之ヲ附スヘシ

第五十一條 輪伐期ハ最多ノ純益ヲ得ルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ但シ特ニ國ニ必要ナル材種ノ生産

及間接ノ効用ヲ目的トスル森林ニ付テハ之ニ適應スル輪伐期ヲ選定スヘシ

第五十二條 數段喬林及中林ノ上木ノ輪伐期ハ下木輪伐期ノ整數倍トスヘシ

第五十三條 擇伐喬林ノ回歸年ハ其ノ輪伐期ノ整分トスヘシ

第五十四條 林相ノ改良ヲ要スル爲輪伐期ヲ以テ取扱フヲ不得策トスル森林ニ在リテハ特ニ整理期ニ依リ施業スヘシ

前項ノ整理期ハ現在林ノ整理後收穫ノ中斷セサル範圍内ニ於テ更新上及經濟上最有利ナルコトヲ期

シ之ヲ定ムヘシ

第四款 施業期編入

第五十五條 一施業期ハ十年トシ各施業期ニハ第一期ヨリ順次ニ羅馬數字ヲ用キテ番號ヲ附スヘシ

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル林分ハ成ルヘク第一期施業期ニ編入スヘシ

一 既ニ輪伐期ニ達シタルモノ及今後一施業期間ニ輪伐期ニ達スヘキモノ

二 林相及齡級配置ヲ整理スル爲速ニ伐採スヘキモノ

三 區劃線及防火線設置、防風豫備其ノ他施業ノ必要ニ依リ速ニ伐採スヘキモノ

第五十七條 伐採順序又ハ林相改良ノ必要ニ依リ一輪伐期又ハ整理期ノ始ニ於テ伐採シ同期間ニ於テ

更ニ伐採スヘキ林分ハ之ヲ相當施業期ニ編入スヘシ

第五十八條 一輪伐期間又ハ整理期間ニ伐採スルヲ不利ト認ムル林分ハ當該期間ノ施業期ニ編入スヘ

カラス

第五款

伐採量ノ算定

第五十九條 伐採量ハ第一施業期ニ限り主伐ト間伐トニ區別スヘシ
第六十條 主伐ニ係ル伐採量ハ主トシテ面積ヲ標準トシ各施業期ノ收入ニ大差ナカラシムルヲ期シ
之ヲ定ムヘシ

施業上特別ノ事由アル場合ニ於テハ材積ヲ標準トシ其ノ伐採量ヲ定ムルコトヲ得

第六十一條 一施業期ノ面積ハ當該作業級各施業期編入面積合計ヲ輪伐期、回歸年又ハ整理期ニテ除
シタル商ノ十倍ヲ標準トスヘシ但シ輪伐期、回歸年又ハ整理期ニシテ十年未滿ノ端數アル場合ニ於
テハ最終ノ施業期ノ面積ハ此ノ商ノ端數倍ヲ標準トスヘシ

大面積ノ散生地ハ之ヲ控除シテ前項標準面積ヲ算定スヘシ

第六十二條 第六十條第二項ニ依リ材積ヲ標準トシテ伐採量ヲ定ムル場合ニ於テハ第一施業期ノ主伐
材積ハ當該作業級總材積ヲ輪伐期又ハ整理期ニテ除シタル商ニ其ノ最近連年生長量ノ半數ヲ加ヘタ
ルモノノ十倍ヲ標準トスヘシ

第六十七條ニ依リ調査セル臨時伐採量ニシテ材積平分上著シキ影響アリト認ムルトキハ當該作業級
ニ屬スル相當分量ヲ前項ノ標準量ヨリ控除スヘシ

第六十三條 各施業期ニ編入セル合計面積カ第六十一條ノ標準面積ニ比シ著シキ過不足アルトキハ適
當ノ林分ヲ後施業期ニ繰下ケ又ハ前施業期ニ繰上ケ標準面積ニ近カラシムヘシ但シ施業上必要アル
場合ニ於テハ標準面積ノ百分ノ二十ヲ超エサル面積ヲ増減スルコトヲ得

前項ノ規定ハ材積ヲ標準トスル場合ニ之ヲ準用ス

第六十四條 竹林ニ於ケル毎年ノ伐採量ハ法正蓄積ヲ推算シ之ヲ輪伐期ニテ除シタル商ヲ標準トシ現
在林相及新竹發生ノ狀況ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第六十五條 第一及第二施業期ニ編入セル林分ノ主伐材積ハ平均伐期齡ニ依リ之ヲ算定スヘシ但シ第
三十九條第一項但書ニ依リ平均生長量ノ計算ヲ省略セル林分ニ在リテハ現在材積ヲ以テ主伐材積ト
看做スヘシ

第六十六條 間伐ニ係ル伐採量ハ第四十二條第一號、第三號及第四號ノ調査ニ基キ第一施業期ニ於テ
其ノ實行ヲ要スヘキ林分ヲ調査シテ之ヲ定メ其ノ面積ハ實行區域ヲ以テ之ヲ示スヘシ
第六十七條 第一施業期ニ於ケル豫見シ難キ臨時ノ伐採量ハ既往ニ於ケル平均年額ノ十倍ヲ標準トシ
一事業區ヲ通シテ之ヲ定ムヘシ

第六十八條 伐採ノ順序ハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ定ムヘシ
第六款 伐採順序ノ確定
一 齡級配置ノ整理
二 斫伐及運材事業ノ便益
三 造林上ノ便益
四 各種危害ノ豫防

第七款 造林方法ノ確定
第六十九條 造林方法ハ左ノ事項ヲ調査シ作業級毎ニ之ヲ定ムヘシ
第七款 造林方法ノ確定
一 種苗供給ニ關スルコト
二 地拵ニ關スルコト
三 播種ニ關スルコト
四 補植ニ關スルコト
五 手入及撫育ニ關スルコト

第八款 施業上必要ナル施設ノ計畫
第七十條 左ノ事項ニ關スル設備又ハ工事ニシテ第一施業期ニ施設ノ必要アルモノハ其ノ大體ノ計畫
ヲ立ツヘシ
一 管理及保護ニ關スルコト
二 造林ニ關スルコト

三 利用ニ關スルコト
 四 國土保安及治水ニ關スルコト
 五 其ノ他施業上必要ナルコト
 第七十一條 前條第三號ニ關スル計畫ハ左ノ各號ニ付概略ノ調査ヲ爲シ全般ニ關スル計畫ヲ豫定シタル後第一施業期ニ實行ヲ要スル分ニ付之ヲ爲スヘシ
 一 利用區域内ニ於ケル林地ノ面積、年伐量及材種別搬出量(貯木場ニ付テハ材種別貯木量)
 二 事業ノ種類、程度、數量及經費
 三 森林利用上ニ及ホス影響
 四 損益計算
 五 事業種類選定ノ理由

第九款

收穫及造林基案ノ調製

第七十二條 收穫基案ハ第四十五條乃至第六十八條ノ調査ニ基キ第五號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
 第七十三條 造林基案ハ森林調査簿、收穫基案及第六十九條ノ調査ニ基キ作業級毎ニ第一施業期ニ於ケル造林事業ヲ定メ第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十款

施業案説明書ノ調製

第七十四條 施業案説明書ニ於テハ左ノ各項ニ付記述スヘシ
 一 地況及林況並其ノ調査ノ方法
 二 施業關係事項
 三 森林區劃

(イ)事業區ノ面積、林班數、林班ノ各面積及區劃設計ノ理由
 (ロ)伐採列區設定ノ理由
 (ハ)小班ノ數及其ノ平均面積

四 將來ノ施業計畫
 (イ)樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期選定ノ理由
 (ロ)伐採量及其ノ算定ノ方法
 (ハ)伐採順序確定ノ理由
 (ニ)造林方法及其ノ確定、造林面積並造林費概定額
 (ホ)通路、搬路、貯木場、防火線、苗圃、砂防植栽其ノ他施業上必要ナル施設ノ計畫
 (ヘ)將來ノ收支見込
 (ト)施業案實行ニ關スル意見
 (チ)其ノ他必要ナル事項

五 施業案編成ノ功程及經費
 施業案説明書ニハ事業區ノ位置ヲ明ニシ且行政區劃及地形ヲ略知シ得ヘキ地圖ヲ添附スヘシ

第二章

施業案實行ノ照査

第七十五條 斫伐及造林實行ノ結果ハ第七號及第八號様式ニ依リ照査簿ヲ調製シテ之ヲ記入シ事業豫定案編成及施業案檢訂ノ資料ト爲スヘシ

第七十六條 施業案實行ノ結果施業案説明書記載ノ事項ニ關シ訂正又ハ追補ヲ要スル事項及其ノ他施業案ノ檢訂上必要ナル事項ハ第九號様式ニ依リ施業沿革史ヲ調製シ之ヲ記入スヘシ

第七十七條 斫伐照査簿、造林照査簿及施業沿革史ハ事業區毎ニ之ヲ調製スヘシ

第四章

施業案ノ檢訂

第七十八條 施業案ノ檢訂ニ關シ本章ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 施業案ノ檢訂ニ付テハ斫伐照査簿、造林照査簿、施業沿革史、豫定案實行簿其ノ他必要ナル參考資料ニ依リ當該施業期間ニ於ケル斫伐、造林及第七十條ニ依リ施設ニ關スル計畫ノ實行狀況ヲ調査シ施業案ノ適否ヲ審査スヘシ

第八十條 森林區劃及基本圖ノ補修方法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 森林區劃ニ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ部分ニ對シ區劃設計ヲ爲シ之カ測定ヲ爲スヘシ
 二 林班中分割シタルモノノ番號ハ原番號ノ支番號(71, 12等)ヲ附シ删除シタルモノハ缺番號トシ追
 加増設シタルモノハ終尾ノ次番號ヨリ順次ニ之ヲ附スヘシ但シ全般ニ互リテ補習ヲ要スルトキ
 ハ總テ林班番號ノ改訂ヲ爲スヘシ
 三 基本圖ハ森林區劃中小部分ノ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ部分ニ對シ之ヲ補修シ大部分ノ變更ヲ
 爲シタルトキハ新ニ之ヲ調製スヘシ
 第八十一條 檢訂ニ關スル事項ノ調査ヲ終リタルトキハ新ニ森林調査簿、林相圖、收穫基案及造林基
 案ヲ調製スヘシ
 第八十二條 施業案説明書ニハ從前ノ記載事項中異動アリタルモノ及變更又ハ追補シタルモノヲ記載
 スヘシ

第五章 雜則

第八十三條 大林區署長ハ施業案ノ編成ニ關スル業務實行ニ付其ノ署員中ヨリ編成員ヲ選定シ施業案
 ニ關スル業務ヲ處理セシムヘシ
 第八十四條 大森區署長ハ各課長及造林、利用並土木業務擔任ノ各上席官吏ヲシテ其ノ擔任業務ニ關
 スル事項ニ付施業案編成ニ參與セシムヘシ
 大林區署長ハ前項ノ官吏ヲ施業案編成審議員ニ命ジ施業案編成ニ關スル事項ヲ審議セシムヘシ
 第八十五條 大林區署長ハ施業案編成員ヲシテ事業區毎ニ豫メ左ノ事項ヲ概查セシメ施業計畫ニ付指
 揮ヲ受ケシムヘシ
 一 事業區ノ面積及設定理由
 二 地況及林況
 三 事業區ノ位置及林班區劃
 四 施業關係事項

五 樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期
 六 第一施業期編入見込ノ箇所、面積及材積
 七 伐採順序
 八 造林計畫
 九 施業上必要ナル施設ノ企畫
 十 收支關係
 十一 其ノ他施業案編成上必要ナル事項
 第八十六條 大林區署長ハ施業案編成審議員ヲシテ施業案編成員ノ概查シタル前條ノ事項ニ付審議セ
 シメ施業ノ方針ヲ決定スヘシ
 大林區署長ハ當該事業區ノ上席編成員、當該小林區署長及其ノ他必要ト認ムル官吏ヲシテ前項ノ審
 議ニ參與セシムヘシ
 第八十七條 大林區署長前條ニ依リ施業ノ方針ヲ決定シタルトキハ直ニ之ヲ報告シ編成員ヲシテ其ノ
 方針ニ基キ編成ノ業務ヲ續行セシムヘシ
 第八十八條 前二條ノ規定ハ施業案編成中施業方針ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス
 第八十九條 一事業區ノ施業案編成ヲ終リタルトキハ大林區署長ハ直ニ之ニ關スル圖案簿表(基本圖
 ナ除ク)ノ謄本ヲ進達シ認可ヲ受ケヘシ
 大林區署長前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ圖案簿表ノ謄本ヲ小林區署長ニ交付スヘシ
 第九十條 大林區署長ハ施業案ノ檢訂ニ從事スル官吏ヲシテ左ノ各號ニ付補修又ハ變更ノ要否及其ノ
 結果ニ基ク伐採量ノ増減ヲ調査シ指揮ヲ受ケシムヘシ
 一 事業區及林班ノ區劃
 二 樹種、作業種、輪伐期、回歸年、更新期及整理期
 三 伐採列區